福里遺 跡 大谷口遺跡 北 池 向 遺 跡 山田辻畑遺跡

瀬戸内市道南北線建設に伴う発掘調査

2009

瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会 瀬 戸 内 市 教 育 委 員 会

福里遺 跡 大 谷 口 遺 跡 北 池 向 遺 跡 山田辻畑遺跡

瀬戸内市道南北線建設に伴う発掘調査

2009

瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会 瀬戸内市 教 育 委 員 会

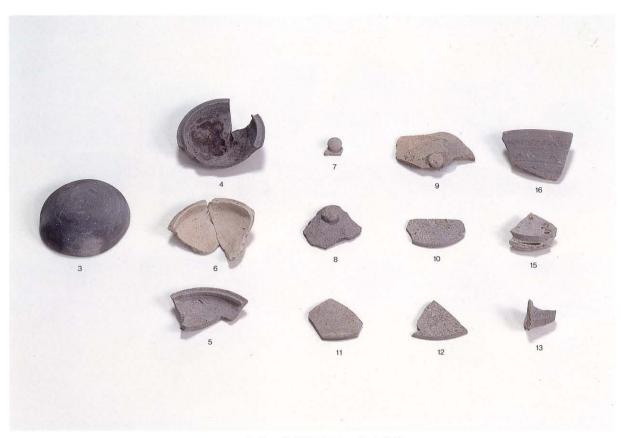
遺跡周辺航空写真(南上空から)



1 大谷口遺跡遠景(北上空から)



2 山田辻畑遺跡遠景(南上空から)

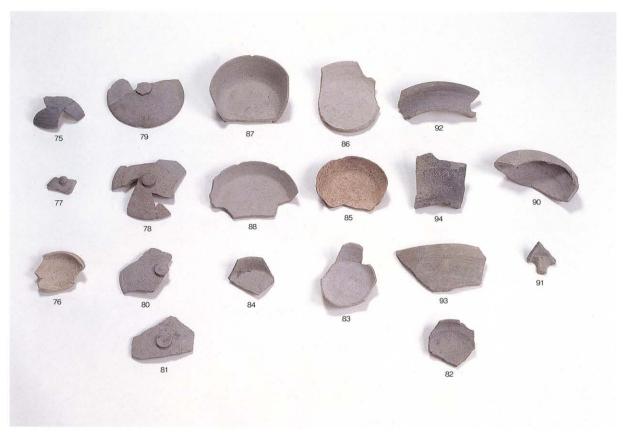


1 大谷口遺跡調査区1出土遺物



2 大谷口遺跡調査区 4 出土遺物

# 巻頭図版 4



1 大谷口遺跡調査区9出土遺物



2 山田辻畑遺跡出土遺物

瀬戸内市道南北線は、長船町土師と邑久町山手を結んで、既存道路と連結する延 長約4キロの基幹道路として計画されました。

一方、計画地内には、福里遺跡、大谷口遺跡、北池向遺跡、山田辻畑遺跡の4つの遺跡が存在することから、遺跡の保護・保存について関係機関と繰り返し協議してきましたが、遺跡の現状保存が困難な部分については発掘調査を行い、記録保存の措置を講じることとなりました。

発掘調査にあたり、専門委員並びに瀬戸内市関係行政機関の職員からなる瀬戸内 市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会を設置し発掘調査及び資料整理を行ってきま した。

発掘調査の結果、大谷口遺跡からは、多量の須恵器や窯壁が出土しました。また、特殊な遺物として円面硯も出土しました。このことから、遺跡付近に新たに須恵器の窯跡が存在する可能性が高まりました。また、山田辻畑遺跡ではヤマトシジミで構成される縄文時代の貝塚を初めて検出するなどの成果をあげることができました。

今回の調査成果が、地域史解明の資料として、また文化財保護の一助として活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、発掘調査の実施・報告書の作成にあたりまして、瀬戸内市 道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会の先生方から、有益なご指導・ご助言を賜りま した。また、岡山県教育委員会をはじめ関係各位、さらに地元の方々からも多大な ご協力を賜りました。関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

平成 21 年 3 月

瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会 委員長(瀬戸内市教育委員会教育長)

日 下 弘 海

# 例 言

- 2. 福里遺跡は瀬戸内市長船町土師地内、大谷口遺跡は瀬戸内市長船町土師・邑久町北池地内、北池 向遺跡は瀬戸内市邑久町北池地内、山田辻畑遺跡は瀬戸内市邑久町山手地内に所在している。
- 3. 発掘調査及び本報告書の作成は、大谷博志が担当して実施した。調査面積は、1.823 ㎡である。
- 4. 本報告書掲載の巻頭図版の空中写真撮影は、島写真事務所に委託した。
- 5. 本報告書の遺物の写真撮影は、有限会社柳生写真館に委託した。
- 6. 本報告書に使用した遺構図面のトレース及び出土遺物の実測・拓本・トレースについては、一部 を除きフジテクノ有限会社に委託した。
- 7. 本調査で出土した遺物の胎土分析は、岡山理科大学自然科学研究所講師白石純氏に依頼し有益なご教授を得るとともに成果につい付載の報告文をいただいた。記して厚くお礼申し上げます。
- 8. 発掘調査で出土した出土遺物及び実測図・写真等は瀬戸内市教育委員会社会教育課(岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓 4911)に管理保管している。
- 9. 本書をまとめるにあたっては、以下の方々及び機関の協力を得た。記して感謝の意を表します。 
  亀田修一、島隆諦、白石純、富岡直人、西井洋之、光永真一、岡山県教育委員会、岡山理科大学

# 凡例

- 1. 本報告書に使用したレベルは、すべて海抜高である。
- 2. 本書に使用した方位は、調査区配置図は真北で、調査区の平面図はすべて磁北である。
- 3. 図面縮尺については明記しており、主なものについては以下のように統一している。

遺構

調査区配置図: 1/500 調査区平断面図: 1/50 · 1/100

遺物

土器: 1/4 土製品: 1/4 石器: 1/1

4. 掲載遺物については、土器・土製品・石器に分けて通し番号を付け、土器以外には下記略号が番号の前に付している。

土製品: C 石器 S

- 5. 図版のうち遺物写真に付した番号は、挿図の遺物番号と一致する。
- 6. 遺物断面の黒塗は須恵器、白抜きは縄文土器・土師器、右斜め斜線は土製品、左斜め斜線は石器 を示す。
- 7. 土層断面に使用した土色は、調査員の記述に従った。
- 8. 遺物の色調は、『新版標準土色帖』に従った。
- 9. 本報告書の第2図は『改訂岡山県遺跡地図』(第6分冊岡山地区)を複製・加筆したものである。
- 10. 本報告書の時代区分・時期区分は一般的な政治史区分に準拠し、それを補うために世紀などを併用している。

# 目 次

卷頭図版		
序		
例言		
凡例		
目次		
第1章	遺跡の位置と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第1節	地理的環境 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	1
第2節	歷史的環境 ····	3
第2章	調査の経過及び体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
第1節	調査に至る経過	7
第2節	調査の経過・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
第3節	調査の体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	9
第4節	報告書の作成 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第3章	調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第1節	福里遺跡	13
第2節	大谷口遺跡	19
第3節	北池向遺跡	-
第4節	山田辻畑遺跡	
第4章	まとめにかえて ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第1節	遺跡の意義について(	67
第2節	出土遺物について ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	69
付載	大谷口遺跡出土須恵器の胎土分析 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
遺物観察表	表 {	89
図版	,	
報告書抄鈴	录	

# 図 目 次

第 1 図	遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
第 2 図	周辺の遺跡分布図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
第 3 図	福里遺跡調査区配置図	15
第 4 図	福里遺跡調査区1東壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17
第 5 図	福里遺跡調査区2西壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17
第 6 図	福里遺跡調査区3東壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17
第7図	福里遺跡調査区4東壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	17
第 8 図	大谷口遺跡調査区配置図(1)	25
第 9 図	大谷口遺跡調査区配置図(2)	27
第 10 図	大谷口遺跡調査区 1-1 東壁・西壁・南壁断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	29
第 11 図	大谷口遺跡調査区 1-2 東壁・西壁・南壁断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	30
第 12 図	大谷口遺跡調査区2北東壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	31
第 13 図	大谷口遺跡調査区3東壁断面図	31
第 14 図	大谷口遺跡調査区 4-1 南壁断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	31
第 15 図	大谷口遺跡調査区5南壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	33
第 16 図	大谷口遺跡調査区 6-1 北壁断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	33
第 17 図	大谷口遺跡調査区 6-2 西壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	33
第 18 図	大谷口遺跡調査区7東壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	35
第 19 図	大谷口遺跡調査区8平面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	35
第 20 図	大谷口遺跡調査区9平面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	37
第 21 図	大谷口遺跡調査区9南西壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	37
第 22 図	大谷口遺跡調査区 10 西壁断面図	39
第 23 図	大谷口遺跡調査区 10 平面図	39
第 24 図	大谷口遺跡調査区 11 東壁断面図	39
第 25 図	大谷口遺跡調査区 12 東壁断面図	41
第 26 図	大谷口遺跡調査区 13 東壁断面図	41
第 27 図	大谷口遺跡調査区 14 西壁断面図	43
第 28 図	大谷口遺跡調査区 15 西壁断面図	43
第 29 図	大谷口遺跡調査区 17 東壁断面図	
第 30 図	北池向遺跡調査区配置図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	49
第 31 図	北池向遺跡調査区1東壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	51
第 32 図	北池向遺跡調査区2東壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	51
第 33 図	北池向遺跡調査区3東壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
第 34 図	北池向遺跡調査区4東壁断面図 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	53
第 35 図	北池向遺跡調査区5東壁断面図	53

第 36 図	山田辻畑遺跡調査区配置図 · · · · · · · · 5	7					
第 37 図	山田辻畑遺跡調査区1西壁断面図 · · · · · · · 5	9					
第 38 図	山田辻畑遺跡調査区2北壁断面図 ・・・・・・・・・・・・・・ 5	9					
第 39 図	山田辻畑遺跡調査区3東壁断面図(調査区3東拡張区)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
第 40 図	山田辻畑遺跡調査区3中央断面図 · · · · · · 6						
第 41 図	山田辻畑遺跡調査区3平面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
第 42 図	山田辻畑遺跡調査区3東壁断面図 · · · · · · · 6						
第 43 図	山田辻畑遺跡調査区3貝塚西壁断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
第 44 図	山田辻畑遺跡調査区4北壁断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
第 45 図	山田辻畑遺跡調査区5北壁断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
第 46 図	大谷口遺跡調査区1出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
第 47 図	大谷口遺跡調査区4出土遺物(1) … 7						
第 48 図	大谷口遺跡調査区 4 出土遺物 (2) · · · · · · · · · · · · · · · · · 7						
第 49 図	大谷口遺跡調査区4出土遺物(3)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
第 50 図	大谷口遺跡調査区4出土遺物(4) … 7						
第 51 図	大谷口遺跡調査区 5·6·12·17 出土遺物 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
第 52 図	大谷口遺跡調査区9出土遺物(1) … 7						
第 53 図	大谷口遺跡調査区9出土遺物(2) · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
第 54 図	大谷口遺跡出土石器 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·						
第 55 図	山田辻畑遺跡調査区3出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	79					
	図 版 目 次						
巻頭図版	1 遺跡周辺航空写真						
卷頭図版	2 大谷口遺跡遠景・山田辻畑遺跡遠景						
巻頭図版	3 大谷口遺跡調査区1出土遺物・大谷口遺跡調査区4出土遺物						
巻頭図版	4 大谷口遺跡調査区9出土遺物·山田辻畑遺跡出土遺物						
図版 1	福里遺跡調査区1完掘状況・調査区2土壙1調査状況・調査区2完掘状況						
図版 2	福里遺跡調査区3 完掘状況・調査区3 W 完掘状況・調査区4 完掘状況						
図版 3	福里遺跡調査区4東壁土層断面・調査区4W 完掘状況・調査区3重機掘下げ状況						
図版 4	大谷口遺跡調査区北部近景・調査区中央部近景・調査区南部近景						
図版 5	大谷口遺跡調査区 1-1 東壁土層断面・調査区 1-1 西壁土層断面・調査区 1-2 西壁土層断面						
図版 6							
図版 7	大谷口遺跡調査区 4-2 遺物出土状況・調査区 4-2 遺物出土状況・調査区 4-2 遺物出土状況						
図版 8	版 8 大谷口遺跡調査区 4-2 炭化物検出状況・調査区 4-2 破礫集中状況・調査区 4-1 調査状況						
図版 9	版 9 大谷口遺跡調査区 5 南壁土層断面・調査区 6-1 完掘状況・調査区 6-2 完掘状況						
図版 10	大谷口遺跡調査区7完掘状況・調査区8柱穴1断面・調査区9完掘状況						

図版 11	大谷口遺跡調査区 9 西壁土層断面・調査区 10 完掘状況・調査区 11 東壁土層断面
図版 12	大谷口遺跡調査区 12 完掘状況・調査区 12 東壁土層断面・調査区 13 東壁土層断面
図版 13	大谷口遺跡調査区 14 西壁土層断面・調査区 15 完掘状況・調査区 15 西壁土層断面
図版 14	大谷口遺跡調査区 16 完掘状況・調査区 16 西壁土層断面・調査区 17 東壁土層断面
図版 15	北池向遺跡調査区1調査状況・調査区2完掘状況・調査区3完掘状況
図版 16	北池向遺跡調査区3土壙完掘状況・調査区5完掘状況・調査区近景
図版 17	山田辻畑遺跡遠景・調査区1・調査区1
図版 18	山田辻畑遺跡調査区2東壁土層断面·調査区2完掘状況
図版 19	山田辻畑遺跡調査区1・2 近景・調査区3 土壙1 検出状況・調査区3 土壙1 完掘状況
図版 20	山田辻畑遺跡調査区3完掘状況・調査区3貝塚検出状況・調査区3貝塚検出状況
図版 21	山田辻畑遺跡調査区3貝塚調査状況・調査区3貝層断面・調査区3西壁土層断面
図版 22	山田辻畑遺跡調査区4完掘状況・調査区5完掘状況・調査区5北壁土層断面
図版 23	大谷口遺跡調査区1出土遺物・調査区4出土遺物(1)
図版 24	大谷口遺跡調査区4出土遺物(2)
図版 25	大谷口遺跡調査区4出土遺物(3)
図版 26	大谷口遺跡調査区4出土遺物(4)・調査区5・6・12・17・調査区9出土遺物(1)
図版 27	大谷口遺跡調査区9出土遺物 (2)・大谷遺跡出土石器・山田辻畑遺跡調査区3出土遺物 (1)
図版 28	山田辻畑遺跡調査区3出土遺物(2)・参考資料 亀ヶ原1号窯跡出土遺物
	写 真 目 次
写真 1	福里遺跡周辺航空写真
写真 2	大谷口遺跡調査区 1 調査状況 24
写真 3	北池向遺跡遠景
写真 4	北池向遺跡調査区 5 調査状況 · · · · · · 48

 写真 5
 山田辻畑遺跡周辺航空写真
 56

 写真 6
 山田辻畑遺跡調査区 3 貝塚調査状況
 66

 写真 7
 山田辻畑遺跡調査区 3 貝塚検出状況
 66

# 第1章 遺跡の位置と環境

### 第1節 地理的環境

瀬戸内市は、岡山県の東南部に位置し、西は岡山市、北は備前市に接している。面積は、125.51 km である。市内の西端を岡山県三大河川の吉井川が流れ、吉井川の左岸には、長船・邑久地域に肥沃な平野部が広がり、市街地と田園地帯が広がるほか、東部地域や海岸部は丘陵地となっている。南部は、瀬戸内海に面し、島嶼や海岸等の自然景観に恵まれている。

市内の土地利用現況は、西端を流れる吉井川とその支流の干田川、千町川の堆積作用によって平坦な沖積平野が開け、市街地、水田地帯として利用されている。邑久駅及び市役所周辺、長船駅及び長船支所周辺では、近年の宅地開発により都市化が進んでいる。農地としては、沖積平野で主に水田耕作、丘陵地の斜面で畑や果樹園として利用されている。山林については、瀬戸内市を東西方向に横断する形で広がり全面積の約半分を占めている。

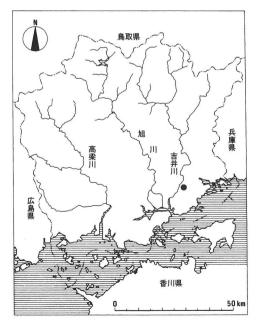
福里遺跡は、長船町のほとんどを含む長船平野の東部南縁部に所在する。この平野は、西を吉井川に遮られ北・東・南を高山、西大平山、東大平山、甲山、桂山などの標高 100m~300m の山に囲まれている。平野を貫いて干田川が西流している。現在の干田川は、ほぼまっすぐに流れているが、もともとは蛇行しており元禄三年(1690)頃に改修され現在の位置になったという記録がある。(註1)

大谷口遺跡は、長船町の宮下集落から邑久町の北池集落に抜ける峠道の南側谷部を中心に所在する。この峠道は近年まで行商や生活道として利用されていたことを集落に住む古老から聞いている。また、ここから邑久町水落集落につながる古道があり、虫明、牛窓方面からの往来もあった。西に標高163mの甲山、東に標高187mの桂山に挟まれた海抜高6~10mの谷部を階段状に開墾した土地で平

坦部はあまりない。古くはため池を利用して水田耕作が行われていたが、近年では一部ぶどうなどの果樹園に変更されている。

北池向遺跡は、邑久町北池集落南側で標高 100~150mの山の北裾、海抜高 6~8 mの丘陵裾部に所在する。南の丘陵中腹の谷部に造られたため池を利用し畑や水田耕作がされていたが、近年ではぶどうが栽培され果樹園が多くなっている。

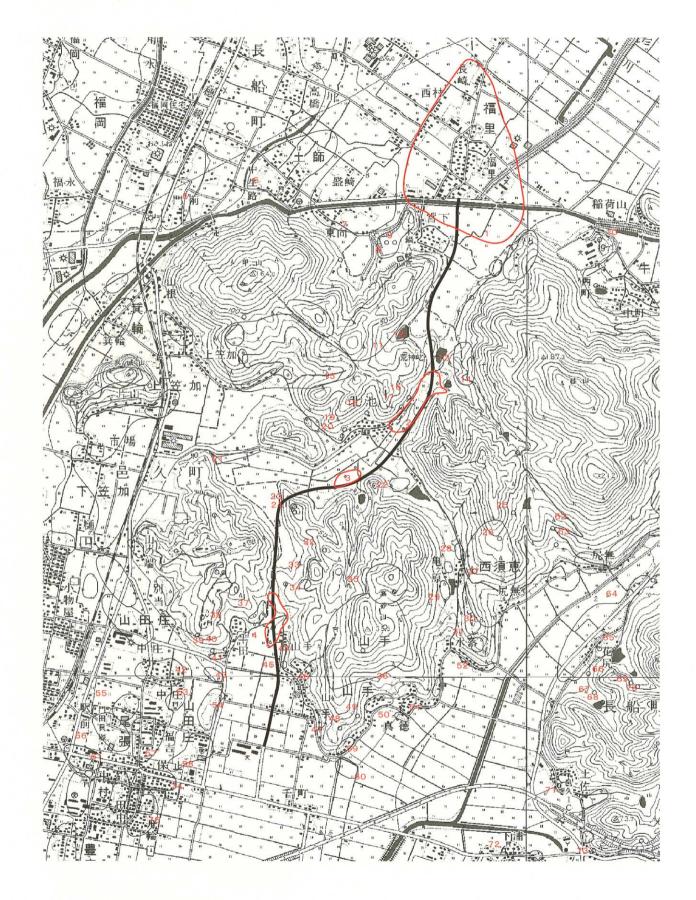
山田辻畑遺跡は、邑久町山田庄の千町平野北側の丘陵端部に所在し、現在は大部分が畑地として利用されている。遺跡の東には、標高 135m の高砂山があり南には、広大な千町平野が広がり水田耕作が盛んに行われている。千町平野の西部の微高地や周辺の丘陵裾部に古くからの集落が点在している。



第1図 遺跡位置図

註

(1) 小林久磨雄「干田川」『改訂邑久郡史』上卷 邑久郡史刊行会 1953



第2図 周辺の遺跡分布図 (1/25,000)

1	福里遺跡	16 荒神癿1号墳	31 水落古墳	46 山手東谷遺跡	61 堂免遺跡
2	大谷口遺跡	17 北池3号墳	32 山手弁財天 3 号墳	47 山手南ヶ市遺跡	62 比丘尼岩下窯
3	北池向遺跡	18 北池2号墳	33 山手才五郎山古墳群	48 山手魚ヶ山五輪塔	63 亥子田谷2号窯
4	山田辻畑遺跡	19 北池4号墳	34 山手休所古墳	49 真徳古墳	64 花尻遺跡
5	土師細工原遺跡	20 北池1号墳	35 八木山古墳群	50 真徳貝塚B	65 青木1号窯跡
6	土師遺跡	21 北池堤防跡	36 高砂山古墳群	51 真徳貝塚A	66 花尻南1号窯跡
7	土師東遺跡	22 北池亀ヶ原遺跡	37 山田庄郷免遺跡	52 本庄前田遺跡	67 花尻南2号窯跡
8	木鍋山遺跡	23 山手弁財天1号墳	38 山田庄半田遺跡	53 山田庄本神遺跡	68 花尻南 3 号窯跡
9	木鍋山窯跡	24 山手弁財天 2 号墳	39 山田庄宮下貝塚	54 オンザ遺跡	69 佐府池上池1号窯跡
10	牛文茶臼山古墳	25 亥子田谷 1 号窯	40 山田庄宮阪貝塚	55 山田庄東光院遺跡	70 佐府池上池 2 号窯跡
11	土師茶臼山古墳群	26 亀ヶ原1号窯跡	41 山田庄宮坂遺跡	56 門田貝塚	71 土佐貝塚
12	荒神西池遺跡	27 亀ヶ原西窯跡	42 山田庄堀内遺跡	57 山田庄福吉遺跡	72 本庄明見貝塚
13	荒神東池遺跡	28 亀ヶ原北遺跡	43 山田庄川屋遺跡	58 山田庄北畑遺跡	73 石仏貝塚
14	土師比丘尼岩古墳群	29 亀ヶ原野神遺跡	44 山手斎木北遺跡	59 山手田和遺跡	74 水南遺跡
15	上笠加古墳群	30 桂山・亀ヶ原古墳郡	群 45 山手斎木南遺跡	60 真徳貝塚	75 尾張城跡

# 第2節 歴史的環境

市道南北線建設に伴い発掘調査を実施した4ヶ所の遺跡は、瀬戸内市内の東部に形成された長船町 地域の長船平野南部と邑久町地域の千町平野北部の2ヶ所の沖積平野上や近接する位置に所在してい る。このため、原始から古代までの歴史的環境について2つの平野毎に記載する。

長船平野を中心とした地域では、旧石器時代の遺物として平成4年(1992)から服部廃寺の範囲と 内容等を確認するために行われていた確認調査中、服部廃寺を含む丸山遺跡からチャート製の縦長薄 片を利用したナイフ形石器が1点出土している。(註1)

縄文時代の遺物は、丸山遺跡から外面に磨消縄文を施す後期前半の皿が出土。(註1)また、平成5年(1993)に干田川の河川改修工事に伴い福里遺跡・土師東遺跡の発掘調査により後期と晩期の深鉢が出土している。(註2)遺物のみの出土で、遺構については検出されていない。

弥生時代では、発掘調査で確認している遺跡として標高約30mの舌状丘陵の先端部となる木鍋山の丘陵全面にかけて所在する、弥生時時代中期から中世に至る複合遺跡である木鍋山遺跡がある。(註3)中期後半から後期末まで30棟、掘立柱建物3棟を検出。また、後期後葉には10数基の土壙墓が検出されている。木鍋山遺跡は弥生時代の集落構造が分かる唯一の遺跡としてとして長船町地域の歴史復元の上で注目される遺跡である。福里遺跡では遺構の残存状況が悪いものの後期の溝5条、土壙1基などが確認されている。土師遺跡では後期の溝が検出されている。また、桂山の北側裾の暖斜面に位置する牛文向山遺跡では後期前半の土器が出土しており、牛文の中町や多聞寺の集落周辺の丘陵部に

弥生時代の集落が想定されている。

古墳時代になると、長船平野の干田川流域の微高地周辺部に水稲耕作が急速に広がり、生産力の向上に伴う人口の増大が次々と集落の形成につながったと思われる、土師細工原遺跡、土師遺跡、土師東遺跡などの遺跡から遺物が出土している。

集落遺跡以外に、長船平野周辺の丘陵部には大小数多くの古墳が築造されている。特に首長墓とし てなりうる比較的大きな規模の古墳として、桂山の北側山麓の北東に延びる尾根の頂部に位置し、馬 蹄形のテラスの上に築かれた牛文茶臼山古墳は、時期は5世紀末頃と推測され、墳形が帆立貝形を呈 し、墳長約58m、後円部径約33.2m、前方部幅約16mを測る。内部主体として後円部中央に竪穴式石 室と思われる石室が確認されている。出土品として画文帯四神四獣鏡1面、貝釧、金銅製獅子文帯金具、 鉄刀、小札の鎧、須恵器など装身具、武具、馬具が出土している。金銅製獅子文帯金具は朝鮮半島で も百済と伽耶地域で出土しており古墳の被葬者を考える上で貴重な資料となるものである。(註4)ま た、5世紀頃を中心とした堅穴式石室や箱式石棺を内部主体とした前半期の古墳群として、甲山の東部、 北東へ延びる細い尾根の頂部には、直径約 24m で長さ約 9m を測る、造り出し付き円墳である土師茶 臼山古墳を初め、直径数メートルの土師茶臼山古墳群、甲山の東側斜面に形成される甲山古墳群など がある。(註 5)大谷口遺跡の西側の丘陵裾部には、墳径 10m 以内の円墳で横穴式石室を有する北池 1 号墳~4号墳が点在している。その中で、北池1号古墳の横穴式石室は現状で長さ6.4m、奥壁幅1.84m、 高さ 2.16m で石室の床面積は約 12 mを測り、邑久町地域で最大規模のものである。桂山から南に延び る丘陵の南斜面一帯には、7世紀後半の小型の円墳が中心で、内部主体に横穴式石室を有する桂山・亀ヶ 原古墳群があり桂山東南麓一帯が墓域的な地域となっていたと思われる。(註6)また、墓域の盛行と 関係し、瀬戸内市の東部から備前市の西部にかけて現在約 130 基確認されている 6 世紀中葉~ 11 世紀 に操業された須恵器生産遺跡としての邑久古窯跡群がある。6世紀後半~8世紀前半までは長船町の 桂山山麓から牛窓町の寒風地域にかけて広がる。(註7) これらの窯では、須恵器だけでなく陶棺・鴟 尾も生産されている。邑久古窯跡群で確認されている最古の窯で、6 紀中葉に創業されたと考えられ るものが、木鍋山の丘陵東斜面で発掘調査によって確認された木鍋山1号窯跡である。邑久古窯跡群 で唯一窯全体が確認された例である。規模は全長 8.2m、焚口幅 1.2m、焼成部の長さ約 6.0m、最大幅 約 1.9m、焼成部床面の傾斜角度 15°を測る地下式の登窯である。窯体内から完形の杯身・杯蓋・高杯 などが生焼け状態で出土した。(註8)また、桂山から南に伸びた尾根に誓い南東に面した標高約90m の南東斜面に、焚口部や燃焼部が破壊されているが、窯本体の大部分を残す7世紀前半の操業と考え られる亀ヶ原1号窯跡がある。採集された須恵器は、口縁部受け部にかえりを有する杯とかえりを持 たない杯や甕で西川宏氏により「亀ヶ原式」と型式設定されている。(註9)

飛鳥・奈良時代以降では、7世紀中葉頃と考えられる古代寺院として西須恵地内と、7世紀末頃と考えられる古代寺院が服部地内に相次いで創建されている。前者は、須恵廃寺で部分的に発掘調査が行われ、寺域の北方で乱石積基壇の一部や寺域の西方でも基壇が確認された。基壇を確認した付近を中心として一辺100~150m四方の寺域が推測されている。出土遺物として単弁八葉蓮華文軒丸瓦、均整唐草文軒平瓦、瓦塔、円面硯等が出土している。(註10)後者は服部廃寺で範囲の確認調査が行われ、金堂・講堂の基壇・礎石、東西回廊、講堂西側掘立柱建物などが確認された。調査の結果、東西約150m(1 町半)、南北約150mもしくは215m(約2町)の寺域と金堂と講堂の中軸がそろうとから四天王寺式の伽藍配置が想定されている。軒丸瓦・軒平瓦・鴟尾・塼・螺髪等が出土している。(註11)

干田川流域では、近世まで水田耕作が盛んに行われていたことが近年までの試掘調査等で確認されており、大谷口遺跡、北池向遺跡の位置する北池集落は、中世まで土師郷に所属していたことが伝えられている。(註 12)

次に、邑久町の千町平野を中心とした地域では、旧石器時代の遺物として下山田梶ケ鼻遺跡からナイフ形石器が出土しており、背後の低丘陵上に遺跡の存在が想定されている。

縄文時代になると、後氷期の世界的な気候の温暖化による縄文海進が進行し、早期に現在の平野が瀬戸内海に続く海となっていく。前期には、この海を挟んで北に宮下貝塚(註 13)が南にシジミを主とする大規模な貝塚を有する大橋貝塚(註 14)が形成される。さらに中期末から後期初頭に山手貝塚、後期以降の真徳貝塚 B(註 15)が形成される。これら貝塚のうち大橋貝塚は、前期から後期初めまでの長期にわたる居住が継続され当地域の中核的集落と考えられる。後期以降には、海水面の降下と吉井川の土砂堆積による急激な陸化が進んだとみられ、熊山田遺跡(註 20)では後期後葉や突帯文土器出現前の晩期の土器、助三畑遺跡(註 16)や堂免遺跡(註 17)から突帯文土器の出土があり、沖積地に人々の生活の痕跡が見られ始める。

弥生時代になると、吉井川の土砂堆積によって下笠加から仁生田にかけて細長く弧状の自然堤防が形成され、前期以降に全域に集落が形成される。その中でも中核的な集落として国指定史跡門田貝塚があげられる。数回に及ぶ発掘調査の結果、数条の大規模な溝や溝を貝塚の存在が明らかにされた。貝塚から出土した大量の土器は「門田式」と命名され瀬戸内海沿岸地域の弥生時代の前期後葉の土器型式とおり学史的に著名な遺跡となっている。(註 18) 他にも近年の開発に伴う発掘調査で畑中遺跡 (註 19)・堂免遺跡・熊山田遺跡 (註 20) などで弥生時代前期の溝、土壙などの遺構や遺物が確認、出土しており、前期の段階で千町平野の微高地の広い範囲で遺跡が形成されていることを示している。

中期中葉以降、微高地周辺部の水田の拡大と人口増に伴い、微高地上から千町平野を望む丘陵部や丘陵裾部に遺跡の分布が移動する。真徳貝塚・円張東貝塚・下山田梶ヶ鼻遺跡などでいずれも小規模の貝塚を伴っている。(註 21) また、後期後葉以降には、門田貝塚や百田遺跡などで製塩土器が出土しており、集落内で土器製塩も行われているようである。以上の遺跡は、弥生時代を通して安定した水稲耕作を生産力の基盤に邑久町域の中心地として次代の吉井川下流東域の前方後円墳の築造に発展する生産母体となる。

古墳時代の集落遺跡としては、助三畑遺跡・門田遺跡・堂免遺跡で弥生時代の集落の延長上で溝や井戸が検出されている。千町平野周辺部では、平野を望む独立丘陵の頂部から尾根にかけて、小規模の円墳や方墳が群集して築造されている。福中堂山丘陵上には、小規模な古墳が数十基築造されている。千町平野の北側に位置する標高 135m の高砂山山頂から八木山の尾根筋にかけて、約 100 基の低平な古墳群が構築されており、邑久町内でも有数の前半期の群集墳を形成している。内部主体は箱式石棺や小竪穴式石槨で副葬品に内行花文鏡2面、変形四獣鏡1面、捩文鏡1面の鏡をはじめ、玉類や鉄器が出土している。後半には2基の前方後円墳が長船町西須恵器と邑久町山手亀ヶ原に築造される。1基は6世紀前葉と推定される金鶏塚古墳である。測量により墳長約 35m を測り、石室から画文帯神獣鏡1面ほかが出土したと伝えられる。(註 22) もう1基は6世紀後葉と考えられる金鶏塚古墳から南へ30mのところに所在する亀ヶ原大塚古墳である。墳長が約 40m を測り、内部主体として前方部に長さ約7mを測る片袖式の横穴式石室が築かれ、後円部にも横穴式石室の存在が推定されている。(註 23) この2基の古墳は、位置・規模から須恵器生産を掌握・管理していた首長の墓と考えられている。

高砂山の南斜面をはじめ豊原・福中地区の丘陵端部の斜面に横穴式石室を内部主体とする小古墳が築造される。ほとんどの古墳の埋葬施設が無袖式の横穴式石室で、須恵器の陶棺が納められているものが多い。これらの小古墳は6世紀後葉から7世紀にかけての須恵器窯跡群の分布と重なり、亀ヶ原古墳群とともに須恵器製作工人集団の墳墓と推定されている。

奈良時代以降では、門田遺跡から大規模な掘立柱建物の一部と見られる柱穴群が検出され、円面硯・ 須恵器・緑釉陶器なども出土していることから官衙的な施設の存在が想定される。寺院跡では、山田 庄半田地区の緩やかな丘陵斜面の平坦部に半田(尾張)廃寺が存在すると推定されているが、伽藍配 置等については不明である。(註 24) 周辺部から採集された軒平瓦に中に本薬師寺や平城薬師寺と同 笵の偏行唐草文を有するものがあり注目される。

### 註

- (1) 池田浩·大谷博志·杉山一雄『服部廃寺』 長船町教育委員会 1997
- (2) 氏平昭則・岡本泰典「土師東遺跡・福里遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』95 岡山県教育委員会 1994
- (3) 江見正己「木鍋山遺跡」『長船町史 史料編(上)』 長船町 1998
- (4) 西川宏「牛文茶臼山古墳」『岡山県史』 18 岡山県 1986
- (5) 長船町教育委員会編『長船町埋蔵文化財分布地図』 長船町教育委員会 1987
- (6) 池田浩「亀ヶ原古墳群」『長船町史 史料編(上)』 長船町 1998
- (7) 『牛窓町史 資料編Ⅱ』 牛窓町 1997、『邑久町史 考古編』 瀬戸内市 2006、『長船町史 史料編(上)』 長船町 1998
- (8) 江見正己「木鍋山1号窯跡」『長船町史 史料編(上)』 長船町 1998
- (9) 池田浩「亀ヶ原1号窯跡」『長船町史 史料編(上)』 長船町 1998
- (10) 亀田修一「須恵廃寺」『長船町史 史料編(上)』 長船町 1998
- (11) 池田浩·大谷博志·杉山一雄『服部廃寺』 長船町教育委員会 1997
- (12) 『邑久町史 地区誌編』 瀬戸内市 2005
- (13) 岡本寬久「山田庄宮下貝塚」『邑久町史 考古編』 瀬戸内市 2006
- (14) 岡本寛久「大橋貝塚」『邑久町史 考古編』 瀬戸内市 2006
- (15) 岡本寛久「真徳貝塚 B」『邑久町史 考古編』 瀬戸内市 2006
- (16) 馬場昌一「助三畑遺跡」『邑久町史 考古編』 瀬戸内市 2006
- (17) 馬場昌一「堂免遺跡」『邑久町史 考古編』 瀬戸内市 2006
- (18) 岡田博「門田貝塚」『邑久町史 考古編』 瀬戸内市 2006
- (19) 秋山浩三「畑中遺跡」 『邑久町史 考古編』 瀬戸内市 2006
- (20) 河本清·福田正継·中野雅美·馬場昌一·関幸代『熊山田遺跡』 邑久町教育委員会 2004
- (21) 平井泰男「熊山田散布地」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 68』 岡山県教育委員会 1988
- (22) 江見正己「金鶏塚古墳」『長船町史 史料編(上)』 長船町 1998
- (23) 江見正己「亀ヶ原大塚古墳」『長船町史 史料編(上)』 長船町 1998
- (24) 岡本寛久「半田廃寺」『邑久町史 考古編』 瀬戸内市 2006

# 第2章 調査の経過及び体制

### 第1節 調査に至る経過

瀬戸内市は地理的に邑久町、牛窓町、長船町の3地区が南北に位置しているにも関わらず、これらの3地区を南北に貫く基幹道路が無く、既存の県道に依存しなければならないのが現状である。こうしたことから新市の基幹道路として3地区をダイレクトに結ぶ新道を建設し、今後の新市の開発発展、既存道路(県道)の交通安全を図るため長船町土師と邑久町山手を連結する、全体計画延長4km、全幅員9.75mの市道南北線の新設が計画された。

計画地内には、福里遺跡(長船町土師)、大谷口遺跡(長船町土師・邑久町北池)、北池向遺跡(邑 久町北池)、山田辻畑遺跡(邑久町山手)の4つの遺跡が所在している。

遺跡の時期は遺跡地図によると弥生時代から中世で、内容は集落遺跡や散布地と考えられている。

このため市では工事計画地内に所在する遺跡の状況を把握するため、平成 18 年 12 月 11 日~16 日 にかけて重機による試掘調査を実施した。試掘調査の結果を受け、工事により破壊される遺跡の発掘調査を実施し、遺跡の記録保存を行う目的で「瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会」(委員長:瀬戸内市教育委員会教育長小林一征)を平成 19 年 5 月 7 日に設置した。

平成 19 年 6 月 7 日付けで文化財保護法第 92 条の規程により岡山県教育委員会教育長宛に埋蔵文化 財発掘調査の届出を提出した。

## 第2節 調査の経過

試掘調査の成果を受け、4遺跡の発掘調査は瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会委員である瀬戸内市教育委員会社会教育課主査の大谷博志が従事した。また、一部の発掘調査や図面作成について荒蒔周平、小野伸が調査補助にあたった。

発掘調査は、市道計画地内に所在する果樹や畑での収穫を終えた遺跡から順次調査に入った。調査を実施した遺跡の順序は、北池向遺跡、福里遺跡、大谷口遺跡、山田辻畑遺跡で、遺構実測を並行しながら2ヶ所の遺跡の発掘調査を実施した。

市道計画地は農道や水路により分断されていたため、4遺跡に36ヵ所の調査区を設定し、基本的に遺物包含層上部までは重機により掘削を行い、遺構の検出や掘下げは手掘りにより行なった。その後、調査区の平・断面図、検出した遺構の実測、写真撮影等の記録を実施した。調査後は、安全面を考慮し調査区の埋め戻しを行なった。

### **調査面積** 調査区 36 ヵ所 1,823 ㎡

### 北池向遺跡

調査区1 (2m × 10m=20 m)

調査区2 (2m × 10m=20 m²)

調査区 3 (2m × 10m=20 m²)

調査区 4 (2m × 10m=20 m)

調査区 5 (2m × 10m=20 ㎡) 計 100 ㎡

### 福里遺跡

調査区1 (4m × 10m=40 ㎡)

調査区 2 (3m × 19m=57 m²)

調香区 3 (3m × 14m=42 m²)

調査区 3 W (3m × 18m=54 m²)

調査区 4 (4m × 18m=72 m²)

調査区 4 W (6m × 18m=108 ㎡) 計 373 ㎡

### 大谷口遺跡 (北池東田遺跡)

調査区1-1 (3m×10m=30 m)

調査区 1-2 (3m × 11m=33 m²)

調査区 2 (4m × 8m=24 ㎡)

調査区3 (3m × 23m=69 ㎡)

調査区 4 - 1 (4m × 13m=52 ㎡)

調査区4-2 (7m×9m=63 m³)

調査区 5 (8m × 20m=160 ㎡)

調査区 6-1 ( $6m \times 9m=54$  m²)

調査区  $6-2(6m \times 6m=36 \text{ m})$ 

調査区7 (4m × 10m=40 ㎡)

調査区8 (4m × 10m=40 ㎡)

調査区 9(4m × 14m=56 ㎡)

調査区 10 (4m × 7.5m=30 ㎡)

調査区 11 (3m × 7m=21 ㎡)

調査区 12(4m × 20m=80 ㎡)

調査区 13 (4m × 14m=64 ㎡)

調査区 14(4m × 20m=80 ㎡)

調査区 15 (3m × 20m=60 ㎡)

調査区 16 (3m × 22m=66 m²)

調査区 17(3m × 8m=24 m³) 計 1,082 m³

### 山田辻畑遺跡

調査区1 (4m × 20m=80 ㎡)

調査区 2 (2m × 16m=32 m²)

調査区3 (8m × 16m=128 ㎡)

調査区 4 (2m × 6m=12 m³)

調査区 5 (2m × 8m=16 m²) 計 268 m²

### 日誌抄

平成19年5月7日 第1回瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会開催

9月7日 第2回瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会開催

10月1日 北池向遺跡発掘調査開始

10月30日 福里遺跡発掘調査開始

11月16日 北池向遺跡調査終了

平成20年2月1日 大谷口遺跡発掘調査開始

福里遺跡調查終了

5月22日 山田辻畑遺跡発掘調査開始

7月2日 大谷口遺跡調査終了

8月1日 出土遺物洗浄・整理作業開始

9月9日 重機による埋め戻し作業終了

10月31日 整理作業終了

平成 21 年 3 月 31 日 第 3 回瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会開催

### 第3節 調査の体制

瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会

委 員 長 小林一征 瀬戸内市教育委員会教育長

(平成19年5月7日~平成20年12月4日)

委 員 長 福池敏和 瀬戸内市教育委員会教育長職務代理者

(平成 20 年 12 月 5 日~平成 20 年 12 月 24 日)

委 員 長 日下弘海 瀬戸内市教育委員会教育長

(平成 20 年 12 月 25 日~)

副委員長 福間和明 瀬戸内市産業建設部長

委 員 光永真一 岡山県教育庁文化財課総括副参事

委 員 大嶋信正 瀬戸内市文化財保護委員会委員長

委 員 西井洋之 瀬戸内市文化財保護委員会委員

委 員 岡部 勉 瀬戸内市産業建設部建設課長

(平成19年5月7日~平成20年3月31日)

委 員 谷田孝史 瀬戸内市産業建設部建設課参与

(平成20年4月1日~)

委 員 森 謙治 瀬戸内市教育委員会社会教育課長

委 員 馬場昌一 瀬戸内市教育委員会社会教育課参事

委員 (調査員) 大谷博志 瀬戸内市教育委員会社会教育課主査・係長

監 事 青山始正 瀬戸内市教育委員会教育次長

(平成19年5月7日~平成20年3月31日)

監 事 福池敏和 瀬戸内市教育委員会教育次長

(平成20年4月1日~平成20年12月4日)

監 事 森 直人 瀬戸内市教育委員会総務学務課長

(平成19年5月7日~平成20年3月31日)

監 事 松井一彦 瀬戸内市教育委員会総務学務課長

(平成20年4月1日~)

事務局長 森 謙治 瀬戸内市教育委員会社会教育課長

局 員 馬場昌一 瀬戸内市教育委員会社会教育課参事

局 員 大谷博志 瀬戸内市教育委員会社会教育課主查·係長

局 員 村上 岳 瀬戸内市教育委員会社会教育課主査

調查補助員 荒蒔周平 (岡山理科大学学生)、小野 伸

整理補助員 二反田美鈴

調査作業員 岡田文子、久山真由美、佐々木亨暢、佐用理世、西濱輝睦、西濱典子、野村由香里、 守時朝子、万代伴彦、三木一代

瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会会則

#### 【設置】

第1条 瀬戸内市市道南北線新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査を実施するために瀬戸内市道南 北線埋蔵文化財発掘調査委員会(以下「委員会」という)を設置する。

### 【目的】

第2条 委員会は、瀬戸内市邑久町及び長船町地内における事業計画に伴い工事予定地に所在する埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施し記録保存等を行うことを目的とする。

### 【事業】

- 第3条 委員会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。
  - (ア) 工事予定地内の埋蔵文化財包蔵地の発掘調査並びに保存に関すること
  - (イ) その他目的を達成するために必要な事業

### 【組織】

第4条 委員会の構成は次のとおりとする。

- (ア) 委員会の委員長は瀬戸内市教育委員会教育長を、副委員長は瀬戸内市産業建設部長をもって充て、委員は関係行政機関の職員並びに関係者の中から委員長が委嘱する。
- (イ) 委員会は発掘調査を専門的に実施するために調査員を置きその調査員は委員長が委嘱する。発掘調査の専門的事項については関係者の指導、助言を受けるものとする。
- (ウ) 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。
- (エ) 副委員長は委員長を補佐し委員長に事故あるときは、副委員長がその職務を代理する。

#### 【任期】

第5条 委員長、副委員長及び委員の任期は調査が完了するまでとする。但し、それぞれの機関 の役職に存する期間に限るものとする。

### 【会議】

- 第6条 委員会は、委員長が招集する。委員会は次の事項について審議する。
  - (ア) 会則の制定及び改廃に関すること
  - (イ) 調査の基本方針に関すること
  - (ウ) その他重要な事項

### 【事務局】

第7条 委員会の事務を処理するため瀬戸内市教育委員会に事務局を置く。事務局長は、瀬戸内 市教育委員会社会教育課長をもって充て、その他の事務局職員は委員長が委嘱する。

### 【監査】

第8条 会計監査を実施するため委員会に監事を置く。

### 【その他】

第9条 この会則に定めるもののほか委員会の運営に関して必要な事項は委員会が定める。

附則、この会則は平成19年5月7日から施行する。

### 第4節 報告書の作成

### 報告書の体制

出土遺物の洗浄と復元作業は発掘調査と並行しながら実施し、遺構と遺物の図化する整理作業を終えた段階で、一部を除き遺構図面のトレース及び出土遺物の実測、拓本、トレースをフジテクノ有限会社に委託した。また、遺物の写真撮影を有限会社柳生写真館へ委託した。遺構、遺物の図化終了後、報告書の執筆及び編集を平成20年度末まで実施した。

資料の整理や原稿執筆にあたり、出土遺物について岡山理科大学教授亀田修一氏から有益なご教示を得た。また、出土遺物の胎土分析について岡山理科大学自然科学研究所講師白石純氏から報告文をいただいた。さらに、補助者や多くの方々の協力を得た。



# 第3章 調査の概要

### 第1節 福里遺跡

長船町平野の南西寄りの長船町福里集落を中止とした東西約700 m、南北約1,100 mの範囲に遺跡が想定されている。遺跡の南部を東西に流走する干田川は平成2年の台風19号による水害を契機として岡山県により川幅を約2倍に拡幅し保水能力を拡大する河川改修工事が計画された。このため、削平を受ける干田川南岸に4ヵ所の調査区を設け、平成5年に、岡山県古代吉備文化財センターによる発掘調査が実施された。調査の結果、明確な遺構は弥生時代後期の溝のみであり、遺跡の中心部は調査区の北側であり集落の縁辺部にあたる地点であったと考えられた(註1)。

今回、平成2年の調査結果や市道南北線の建設工事にあたり事前に実施した試掘調査の結果をもとに計画地内に4ヵ所の調査区を設け発掘調査を実施した。(第3図)

### 調査区1

当遺跡想定範囲の南端部にあたる位置に  $4\times10$  mの大きさで設定した調査区である。干田川は長船平野の水田開発に伴い、排水を目的として掘削され、元禄 3 年(1630)には改修され現在の流路になっている(註 2)。また、地元の古老から『干田川を改修する以前、河道が蛇行していた頃にこのあたりに河道があった』という話を聞いていたので、旧川道の存在を確認する目的で  $4\times10$  mの大きさの調査区を設定し発掘調査を行った。

調査の結果、第1・2層の水田耕作土及び第3・4層の床土である灰色粘質土・灰白褐色粘質土を除去後の堆積層は、調査区の北側については第5層の灰色粘質土や明灰褐色粘質土を包含し、その下層に第8層の明灰茶色粘土の包含層が約30cmの厚さで堆積していた。その後、基盤層である第12層の黄褐色粘質土層上面までの堆積層は第10層の灰茶色粘土、第11層の暗灰茶色粘土である。基盤面まで掘り進め遺構検出を行ったが旧河道と考えられる基盤面の傾斜等は認められなかった。基盤面は細かな起伏が明瞭に残存しており旧微地形を確認することができた。

遺構については確認できなかった。(第3・4図)

### 調杳区 2

調査区 1 から現代の用水路を挟んだ北側約 15 mの水田部に設定した調査区である。調査区は事前の 試掘調査の結果を受け、市道計画路線内に 3×19 mの大きさの調査区を設定し発掘調査を行った。

調査の結果、基本的な層序は、調査区1と同様に上層から第1層の現代の水田耕作土である灰色粘質土及び第2層の水田床土である褐灰黄色粘質土を除去すると、約28cmの厚さで第5層の淡暗灰色粘質土、10~18cmの厚さで第6層の灰褐色粘質土が水平堆積し、その下層に厚さ約15cmを測る第7層の暗灰色粘質土の包含層を確認した。第7層の下層は基盤層である第8層の黄褐色粘質土となっている。基盤面は細かな起伏を呈し、調査区の中央よりやや北側の海抜は約9.9mで北側と南側に向かい緩やかに最大約25cm下がり、南側ではその後元の海抜高まで戻る。

検出した遺構は、第4層の水田床土となる褐灰黄色粘質土の下層で旧水田の鋤溝の痕跡と考えられ

る第3層の灰淡黄色粘質土が数条、調査区南端部の基盤面で、直径約20 cmの柱穴2個、調査区の北端部で大きさ約 $1.6 \times 0.9$  m、深さ約0.6 mを測り不正楕円形を呈する土壙1 基である。この土壙は断面観察から上部に基盤層と同じ黄褐灰色粘質土を使用しマウンド状に約15 cm盛り上げられていた。出土遺物はなく時期及び土壙の用途は不明である。(第 $3\cdot5$  図)

### 調査区3

調査区3から北側約12mの水田部に設定した調査区である。東側の3×14mの大きさの調査区3 及び西側に3×18mの大きさの調査区3Wの2箇所を設定し発掘調査を行った。

調査の結果、基本的な層序は、調査区1と同様に上層より現代水田層である第1層の灰色粘質土、水田床土である第2層の橙色粘質土、第3層の褐灰色粘質土、第4層の明灰褐色粘質土、包含層である第5層の暗灰褐色粘質土が堆積し、地表下約70cmで第6層の黄褐色粘質土である基盤面に至る。

検出した遺構は、基盤面で直径  $20\sim50~\text{m}$ の柱穴を含めた小ピットを 10~基検出した。また、基盤面は調査区  $1\cdot2~\text{同様}$ 、細かな起伏が明瞭に残存しており、調査区両端から中央部へ向けてなだらかに傾斜して約 20~cm下がり低くなっていた。(第  $3\cdot6~\text{図}$ )

### 調査区 4

調査区 3 から北側 4 mの水田に設定した調査区で、干田川南岸から約 20 mの位置にある。調査区は東側に  $4 \times 18$  mの大きさの調査区 4 及び西側に  $6 \times 18$  mの大きさの調査区 4 W の 2 箇所を設定し発掘調査を行った。

調査の結果、調査区の北側部分を除き、上層より現代水田層である第1層の灰白色粘質土、厚さ約30 cmを測る第2層の灰色粘質土、第3層の明灰褐黄色粘質土、第4層の明灰色粘質土、第13層の明灰色粘質土が堆積し下層が第10層の灰淡黄色粘質土の基盤層となっている。基盤面は調査区南端部の海抜高が約4.1 mで調査区北側に向かい海抜高が約3.7 mまで徐々に下がっている。

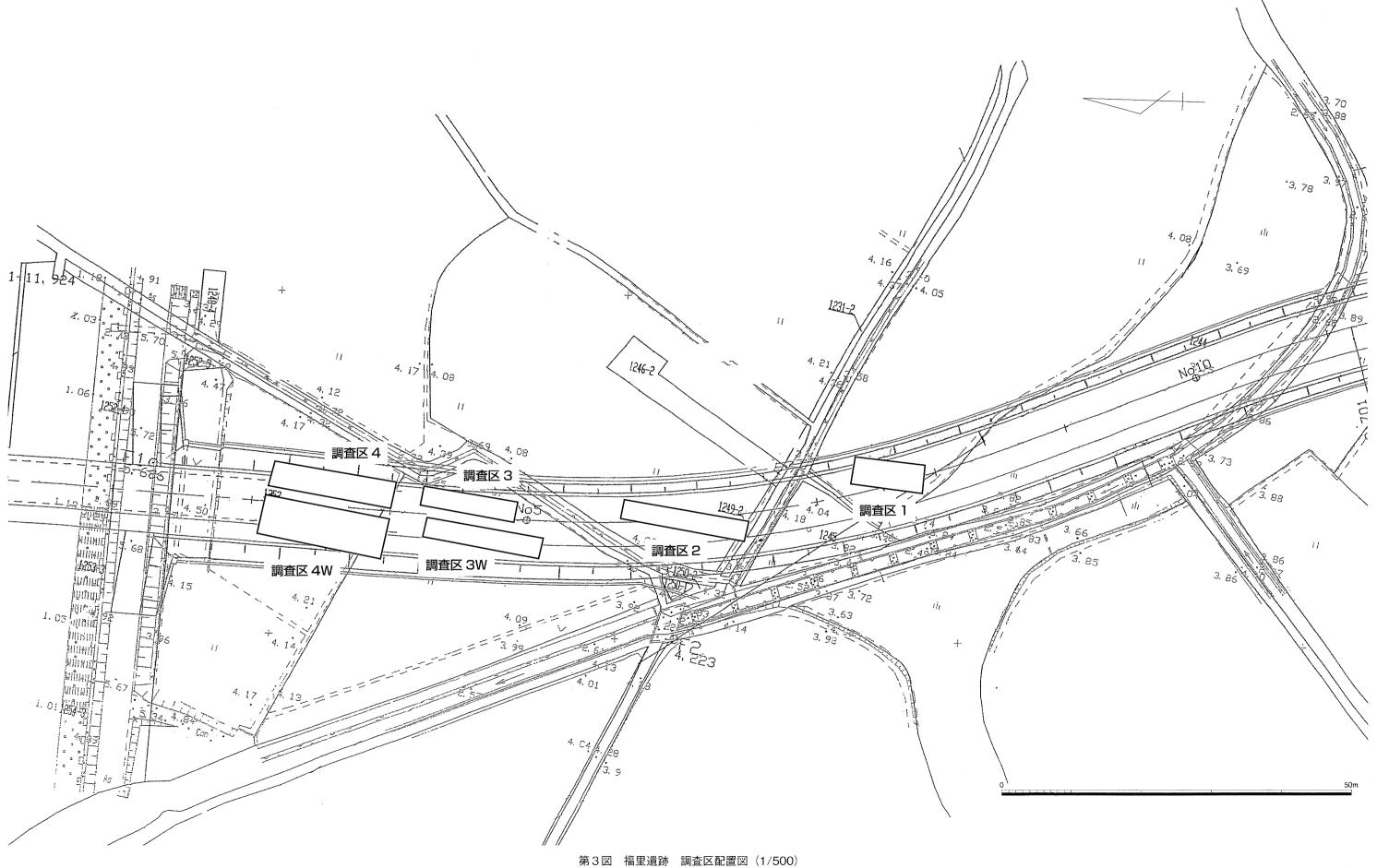
検出した遺構は、基盤面で直径 0.2~0.6 m、深さ約 70 cm前後を測る複数の柱穴を検出した。一箇所で複数の柱穴が切り合った地点があった。建物の配列などについては不明であった。また、調査区の北側では基盤面が、北側の調査区外へ緩やかに直線的に下っていく状況を確認した。土層は上層から第 6 層の灰青色粘質土、第 7 層の明灰色粘質土、第 8 層の黄褐灰色粘質土、第 9 層の灰褐色粘質土が北側に向かい傾斜しながら堆積する状況を確認した。しかしながら、旧河道の検出には至らなかった。(第 3 · 7 図)

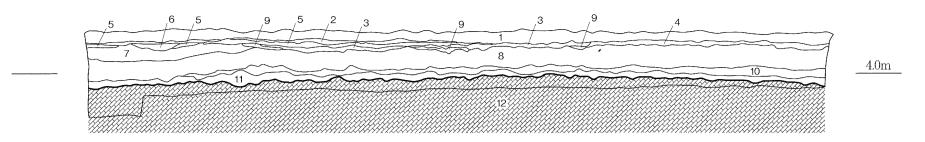
### 遺物

各調査区内から土師器片、須恵器片が少量出土したが、実測可能な遺物はなく、明確な時期は特定できなかった。その他土器以外に、サヌカイト製の石片が数点出土している。

#### 註

- (1) 氏平昭則・岡本泰典『土師東遺跡 福里遺跡 干田川改修に伴う発掘調査』「岡山県埋蔵文化財発掘調査報告」95 岡山県 教育委員会 1994
- (2) 小林久磨雄『改訂邑久郡史』上巻 邑久郡史刊行会 1953

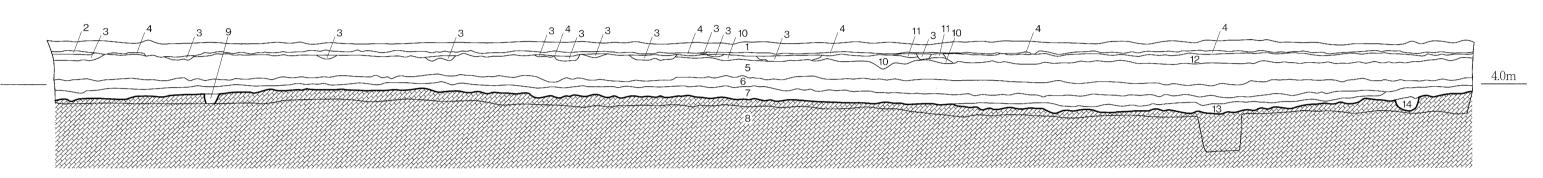




- 1. 水田耕土
- 6. 淡青灰色粘質土(溝 水田耕土) 7. 明灰褐色粘質土
- 11. 暗灰茶色粘土
- 2. 水田耕土
- 3. 灰白色粘質土(水田床土) 4. 灰白褐色粘質土(水田床土) 5. 灰色粘質土
  - 10. 灰茶色粘土

- 12. 黄褐色粘質土(基盤層)

第4図 福里遺跡 調査区1 東壁断面図(1/50)



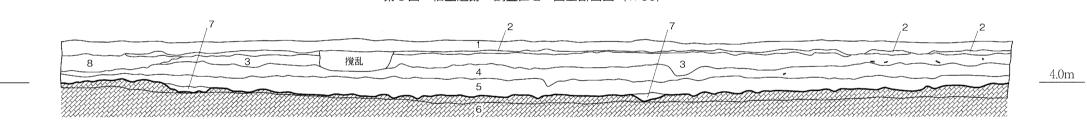
- 1. 灰色粘質土(現代水田)
- 6. 灰褐色粘質土
- 2. 明灰色粘質土
- 7. 暗灰色粘質土(包含層) 8. 黄褐灰色粘質土(基盤層) 9. 黒灰色粘質土(柱穴?)
- 3. 灰淡黄色粘質土(鋤溝?) 4. 褐灰黄色粘質土(水田床土)

8. 明灰茶色粘質土 9. 黄灰色粘質土

5. 淡暗灰色粘質土

- 11. 灰褐色粘質土
- 12. 明灰色粘質土
- 13. 黒褐色粘土 14. 灰褐色粘質土(黄褐灰色粘質土含む)
- 10. 灰淡黄色粘質土(淡暗灰色粘質土含む)

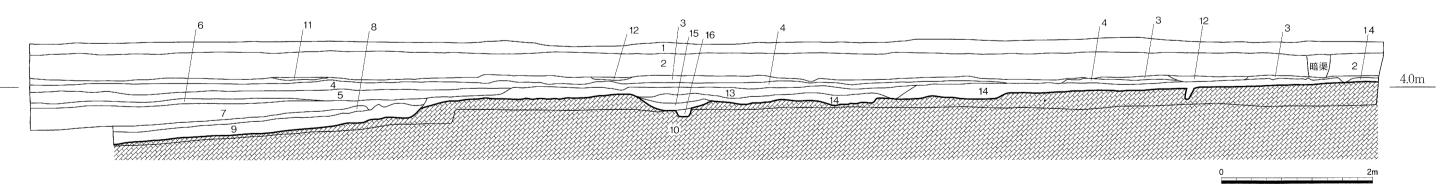
### 第5図 福里遺跡 調査区2 西壁断面図 (1/50)



- 1. 灰色粘質土(現代水田層) 2. 橙色粘質土(現代水田床土) 3. 褐灰色粘質土 4. 明灰褐色粘質土 5. 暗灰褐色粘質土

- 6. 黄褐色粘質土(基盤層) 7. 灰淡黄色粘質土 8. 明灰色粘質土

### 第6図 福里遺跡 調査区3 東壁断面図(1/50)



- 1. 灰白色粘質土
- 2. 灰色粘質土
- 3. 明灰褐黄色粘質土 4. 明灰色粘質土(黄褐色粘質土ブロック含む) 5. 暗褐灰色粘質土
- 6. 灰青色粘質土

- 7. 明灰色粘質土 8. 黄褐灰色粘質土 9. 灰褐色粘質土 10. 灰淡黄色粘質土(基盤層) 11. 暗褐灰色粘質土
- 12. 灰褐色粘質土

- 13. 明灰色粘質土(黄褐灰色粘質土含む) 14. 暗褐灰粘土
- 15. 黄褐色粘質土

- 16. 暗灰色粘質土

第7図 福里遺跡 調査区4 東壁断面図 (1/50)

### 第2節 大谷口遺跡

邑久町北池集落から荒神屹を通り長船町宮下集落へ抜ける東西の丘陵に挟まれた谷部に位置する。 遺跡の範囲は、東西約 100m、南北約 450m に想定されている。市道は遺跡の南側を南北に貫く形で工 事計画地になったため、試掘調査の成果をもとに道路や水路により調査区を分けながら、調査区を 17 地点、20 箇所設定し発掘調査を行った。(第8・9 図)

### 調査区 1

試掘調査時に明確な包含層を確認した畑地に設定した調査区で、遺跡のほぼ中央部で丘陵東裾部の位置にあたる。調査区は畑の形状に合わせ3×10mの調査区1-1と3×11mの調査区1-2の2分割した調査区を設定した。調査区1-1の土層は上層から、第1層の畑耕作土である灰色粘質土、第2層の黄褐色粘質土、第3層の明灰色粘質土を約50 cm掘下げると、包含層である第5層の暗灰褐色粘質土の上面で、北東から南西方向に幅約40~50 cm、深さ約10 cmを測り、断面「U」字形を呈する溝1を検出した。その後、第5層の包含層を約40~60 cm掘下げると、第6層の灰色粘土の基盤層を検出した。基盤面は調査区の北側から南側に向けて緩やかに傾斜していた。また、基盤面の上面は深さ20 cm程の窪みがいくつか認められた。(第10図)調査区1-2も調査区1-1と基本的な堆積層は同じで、上層から畑耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の橙黄灰色粘質微砂、第3層の明灰色粘質微砂の下層に包含層である第4層の暗灰褐色粘質土の上面において調査区1-1で検出した溝1の延長部分を調査区の北西端部で検出した。規模は、幅約50 cm、長さ約100 cmを測った。第4層の暗灰褐色粘質土は厚さ約40 cmで基盤層である第5層の明灰淡黄色粘土を検出した。この調査区での基盤面は地形にも影響され南から北方向に水平からやや下がっている。調査区の東壁面での基盤面は凹凸が著しい。(第11図)

遺構は、包含層上面で溝を1条検出したのみであった。この溝の埋土中から土師器・須恵器の小片が少量出土しただけで明確な時期を特定できる出土遺物はなかった。埋土中の遺物から古代以降の時期の溝と考えられる。

遺物は、表土及び包含層上層から弥生土器  $1\cdot 2$ 、包含層から円面硯 15、杯身  $3\sim 6$ 、杯蓋  $7\sim 12$ 、大甕 16、土製品  $C1\cdot C2$  のほか窯壁片が出土した。(第 46 図)

### 調査区 2

調査区1-2から約5m西側の1段下の畑に位置し、4×8mの三角形を呈する形で設定した調査区である。調査面積が小さく掘削した土置き場が確保できないことから表土を除去した後、調査区の東壁側に土層観察用の側溝を設定し調査した。

遺構は、土層断面を観察したが確認できなかった。(第12図)

### 調査区3

調査区 2 から約 9 m 南へ 1 段下った畑に 3 × 23m の大きさで設定した調査区である。耕作土から第6 層の暗灰色粘質土の包含層を約 20 cm 手作業で掘り進め、その後、基盤層上面まで重機で掘下げた。

基盤面は調査区の北側で検出したが、第6層の包含層の上場が南側に向かい下がるように基盤面も同様に南側に向かい下がるようで検出されなかった。堆積土層は調査区の北半分と南端部付近の壁が上面から崩落した。基本土層は、上層から畑耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の明灰色粘質微砂、第3層の暗灰色粘質土がほぼ水平に堆積し、その下層に第5層の小礫を含む明灰色粘質土、第6層で暗灰色粘質土が南側に向かい傾斜しながら堆積していた。第6層の包含層の下層は調査区の北側を除き第7層の砂礫層となっていた。(第13図)

遺構は、基盤層上面で直径 15 cm程の柱穴 3 個を検出した他は、検出できなかった。

遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が、第6層の包含層から須恵器の小片が少量出土した。

### 調查区 4

当遺跡の想定範囲北端部に位置し、谷の中心付近に当たる箇所に設定した調査区である。農道を挟み、東側に 4×13m の大きさで調査区 4-1、西側に 7×9m の大きさで調査区 4-2を設定し、耕作土を除去した後、白灰色粘土と淡黄色粘土の基盤層上面まで重機で掘り進めた。調査の結果、調査区 4-1の堆積層は上層から耕作土層である第 1層の灰色土、第 2層の黄色粘質土、第 3層のやや明るい灰色粘質土が堆積し調査区の東側では基盤面を検出した。基盤面は西側に向かい下がっていき、小礫片を多く含む第 5層の暗灰色粘質土、第 6層の灰色粘土、第 7層の白灰色粘土が堆積し、その下層で基盤層となる第 8層の淡黄色粘土を確認した。(第 14 図)調査区 4-2 も同様に水田耕作土を除去後、重機で約 1.5m 掘下げ灰白色粘土の基盤層上面で遺構検出を行った。堆積断面は調査区 4-1 と基本的には同様な堆積状況を呈した。

遺構は、調査区4-1では溝状遺構を3条、柱穴状の小ピットを3基検出した。調査区4-2では土壙1・2の2基を検出した。土壙1は、不定形な平面形を呈し、土壙内から角礫数個が出土した。土壙2は、大きさは80×180 cmを測り、平面形は楕円形を呈した。土壙内からこぶし大の円礫や角礫とともに須恵器片や板状の炭化物が出土した。

遺物は、調査区 4-1 東側では須恵器の小片が少量出土しただけであったが、調査区 4-2では、多量の須恵器が出土した。図化できた内訳は杯蓋 17~24・35、杯身 25~34、高杯 36~42、台付鉢 43、腺 44~46、短頸壺 47・48、壺 49~51、台付壺 52~54、鉢 55・68・69、ミニチュア壺 56、甕 57~67 である。他に、窯壁片多数のほか土師器、石鏃 S1・S4、獣歯1点が出土した。(第 47~50・54 図)

### 調査区5

調査区 4-1 から約 13m 南東の一段段高い畑地で、8×20m の大きさの調査区を設定し、重機で基盤層まで掘り進め、基盤面で遺構検出を行った。堆積層は調査区の西側寄りの壁面が一部崩落したが、基本的な堆積状況は確認することができた。上層から畑耕作土である第1層の灰色土、第2層の淡黄灰色粘質土、第3層の明灰色粘質微砂と水平堆積し、第9層の明灰淡黄色粘質微砂、第8層の暗灰褐色粘質土と続き、小礫片を含む第4層の灰褐色粘質土が約40~50 cmの厚さで堆積し下層で基盤面となる第6層の白灰色粘土を確認した。(第15図)

遺構は、白灰色粘土の基盤層上面で直径 20 cm程の柱穴状のピットを 2 基検出した。

遺物は、第4層の灰褐色粘質土層から図化できた須恵器高杯 71、土師器甕 74 の他、須恵器、土師

器の小片が出土した。(第51図)

### 調査区6

調査区5の約18m 南側に位置し、畑の畦を挟み、東側に6×9mの大きさの調査区6-1と、西側に6×6mの大きさの調査区6-2を設定し、約20cmの耕作土を除去した後、基盤層上面まで重機で掘り進め遺構検出を行った。調査区6-1の堆積層は、上層から畑耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の淡黄灰色粘質土、第3層の明灰色砂、第4層の灰色砂がほぼ水平堆積していた。その下層は包含層となる第5層の暗灰色粘質土、第6層の暗灰色礫層、第7層の黄褐色礫層が西側に傾斜しながら堆積し、その下層で基盤層である第9層の黄灰色粘土を確認した。調査区6-2の堆積層は、上層から畑耕作土である第1層の灰淡黄色粘質土、第2層の淡黄灰色粘質土、第3層の暗灰色粘質土、第4層の褐灰色粘質土がほぼ水平堆積し、その下層に基盤層である第5層の黄灰色粘土を確認した。

遺構は、調査区6-1・2で柱穴状の小ピットを各1基検出した。

遺物は、調査区 6-1 の第 5 層の暗灰色粘質土から須恵器杯身 70 の他、少量の須恵器、土師器の小片が出土した。

### 調査区7

調査区 6 から農道を挟み約 17m の南の畑に 4×10m の大きさで設定した調査区である。調査は、畑耕作土を約 20 cm 掘下げ、基盤層上面まで重機で掘下げ遺構検出を行った。調査区の堆積層は第1層から第5層まではほぼ水平堆積を呈するが、調査区中央部がやや窪んでおり、第6層の淡黄灰色砂質土、第7層の暗灰色土、第8層の淡黄灰色砂質土が南側に向か傾斜して堆積している。(第18図)

遺構は、基盤層上面で検出を試みたが確認できなかった。

遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できる遺物はなかった。

#### 調査区8

調査区 7 から約 16m 南側の一段下の畑に  $4 \times 10m$  の大きさで設定した調査区である。畑耕作土から基盤層上面までを重機で掘下げ遺構検出を行った。

遺構は、基盤層上面で直径  $20\sim50$  cm 大きさで、平面形は円形ないし隅丸方形を呈する柱穴状のピットを 8 基検出した。検出した柱穴のうち 7 基が調査区の南側に集中していた。柱穴  $1\cdot6\cdot7\cdot4\cdot2$  が径約  $2.5\sim3.0$ m の円弧を描くよう配されるが各柱穴の関係については不明である。(第 19 図)

遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できる物はなかった。

### 調査区9

調査区8から約3m 南側でほぼ直交するように4×14mの大きさで設定した調査区である。畑耕作土から灰褐色粘質土の包含層上面まで重機で掘り進め、その後、黄灰色粘土の基盤層上面まで手作業で掘下げ遺構検出を行った。調査区の堆積層は、上層から耕作土,である第1層の灰色粘質土、第2層の黄褐色粘質土、第3層の灰色粘質微砂、第4層の灰褐色粘質土、第5層の暗灰色土が水平堆積し、調査区の南側ではその下層で基盤層となる第6層の黄灰色粘土を確認した。

遺構は、調査区北側の基盤層上面で幅2.5m、深さ70cmを測り、断面が台形を呈する溝を1条検出した。

この溝は、北東から南西へ流走し、溝には第7層の暗灰色粘質土が堆積していた。溝の埋土から須恵器杯蓋、杯身、甕、石鏃1点などが出土した。

遺物は、埋土中から須恵器杯蓋、杯身、壺、甕、甑、土師質竃、石鏃1点が出土した。

### 調査区 10

調査区 9 から約 3 m 西側で畑一段下、調査区 1 の畑一段上に 4×7.5 m の大きさで設定した調査区である。畑耕作土から基盤層上面までを重機で掘下げ遺構検出を行った。調査区の基本的な堆積層は上層から耕作土である第 1 層の灰色土、第 2 層の黄色粘質土、第 3 層の明灰色粘質微砂、包含層である第 5 層の暗灰色粘質土がほほ水平に堆積し、調査区の北側では第 5 層の下層で基盤層である淡黄灰色粘土を確認した。基盤面は南に向かい緩やかに傾斜しており、調査区の中央部から南側に向けて基盤面の上に第 6 層の灰色砂小礫層が堆積していた。(第 22 図)

遺構は、基盤層上面で直径 20~25 cmを測る柱穴 4 基を検出した。(第23図)

遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できる物はなかった。

### 調查区 11

調査区3から約5m 南側で畑地が大きく一段下がる畑に3×7mの大きさで設定した調査区である。畑耕作土から基盤層上面までを重機で掘下げ遺構検出を行った。畑地を造成するために行われた開墾の跡が南側土手近くで認められた。調査区の基本的な堆積層は、上層から第1層の耕作土、第2層の灰色粘質微砂、第4層の明灰褐色粘質土が堆積し、その下層に包含層である第6層の暗茶灰褐色粘質土、小礫を含む第7層の灰褐色粘質土、角礫を多く含む第8層の灰茶褐色土が堆積し、その下層に基盤層が北側から南側に向かい傾斜している状況を検出した。(第24図)

遺構は、確認できなかった。遺物は、耕作土中から土師器、須恵器の小片が少量出土した。

### 調杳区 12

調査区 11 から約4 m の南側に位置し、大きく一段下がる畑に4×20m の大きさで設定した調査区である。調査区の北半分と南半分で基盤面の検出高が異なっていた。第1層の畑耕作土を約15 cm、さらに第3層の灰褐色粘質土を約15 cm 掘下げると調査区北半分で第8層の黄褐灰色粘土の基盤層が現れた。南半分では約10 cmの第6層の暗灰褐色粘質土の包含層が堆積していた。その下層では、基盤まで第7層の褐色小破礫が堆積していた。基盤面は調査区の中央部で落ち込みその後、南側に向かい緩やかに傾斜していた。(第25図)

遺構は、後世の開墾により削平されたようであり確認できなかった。遺物は、耕作土中から須恵器平瓶72、窯壁片が出土した。

### 調査区 13

調査区 12 の約 7m 南側に位置し、一段下がる旧水田に 4×14m の大きさで設定し調査区である。 耕作土を約 20 cm手掘りし、以下から基盤層である第 7 層の黄色砂利層までを重機で掘下げ遺構検出を 行った。砂質の土壌のため、調査区の中央南寄りの東壁が崩落した。調査区北半分の基本的な堆積層 は上層から耕作土である第 1 層の明灰淡黄色土、第 2 層の黄灰色粘質砂、第 3 層の明灰褐色粘質土、 第4層の灰褐色粘質土、第5層の黒灰色粘土が南側に向かい緩やかに下がりながら堆積する状況で確認できた。その下に基盤層となる第7層の黄色砂利層が緩やかに下がっていくことを確認した。(第13図)

遺構は、確認できなかった。遺物は、土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できるようなものはなかった。

### 調查区 14

調査区 13 から約 7m 南側に位置し、一段下がる旧水田に 4×20m の大きさで設定した調査区である。 表土から明灰色粘質土の基盤層まで重機で掘下げ、遺構検出を行った。調査区の基本的な堆積層は上層から旧耕作土である第 1 層の灰色粘質土、第 2 層の黄褐色粘質土、第 10 層の灰白淡黄色粘質微砂、第 8 層の暗灰色粘土で、その下層が基盤層となる第 5 層の明灰色粘質土である。包含層と思われる暗灰色粘質土は検出できなかった。基盤面はやや起伏があり、調査区中央部分がわずかに低くなっている。 (第 27 図)

遺構は、確認できなかった。遺物は、土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できるようなものはなかった。

### 調查区 15

調査区 14 から約 7 m 南側に位置し、一段下がる旧水田に 3 × 20 m の大きさで設定した調査区である。表土から灰色粘土の基盤層まで重機で掘下げ、遺構検出を行った。調査区が旧畑地であるため旧水田耕作土を取り下げると暗渠施設が 5 ヶ所にわたり残存していることを確認した。調査地の南半分の基本的な堆積層は、上層から旧水田耕作土である第 1 層の灰色粘質土、第 2 層の褐黄灰色粘質微砂、第 3 層の明灰色粘質土、第 7 層の灰褐色粘質土である。その下層に基盤層である第 5 層の灰色粘土を確認した。調査区の中央部では南側の基盤層を深さ約 50 cm掘下げ北側に向かい長さ約 320 cmにわたり掘り窪めた窪地状の箇所を確認した。窪地の堆積層は第 8 層の淡黄灰色粘質土である。何らかの遺構とは考えらえないが性格は不明である。また、堆積層の中に調査区 13 と同様に包含層と思われる暗灰色粘質土層は認められなかった。(第 28 図)

遺構は、確認できなかった。遺物は、土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できるようなものはなかった。

#### 調査区 16

調査区 15 から約 17m 南側に位置し、一段下がる旧水田に 3×22m の大きさで設定した調査区である。表土から明灰色粘土の基盤層まで重機で掘下げ、遺構検出を行った。調査区 13 と同様に包含層と思われる暗灰色粘質土層は検出されなかった。調査区の堆積層に砂質を含んでいたため基盤層掘下げ後、土層断面実測前に壁面が崩落を繰り返したため断面図は取れなかった。

遺構は、何も確認できなかった。遺物は、土師器、須恵器の小片が、少量出土したが図化できるようなものはなかった。

### 調查区 17

調査区 16 から約 30m 南西に位置し、当遺跡想定範囲の南端部に 3×8m の大きさで設定した調査区である。水田耕作土を約 20 cm 掘下げた後、重機により青灰色粘土層まで掘り進めた。調査区の堆積層は上層から耕作土である第 1 層の灰色粘質土、第 2 層の黄灰白色粘質微砂、第 3 層の明灰色粘質微砂、第 4 層の灰褐色微砂が水平堆積する。この層までは後世の水田開発によるものと考えられる。その下層は調査区の北半分と南半分では様相が異なり、北半分では、第 17 層の灰色粘土が南半分から北半分へ流れ込んで堆積した斜面部分へ、第 16 層の灰白褐色粘質土、第 10 層の褐灰色粘土、第 9 層の黄灰色粘土が順に堆積していった状況が確認できた。南半分では、全体のベース状となる第 19 層の青灰色粘土上層に第 17 層の灰色粘土が南から北方向に向かい流れ込むよう堆積している。(第 29 図)

遺構は、たわみ状の窪地が2ヶ所のみで他は検出できなかった。

遺物は、調査区下層から須恵器平瓶 73 の他、須恵器甕片が出土している。

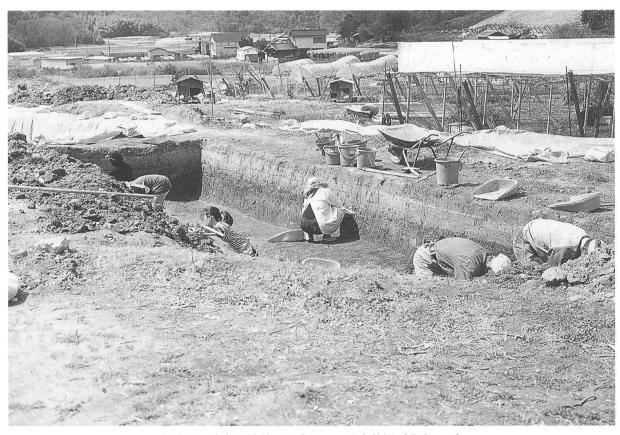
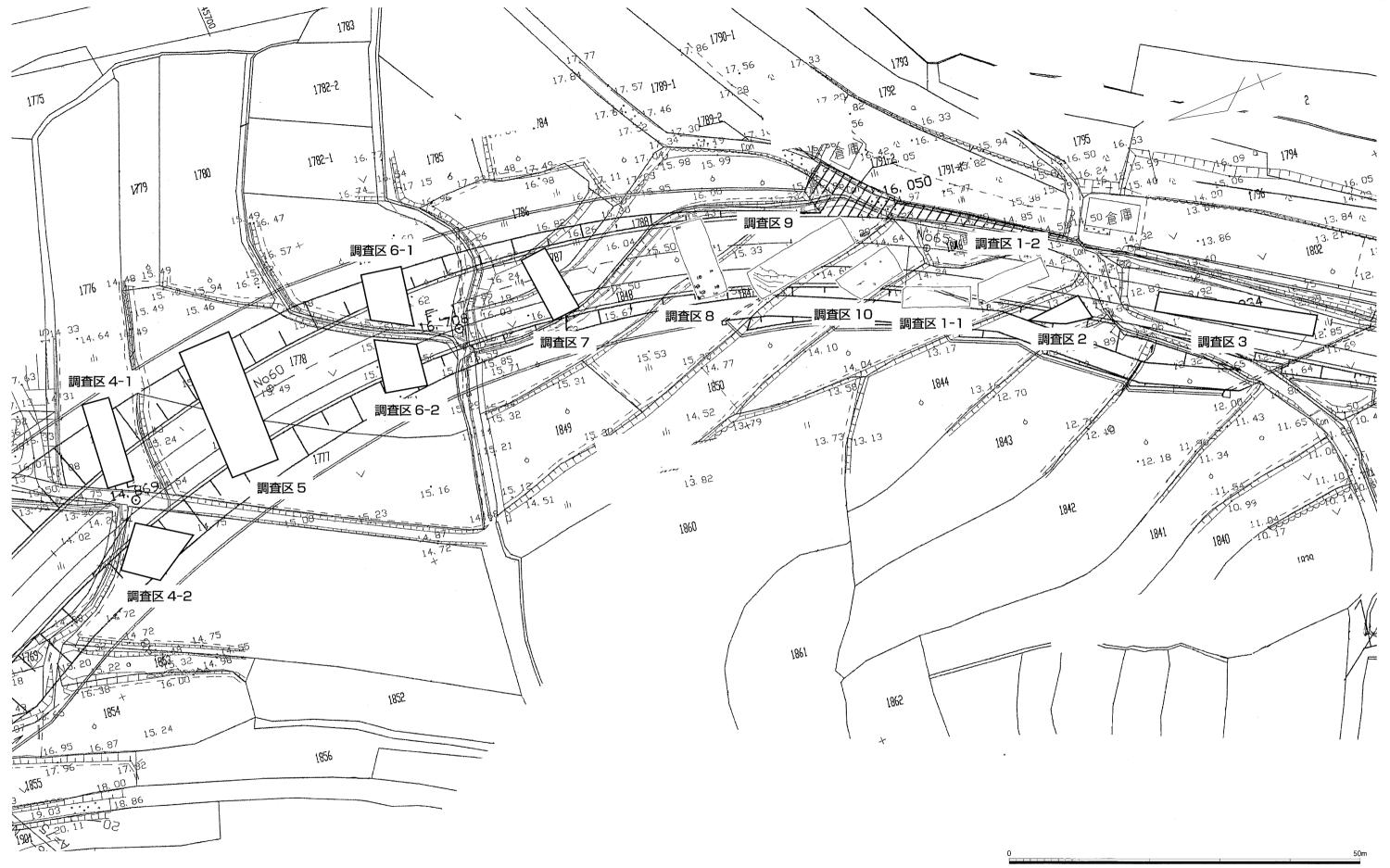
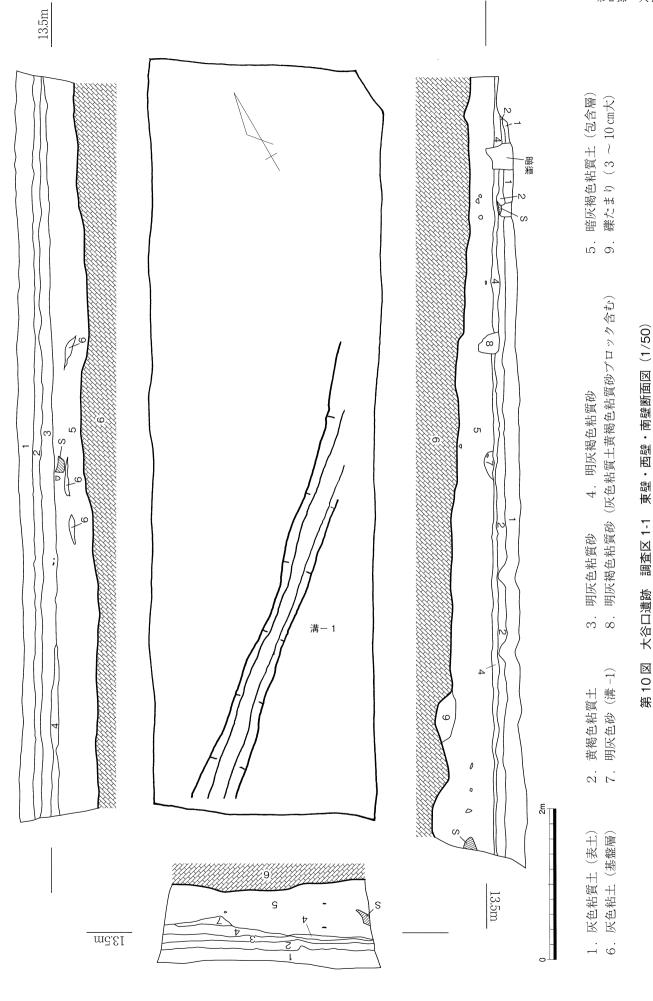


写真2 大谷口遺跡 調査区1 調査状況(北東から)







東壁・西壁・南壁断面 (1/50) 大谷口遺跡 調査区 1-2 第11区

8. 白灰色弱粘質微砂

暗灰褐色粘質土 (包含層)

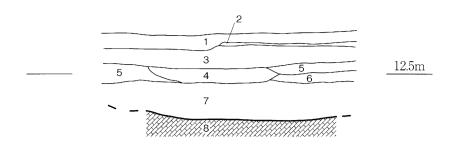
3. 明灰色粘質微砂 4. 暗灰褐色粘質土7. 小破礫層 (2 cm大 角礫丸石、灰黄色土含む)

橙黄灰色粘質微砂

灰色砂

明灰淡黄色粘土 (基盤層) 灰色粘質土 (畑耕作土)

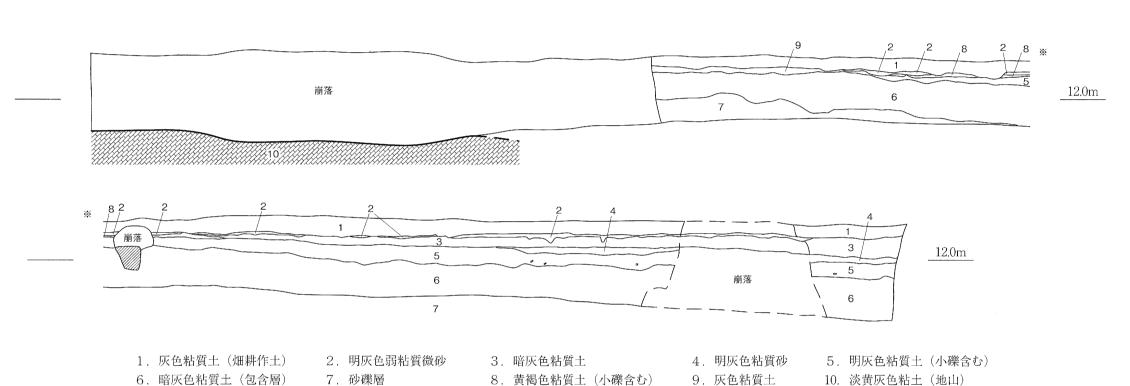
1.



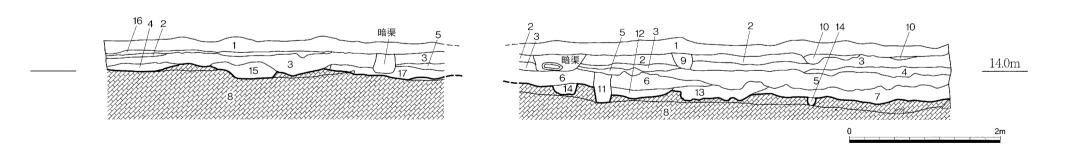
- 1. 耕作土
- 2. 灰白色粘質土
- 3. 暗灰褐色粘質土(小礫多く含む)
- 4. 淡黄灰色粘質微砂
- 5. 灰褐色粘質土

- 6. 灰色粘質土 7. 暗灰褐色粘質土 (礫多く含む)
- 8. 灰色粘土(基盤層)

第12回 大谷口遺跡 調査区2 北東壁断面図 (1/50)



第13回 大谷口遺跡 調査区3 東壁断面図 (1/50)



- 1. 灰色土 (耕作土)
- 2. 黄色粘質土
- 3. やや明るい灰色粘質土

13. 灰色粘土(白灰色粘土含む)

- 4. 明灰色粘質土 (マンガン鉄多く含む)
- 5. 暗灰色粘質土(小礫片含む)

- 6. 灰色粘土
- 7. 白灰色粘土
- 8. 淡黄色粘土

14. 黒灰粘土

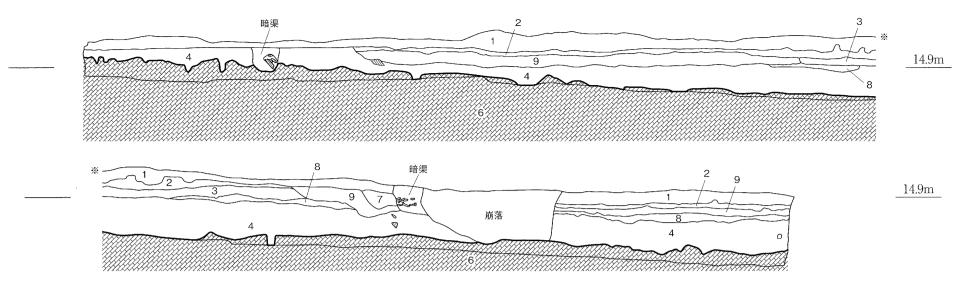
9. 灰色土

10. 灰色土(小礫、黄色土粒多く含む)

- 11. 灰白色粘土 16. 白灰色粘質土
- 12. 灰色粘土(溝状遺構) 17. 灰色粘土

15. 小礫層

第14回 大谷口遺跡 調査区 4-1 南壁断面図 (1/50)

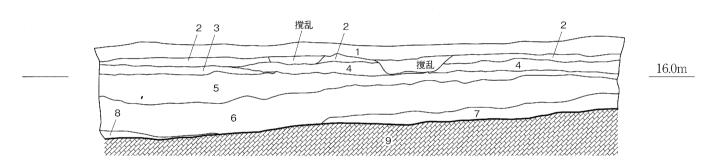


- 1. 灰色土 (耕作土)
- 2. 淡黄灰色粘質土
- 3. 明灰色粘質微砂(マンガン粒含む)
- 4. 灰褐色粘質土(小礫片含む) 5. 礫層(3~20 cm大)

- 6. 白灰色粘土(地山) 7. 明灰色粘質土
- 8. 暗灰褐色粘質土

- 9. 明灰淡黄色粘質微砂

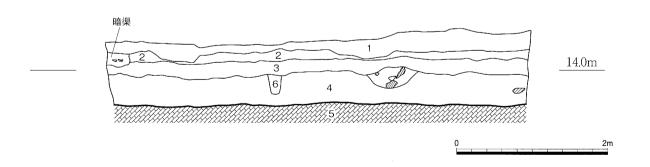
# 第15 図 大谷口遺跡 調査区 5 南壁断面図 (1/50)



- 1. 灰色粘質土(畑耕土)
- 2. 淡黄灰色粘質土
- 3. 明灰色砂
- 4. 灰色砂
- 5. 暗灰色粘質土(包含層)

- 6. 暗灰色礫層
- 7. 黄褐色砂礫層
- 8. 灰色砂(黄色土粒含む)
- 9. 黄灰色粘土(地山)

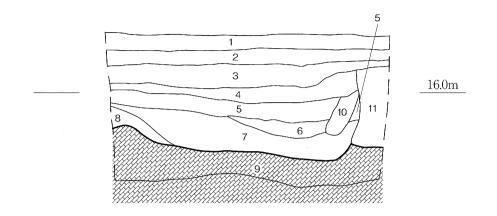
第 16 図 大谷口遺跡 調査区 6-1 北壁断面図 (1/50)



- 1. 灰淡黄色粘質土(畑耕作土)
- 5. 黄灰色粘土(地山)
- 2. 淡黄灰色粘質土 3. 暗灰色粘質土 (マンガン鉄粒多く含む) 4. 褐灰色粘質土 (黄色土粒含む)
- 6. 暗灰色粘質土(褐灰色粘質土含む)

- 7. 暗灰色土

第17回 大谷口遺跡 調査区6-2 西壁断面図 (1/50)



1. 茶灰色土(畦土) 2. 灰黄色弱粘質土(畦畑耕土) 3. 茶褐色粘質土

4. 灰茶褐色粘質土 5. 灰茶褐色粘質土(礫含む)

7. 暗灰色土(角礫多く含む)

9. 白灰色粘土

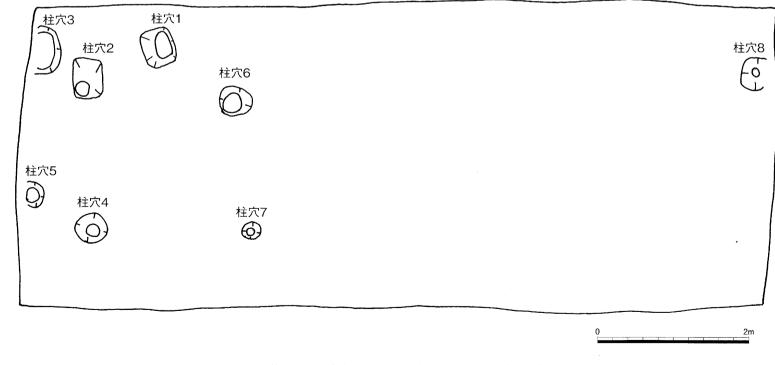
11. 茶褐色粘質土 (礫多く含む)

6. 淡黄灰色砂質土(暗灰褐色土ブロック含む)

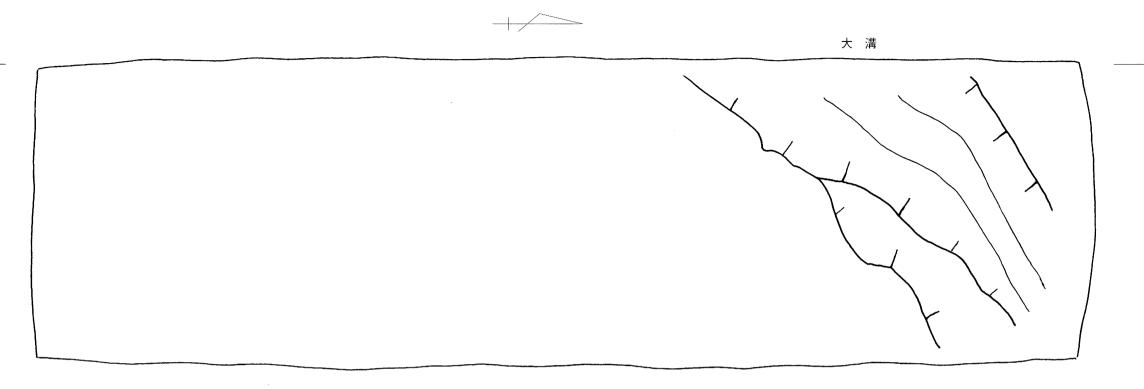
8. 淡黄灰色砂質土

10. 暗灰色粘質土

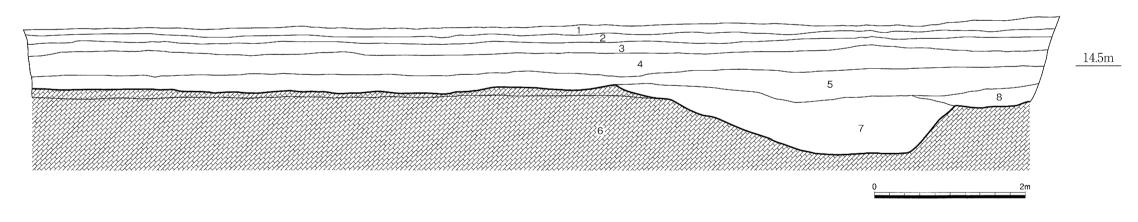
第18 図 大谷口遺跡 調査区 7 東壁断面図 (1/50)



第19回 大谷口遺跡 調査区8 平面図 (1/50)



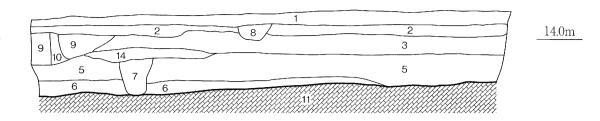
第20図 大谷口遺跡 調査区9 平面図(1/50)



- 1. 灰色粘質土 (耕作土ぶどう畑) 2. 黄褐色粘質土 3. 灰色粘質微砂 4. 灰褐色粘質土 5. 暗灰色土 (礫多く含む)
- 6. 黄灰色粘土(地山)

- 7. 暗灰色粘質土(2~10 cm大の礫・土器多く含む)
- 8. 灰褐色砂礫

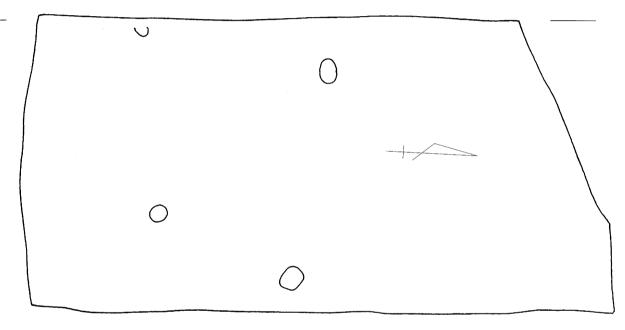
第21 図 大谷口遺跡 調査区 9 南西壁断面図 (1/50)



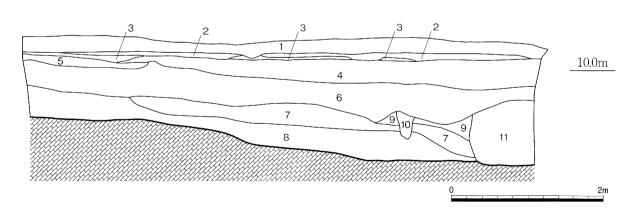
- 1. 灰色土 (耕作土ぶどう畑)
- 4. 褐灰色粘質土 (黄色土粒含む)
- 7. 黒灰色粘質土
- 10. 暗灰色粘質土

- 2. 黄色粘質土
- 5. 暗灰色粘質土(包含層)
  - 8. 撹乱
- 11. 淡黄灰色粘土(地山)
- 3. 明灰色粘質微砂
- 6. 灰色砂小礫層
- 9. 明灰色粘質微砂

第22 図 大谷口遺跡 調査区 10 西壁断面図 (1/50)



第23 図 大谷口遺跡 調査区 10 平面図 (1/50)

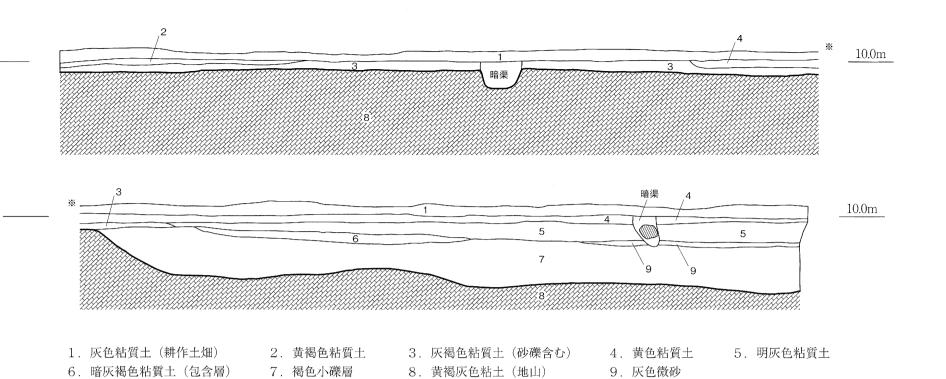


- 1. 耕作土 2. 灰色粘質微砂
- 5. 明灰褐色粘質土(小礫やや多く含む)
- 7. 灰褐色粘質土(小礫含む)

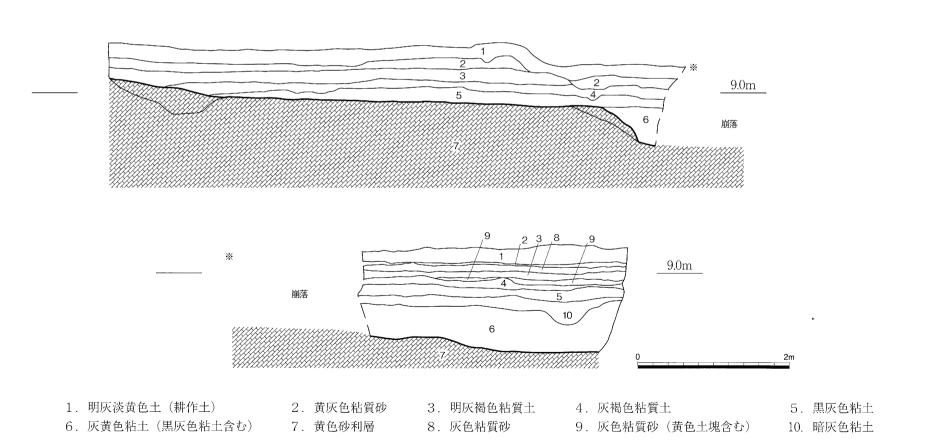
- 3. 黄褐灰色粘質微砂 4. 明灰褐色粘質土
- 6. 暗茶灰褐色粘質土(包含層:小礫含む)
- 8. 灰茶褐色土 (角礫多く含む)
- 9. 褐灰色粘質土 10. 暗茶灰褐色粘質土 11. 茶灰褐色粘質土 (角礫、丸石多く含む)

第24 図 大谷口遺跡 調査区 11 東壁断面図 (1/50)

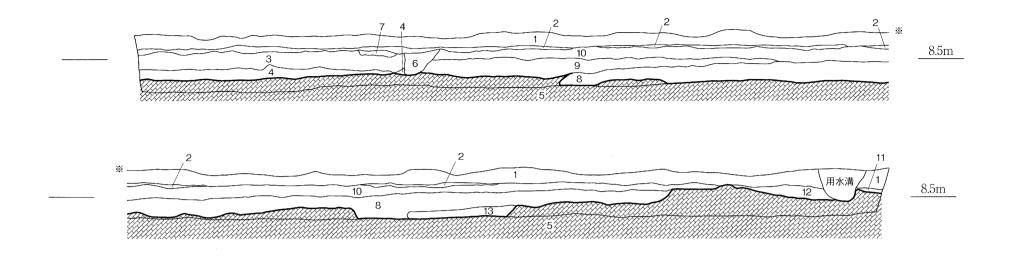
		s
	•	



第25 図 大谷口遺跡 調査区 12 東壁断面図 (1/50)



第26図 大谷口遺跡 調査区13 東壁断面図 (1/50)



- 1. 灰色粘質土(旧耕作土) 2. 黄褐色粘質土
- 7. 茶灰色粘質土 (炭化物含む)

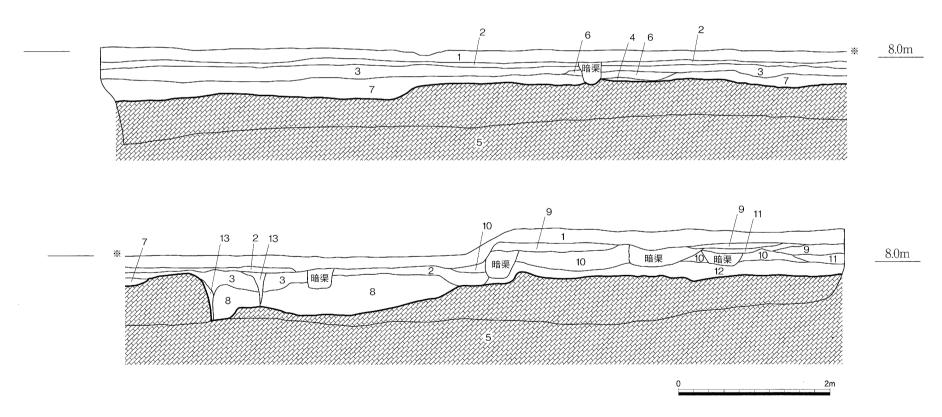
- 4. 白灰色粘質微砂 5. 明灰色粘質土(黄色粘土がまだらに含む)(地山)

- 6. 灰白色粘質土 11. 明灰色粘質土
- 12. 灰色粘質土

- 8. 暗灰色粘土 9. 灰淡黄色粘質土 10. 灰白淡黄色粘質微砂
- 13. 暗黒色粘質土 (炭化物含む)

3. 茶灰色粘質土

# 第27図 大谷口遺跡 調査区14 西壁断面図(1/50)



1. 灰色粘質土(耕作土)

11. 砂利層 (2~3 mm大)

6. 灰色粘質土

- - 7. 灰褐色粘質土

12. 灰色粘質微砂

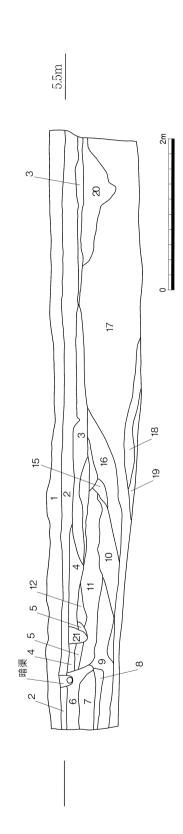
- 2. 褐黄灰色粘質微砂 3. 明灰色粘質土

9. 灰淡黄色弱粘質土

- 4. 灰淡黄色粘質土(小礫多く含む) 5. 灰色粘土(暗灰色粘土ブロック含む)(地山)
- 8. 淡黄灰色粘質土 13. 灰色粘質土(杭痕?)

10. 灰色粘質土

第28 図 大谷口遺跡 調査区 15 西壁断面図 (1/50)



1. 灰色粘質土(耕作土)	2	黄灰白色粘質微砂	3.	明灰色粘質微砂	4. 灰褐色微砂
6. 灰色粘土	7	淡黄灰色粘質土	· ·	灰色粘土	9. 黄灰色粘土
11. 黄灰色粘土 (灰色粘土含む)	12.	明灰淡黄色粘質砂	13.	灰白色粘質土	14. 灰褐色粘質土
16. 灰白褐色粘質土 (黄灰色粘土含む)	17.	灰色粘土 (黄灰色粘土含む)	18.	灰色砂	19. 青灰色粘土
20. 灰白色粘質土	21.	灰色微砂			

灰白色微砂
 褐灰色粘土
 灰白褐色粘質土

第29 図 大谷口遺跡 調査区17 東壁断面図(1/50)

# 第3節 北池向遺跡

邑久町山手の高砂山(標高 135m)の北端部に形成された舌状台地に立地する遺跡で邑久町北池の集落がある小盆地状の小平野を望む。遺跡地内を東西に横切る形で、工事計画地内になっていた。このため、試掘調査の成果をもとにに 2 × 10m の調査区を 5 箇所設定し発掘調査を行った。(第 30 図)

### 調查区 1

計画地内の西端部に設定した調査区である。山裾が竹やぶになっており畑地の側まで迫ったところである。調査区の南側は、畑耕作となる第1層の灰色粘質土層、第2層の灰色粘質土層の除去後、近現代の撹乱土壙状の遺構を1基検出した。さらに耕作床土である第3層の暗灰黄色粘質土層、第4層の黄灰色土層を約30~40㎝掘下げると地山層の黄灰色土が現れた。調査区の北側は畑耕作土の下層は、第2層の灰色粘質土層、第3層の暗灰黄色粘質土層が約20㎝に厚さで堆積し、下層には地山層の黄灰色土を検出した。基盤面は凸凹していた。(第31図)

遺構は認められなかった。遺物は検出・出土しなかった。

### 調査区2

調査区1から約15m 東の位置に設定した調査区である。調査区1と同様に約15cmの耕作土である第1層の灰色粘質土を除去後、第5層の黄灰色土である地山面までの堆積層は、上層から第2層の灰色粘質土、第3層の黄灰色粘質土、破礫を下層に多く含む第4層の黄灰色土の3層である。地山面は南から北方向へ緩やかに傾斜していた。

遺構については地山面まで掘り下げたが、認められなかった。(第32図)

### 調査区3

計画地のほぼ中央で、遺跡の想定範囲の南側中央付近に位置し、調査区2から約15m 東に設定した調査区である。調査区の南側半分はぶどう畑として調査直前まで使用されていた地点である。調査区南半分の堆積層は、上層から畑耕作土である第1層の灰色粘質土、第2層の灰色粘質土、第3層の黄灰色粘質土、破礫を多く含む第5層の暗灰黄色土、第6層の黄灰色土の4層である。地盤面の海抜は約7.0mである。調査区北半分の堆積層は、上層から第3層の黄灰色粘質土までは南半分の調査区と同様であるが、調査区中央部で約35cmの地山面が段差を持ち北半分が低くなって、堆積層は破礫を多く含む第4層の黄灰色土である。地山面は北側に向かい緩やかに傾斜している。

調査区南端の耕作土下層で不定形の土壙状の遺構が1基検出されたが、用途・時期等不明である。 その他に遺構は認められなかった。(第33図)

## 調査区 4

調査区3から約1.5m 東の位置に設定した調査区である。調査区3と同様南側1/3はぶどう畑になっている。調査区の北2/3は他の調査区同様に第1層の灰色粘質土である畑耕作土の下層を約70~80cmまで掘り下げた結果、上層から第2層の明灰色粘質土、第3層の淡灰黄色土、角礫片を多く含んだ

第4層の黄灰色土層を検出した。また、調査区の1/3 はぶどう畑の杭痕跡により攪乱を受けていたが、第1層の灰色粘質土である畑耕作土から下層は、第3層の淡灰黄色土、第5層の淡灰黄色土、第6層の黄灰色土、第7層の黄灰色土、第8層の黄灰色土、第9層の黄灰褐色土の合計6層に分かれたが、基盤層と思われる風化礫層が見られなかった。そこで調査区東側にサブトレンチを設け、調査区の1/3を現地表面から約1m掘り下げ、土層観察を行ったが下層の土質に変化が見られないことから、かつてやや深い谷部を埋め立てる大掛かりな造成を行い、畑地とぶどう畑にしたようであることが推測された。このため、遺構は認められなかった。(第34図)

### 調查区 5

調査区4から約15m東の位置に設定した調査区である。調査区4と同様南側1/3はぶどう畑になっている。調査区の北半分は、第1層の畑耕作土である灰色粘質土から下層は、第4層の淡黄灰色土、第5層の淡灰黄色土、第6層の黄灰色粘質土の3層に分かれる。調査区の南半分は、畑耕作土である第1層の灰色粘質土から下層は、第2層の暗灰色粘土、第3層の暗灰色粘質土、第5層の淡灰黄色土、第7層の黄灰色粘質土、第8層の黄灰色粘質土、第12層の淡灰黄色土の6層に分かれた。調査区4と同様に、大掛かりな造成を行いぶどう畑にしたようであることが確認できた。調査区の北よりで地山面を約20cm掘り込み、幅約80cm、深さ約60cmを測る、近代の土壙状のピットが1基確認できたが、その他には遺構は認められなかった。(第35図)

## 遺物

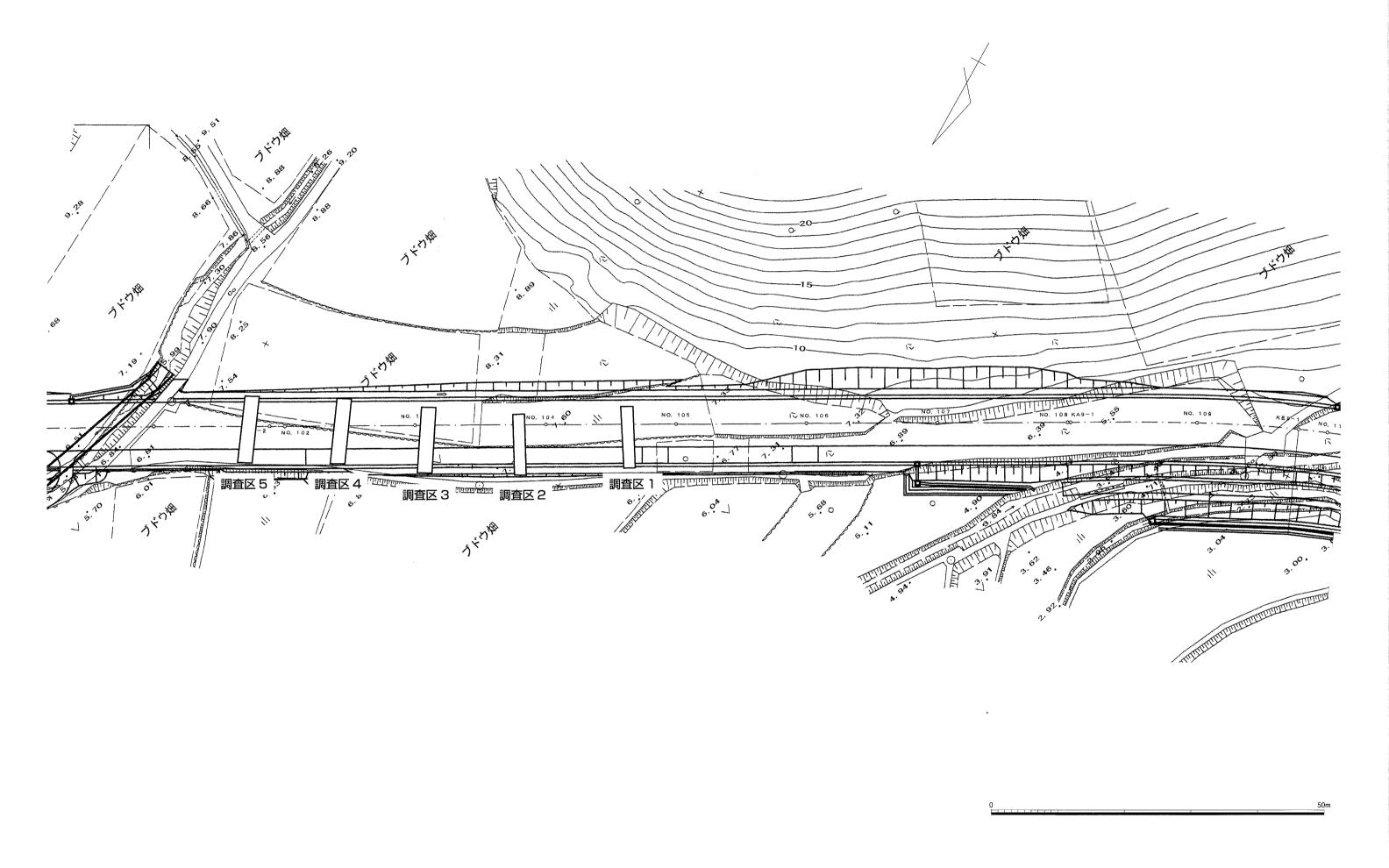
調査区 $1\sim5$  で出土した遺物はいずれも、磨耗した土師器片であり出土量もごく少量であった。おそらく当地南側の丘陵斜面からの流れ込みではないかと思われる。時期を特定できる遺物はなかった。

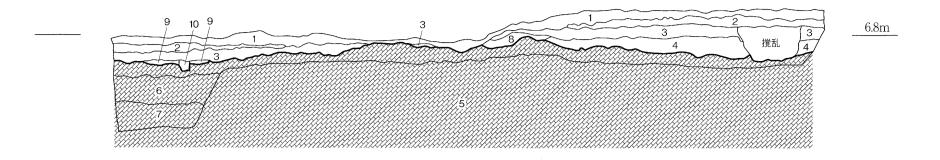


写真3 北池向遺跡 遠景(北東上空から)



写真4 北池向遺跡 調査区5 調査状況 (東から)

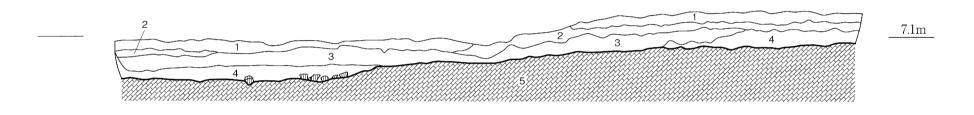




- 1. 灰色粘質土(畑耕作土) 2. 灰色粘質土
- 3. 暗灰黄色粘質土
  - 4. 黄灰色粘質土(小礫含む) 5. 黄灰色土(地山)

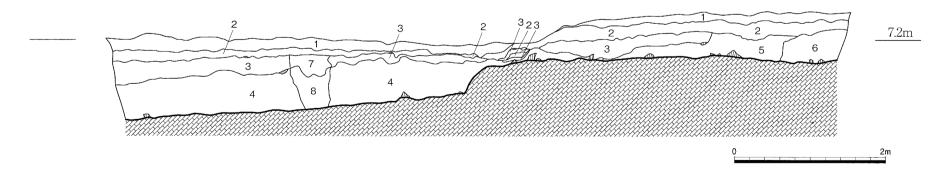
- 6. 灰黄色土(地山)
- 7. 暗灰色土(地山) 8. 暗黄色粘質土
- 9. 灰黄色粘質土
- 10. 暗灰色粘質土

第31 図 北池向遺跡 調査区 1 東壁断面図 (1/50)



- 1. 灰色粘質土 (畑耕作土) 2. 灰色粘質土 3. 黄灰色粘質土 (小礫含む) 4. 黄灰色土 (礫含む) 5. 黄灰色土 (地山)

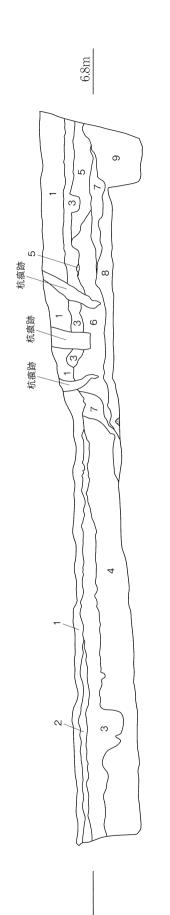
# 第32図 北池向遺跡 調査区2 東壁断面図 (1/50)



- 1. 灰色粘質土(畑耕作土) 2. 灰色粘質土

- 6. 黄灰色土(礫多く含む) 7. 灰色粘質微砂 8. 灰淡黄色土
- 9. 黄灰色土(地山)
- 3. 黄灰色粘質土(礫含む) 4. 黄灰色土(礫多く含む) 5. 暗灰黄色土(礫多く含む)

第33回 北池向遺跡 調査区3 東壁断面図 (1/50)



灰色粘質土(畑耕作土)
 黄灰色粘質土

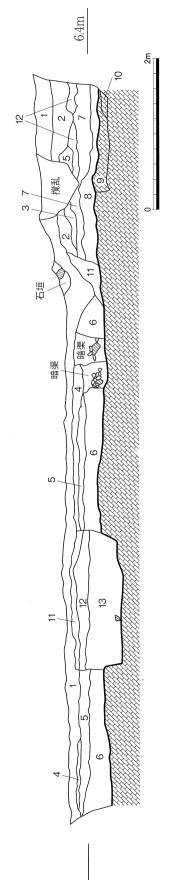
明灰色粘質土 9. 明灰色粘質
 7. 黄灰色土

3. 淡灰黄色土 (礫含む)
 8. 黄灰色土 (小礫含む)

4. 黄灰色土 (礫多く含む)9. 黄灰褐色土

黄灰色土 (小礫少含む) 2





灰色粘質土 (畑耕作土) 1. 5. 9.

淡灰黄色土

暗灰色粘質土 黄灰色粘質土 6.

灰色土 (小礫多く含む)

黄灰色土 (小礫多く含む)

淡黄灰色土

- 暗灰色粘質土 (黄灰色土ブロックを含む) 黄灰色粘質土 3. | 7. |
  - 明灰色土

- 黄灰色粘質土 4. 淡黄灰色土
  - 淡灰黄色土 8.

東壁断面図 (1/50) 調査区 5 北池向遺跡 第35図

# 第4節 山田辻畑遺跡

邑久町山手の標高 135m の高砂山と邑久町山田庄の貴船神社の立地する丘陵の谷部にあたり、南西に広大な千町平野を望む、南北に伸びる標高 6m を測る丘陵の頂部から西側斜面にかけてが、工事計画地内になっていた。そこで、試掘調査の成果をもとに丘陵部に 4 箇所、低位部に 1 箇所の計 5 箇所の調査区を設け調査を行った。(第 36 図)

### 調査区 1

計画地内の丘陵頂部から南へ緩やかに下がる畑地の斜面に設定した調査区である。4×20mの南北に長い調査区を設定し調査をした結果、厚さ約20cmの第1層の暗灰褐色土層である畑耕作土を除去すると南側低位部では、直下が岩盤層の風化角礫を含む第5層の角礫層がありその下が地山層であった。北側の高位部側から調査区中ほどにかけては、耕作土下に第2層の黄灰色土が約10cm堆積し、その下層には岩盤層の風化礫を含んだ第3層の灰黄色土層が約10cm堆積していた。また、岩盤面の窪地には、岩盤層が風化した粘質の強い第4層の黄灰色粘質土が堆積していた。(第37図)

遺構等は確認できなかった。

遺物は、表土から第3層の灰黄色土層にかけて少量の土師器片、須恵器片が出土した。

### 調査区2

調査区1の北側平坦部から西側へなだらかに傾斜する位置に設定した調査区で、西端部は急激に落ちている。2×16mの東西に長い調査区を設定し調査をした結果、調査区東部は、第1層の暗灰褐色土層である畑耕作土が堆積し、直下は岩盤層であるが、調査区の中ほどから西側は耕作土と岩盤層の間に岩盤層が風化し粘土質になった第4層の赤黄褐色粘質土や第3層の地山礫片を多く含む茶灰色粘質土が堆積している。(第38図)

遺構は確認できなかった。

遺物は、調査区1と同様、表土から第3層の地山面にかけて土師器片、須恵器片が僅かに出土した。

### 調査区3

計画地内の南端部で緩やかに下がる斜面から丘陵端部に設定した当遺跡の想定範囲南端部に位置する幅 10m、最大長 20m の調査区である。調査区1を設定した畑地からは、大きく一段下がる畑地である。遺構は、調査区中央分で 50 基足らずの多数の柱穴、土壙 1 基、貝塚 1 箇所などを検出している。検出した多数の柱穴は、直径が 30~45 cmの大きさのものと 20 cm弱の大きさのものに分かれる。いずれの柱穴も、その多くが基盤層を数十cm掘り込んでいる。土壙 1 は、調査区の中央西寄りで検出した。大きさは、東西 120 cm、南北 80 cm、深さ 50 cmを測り、平面形は楕円形を呈している。堆積土は 2 層に分層でき、下層に約 10 cmの厚さで灰黄色粘質土、上層は、10~20 cm大の角礫十数個を含む明灰黄色粘質土である。遺物として、土師器片が出土している。丘陵最南端部で小規模な貝塚を検出した。規模は、東西 4.0m、南北 3.0m の範囲に広がり、厚さは最大部で 30 cmを測る。貝塚を形成する貝はすべてヤマトシジミで構成され、第 43 図第 3 層の貝塚上層から 97 と貝塚下層から縄文土器 99~101 が出土した。

### (第 $39 \sim 43 \cdot 56$ 図)

遺物は、畑耕作土および耕作床土では須恵器片、土師器片が少量出土している。その下層の第 10 層 明灰黄色土層から土師質の甑 107 が出土した。また、基盤層直上の第 3 層暗灰色粘質土層、第 5 層暗 灰褐色粘質土層からは、弥生土器高杯 102、甕 103 を含む土器片が多数出土しており、特に南端部の 落ち際付近では、まとまって出土している。このほかにも表土から包含層にかけて土師器高杯 104、瓦質の土鍋 106、土錘 C 3 が、廃土中から須恵器杯身 105 が出土した。

# 調査区 4

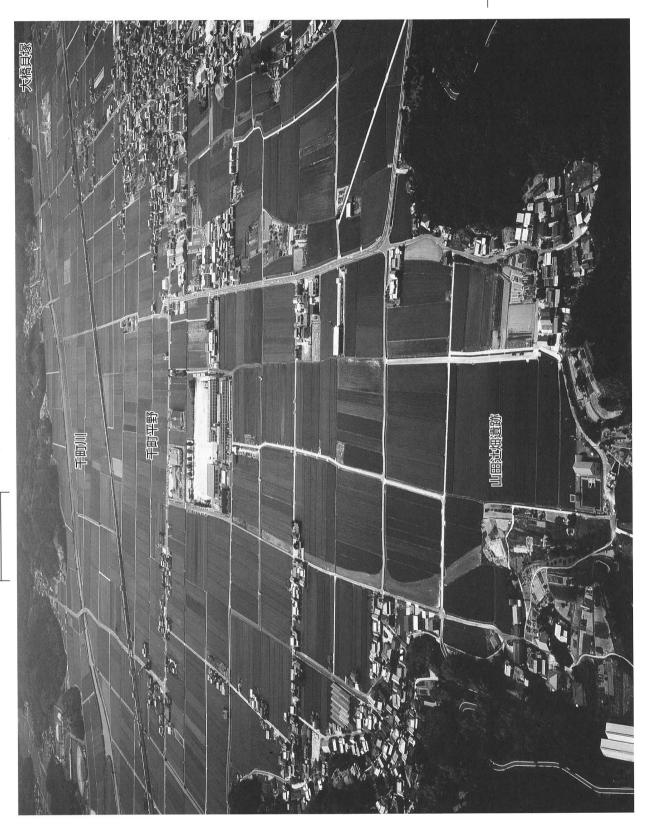
調査区2の北側で丘陵部西端部に設定した調査区である。2×6mの調査区を設定し調査した結果、 丘陵の斜面に並行するように基盤層を掘り込んだ幅約0.6m、深さ約0.2mを測る溝状遺構を1条確認 した。この溝状遺構は、基盤層が風化、堆積した第6層の黄橙色の砂礫が堆積していた。

遺物は調査区全体でもほとんど見られず、わずかに土師器、須恵器の小片が出土した。

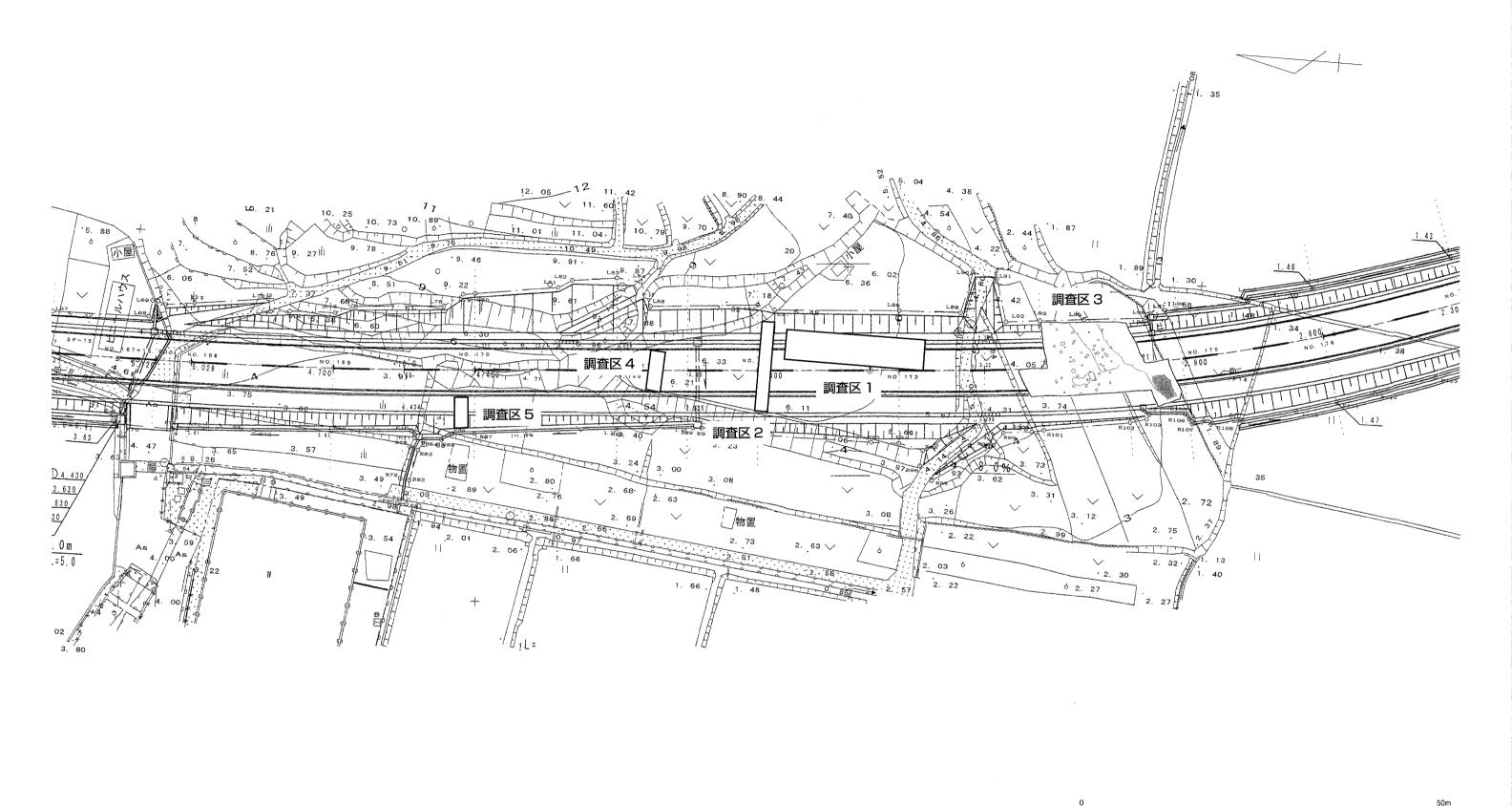
## 調査区5

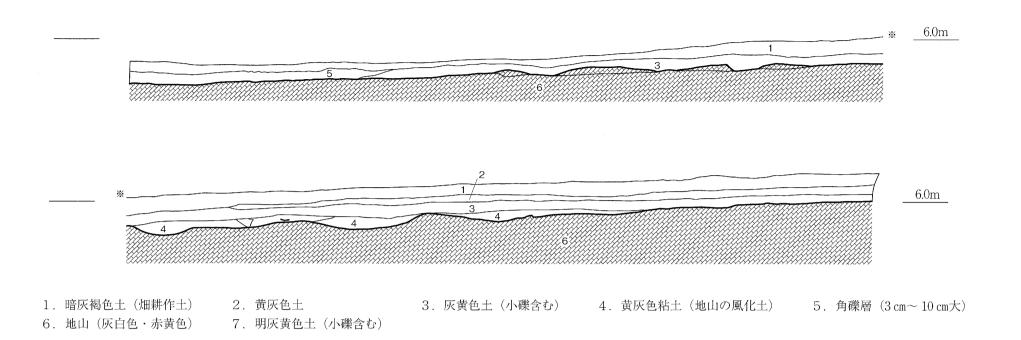
計画地内での丘陵西側の低地部の北部に設定した調査区である。2×8mの調査区を設定し調査した結果、丘陵西側の端部が確認できた。厚さ約20cmの耕作土を除去すると調査区西側2/3は、耕作土床土である第2層の黄灰色土が約20cm堆積し、その下層に小礫片を多く含んだ第3層の黄褐灰色粘質土が堆積し、下層は基盤層になっている。

遺物は、第3層から磨耗した少量の土師器、須恵器の小片が出土した。

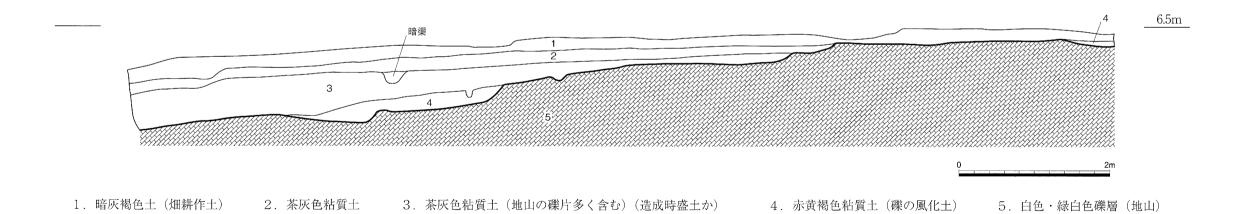


— 56 —

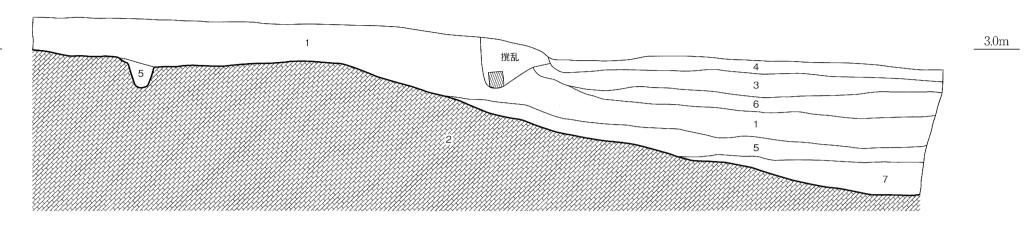




第37図 山田辻畑遺跡 調査区1 西壁断面図(1/50)



第38図 山田辻畑遺跡 調査区2 北壁断面図 (1/50)

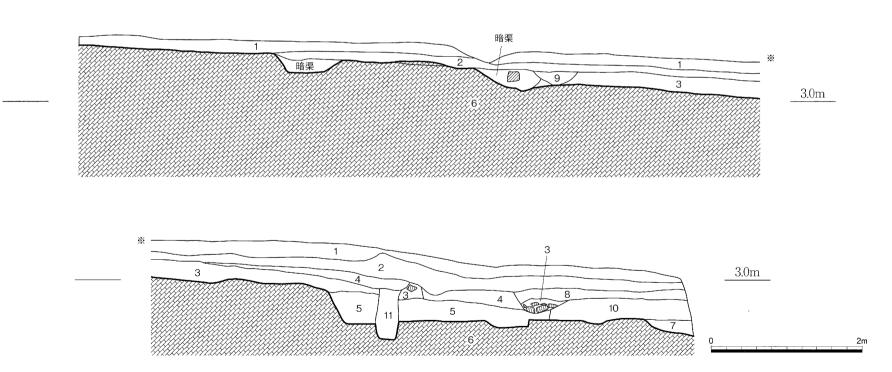


- 1. 灰色粘質微砂(畑土)

- 2. 灰白色礫(地山) 3. 淡黄灰色粘質土 4. 灰色粘質微砂(畑耕作土) 5. 灰色粘質土(小礫片含む)

- 6. 明灰色粘質土
- 7. 暗灰色粘質土(弥生土器多く含む・小礫片含む)

## 第39図 山田辻畑遺跡 調査区3 東壁断面図(調査区3 東拡張区)(1/50)



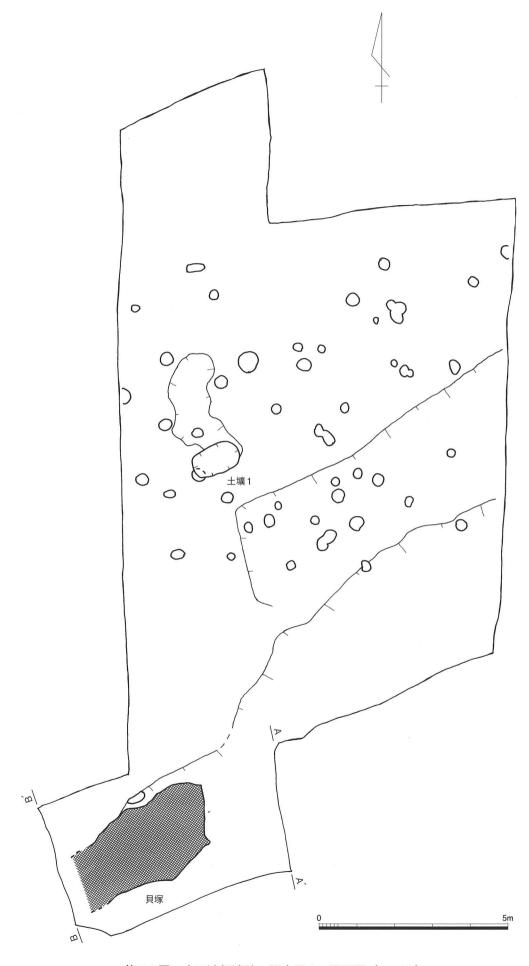
- 1. 暗灰色土(畑耕作土)
- 2. 明淡黄灰色土
- 6. 黄色・白灰色風化礫(地山) 7. 暗灰色粘質土(礫片少々含む)
- 3. 灰色土(礫片少し含む)

8. 淡黄灰色土

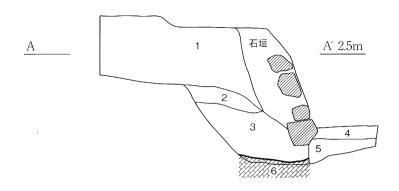
- 4. 淡黄灰色土(礫片少し含む)
- 5. 暗灰褐色粘質土 (基盤の礫片多く含む)
- 9. 暗灰色粘質土
- 10. 明灰黄色度 (礫片少々含む)

11. 灰淡黄色土

第40図 山田辻畑遺跡 調査区3 中央断面図 (1/50)



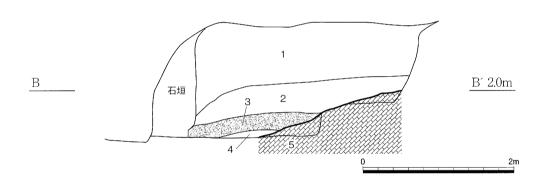
第41図 山田辻畑遺跡 調査区3 平面図 (1/100)



- 1. 明灰淡黄色粘質微砂(耕作土)
   2. 灰色粘質土(小礫含む)
   3. 暗灰色粘質土(包含層小礫含む)

   4. 水田耕土(暗灰青色粘質土)
   5. 灰色粘土(水田床土)
   6. 地山

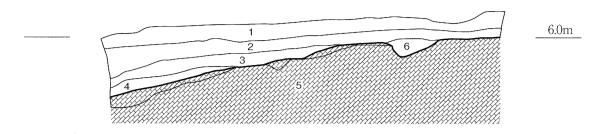
第42図 山田辻畑遺跡 調査区3 東壁断面図 (1/50)



- 1. 灰淡黄色土 (畑土) 2. 暗灰色粘質土 (小礫片含む) 3. シジミ貝層

- 4. 赤黄色粘質土
- 5. 地山

第43回 山田辻畑遺跡 調査区3 貝塚西壁断面図(1/50)

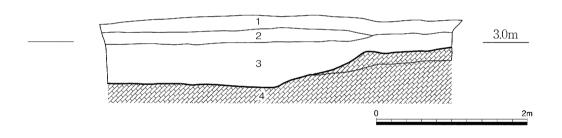


- 1. 暗茶灰色土 (畑耕作土) 2. 明灰茶色粘質土

3. 明灰淡黄色粘質土

- 4. 灰茶色粘質土
- 5. 基盤風化土 (灰白色・黄茶色礫含む) 6. 黄橙色砂礫

第44図 山田辻畑遺跡 調査区4 北壁断面図 (1/50)



- 1. 暗灰淡黄色粘質土(畑耕作土)
- 3. 黄褐灰色粘質土(小礫片含む)
- 2. 黄灰色土
- 4. 黄褐色粘質土

第45図 山田辻畑遺跡 調査区5 北壁断面図 (1/50)



写真 6 山田辻畑遺跡 調査区3 貝塚調査状況(北から)



写真7 山田辻畑遺跡 調査区3 貝塚検出状況(北から)

# 第4章 まとめにかえて

# 第1節 遺跡の意義について

### 福里遺跡

今回発掘調査した調査区は想定している遺跡の範囲の南縁部にあたる。

平成5年(1993)に干田川改修工事に伴う発掘調査を行った際に、遺跡東側の調査区からややまとまって古代の須恵器が出土したほかは、検出遺構も中世以降のものが大半を占め、遺構密度も希薄で、出土した遺物も少量であったと報告されている。(註1)今回の調査範囲でも、溝状遺構と柱穴・土壙状遺構を検出したが遺構密度は低く、いずれも時期を特定できる遺物はなかった。

今回の調査区を含め現在の干田川から南側での遺構検出が少ない理由は、基盤層上面での旧地形の 残存状態が良く小さな凹凸まで(図版 1)残っていることから、単純に削平によって遺構が消滅したと は考えにくく、干田川の流路が元禄 3 年 (1690) に改修され、現在の位置になる以外に大きな削平を受 けずに断続的に水田が営まれていたのではないかと考えられる。

前回の岡山県教育委員会の埋蔵文化財発掘調査報告書でも記されているが、出土遺物の少なさや遺構密度の低さから、遺跡の中心部は現在の干田川から北側に存在していると考えられる。

また、干田川南側で今回の調査区4の西側の調査区から縄文時代後期の土器が、東側の調査区から 奈良時代から鎌倉時代にかけての須恵器がまとまって出土している。さらに、木鍋山の北裾を挟んだ 西側の土師東遺跡からも縄文時代後期の土器が出土していることから、縄文時代の遺跡が希薄な地域 にあって木鍋山近辺に縄文時代の遺跡の存在を考えてもよいと思われる。

### 大谷口遺跡

大谷口遺跡は、長船町宮下から邑久町北池集落を経て桂山の南西裾をとおり長船町亀ヶ原から邑久町水落へ抜ける古道があり昭和30年代まで、往来があったと聞いている。ここを通る行程は錦海湾、 尻海へ行くには最短となり生産された須恵器の製品を陸路で錦海湾・尻海へ運び海路にて都へ搬入する経路としては適していると思われる。

近年では、転作等により水田からぶどうや梅などの果樹園や畑としての使用が多くになっていると ころがあり、そのための大掛かりな地形改変が行われた形跡がいくつか窺える。

これまで遺跡西側の甲山から北東へ派生する舌状丘陵の東斜面には6世紀中葉の木鍋山1号窯跡が確認されている。また、遺跡東側の桂山南東斜面には7世紀前半の亀ヶ原1号窯を初め複数の窯が確認されていたが、木鍋山1号窯跡から亀ヶ原1号窯跡までの桂山の西側斜面から南側斜面また、甲山西側斜面から南側斜面にかけては、窯の存在が確認されておらず、邑久古窯跡群の中で木鍋山1号窯跡が長船平野に近接し独立したような存在であった。

大谷口遺跡で想定する窯は、調査区位置が大きく離れた調査区4のグループと調査区1及び調査区9のグループに分けられる。いずれの調査区からも大小多数の窯壁片とともに多数の須恵器片が出土している。これらの出土遺物から操業時期は調査区4のグループが6世紀末から7世紀初頭、調査区1及び調査区9のグループが7世紀中葉から8世紀前半にかけて操業されていたと推測され、併せて

2基以上の須恵器窯の存在が窺えることとなった。今回調査対象区域外ということもあり、残念ながら窯本体の位置の特定には至らなかったが、大谷口遺跡の東西両斜面に各1基以上の窯の存在が窺えたことは、邑久古窯跡群の変遷を探るうえで貴重な成果になると思われる。

# 北池向遺跡

今回の調査から北池向遺跡は、いずれの調査区から出土した遺物も磨耗した状態で小さなものであることから、出土土器の供給元となる場所は現在地より南の山側であることが考えられる。また、高砂山から北に下る大きな谷部から平坦部になるなだらかなところに位置する遺跡であり、高砂山から多量の土砂の流入による堆積があったと推測される。現在の果樹園や畑地にするときにかなり大規模な地形の改変を伴う開墾が行われたことが窺える。今後、これらのことから遺跡範囲等を見直す必要が考えられる。

## 山田辻畑遺跡

今回の調査区から北東の丘陵上で以前、旧邑久考古館長の長瀬薫氏により竪穴住居跡の柱穴が検出されており、集落関係の遺構の存在が期待されたが、調査区域での丘陵頂部から尾根にかけて緩斜面では、出土遺物も極めて少量で遺構はまったく検出されなかった。現平地面から一段上がる丘陵南端部緩斜面の調査区3で、土壙1基と柱穴群が検出された。柱穴から出土する土器片はいずれも磨耗が著しく極少量であるが、弥生時代中期から古墳時代初頭や古代から中世の土器が出土している。また、3~4個程度の柱穴状のピットが一列に並んでおり掘立柱建物あるいは柵列が想定されるが遺構の性格については不明である。

丘陵先端部で検出した貝塚は、ヤマトシジミのみで形成され、貝塚中から縄文時代晩期の土器が出土している。千町平野に隣接する丘陵端部に位置する縄文時代の貝塚として、大橋貝塚、宮下貝塚、山手貝塚、真徳貝塚Bなどが存在するが、晩期に属する貝塚は今回検出したものが唯一で、門田遺跡、堂免遺跡、熊山田遺跡など微高地上に生活の痕跡を残していく遺跡との関係など縄文晩期の遺跡の性質を推測する上で貴重な資料になると思われる。

註

(1) 氏平昭則·岡本泰典「土師東遺跡・福里遺跡」『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告 95』 岡山県教育委員会 1994

# 第2節 出土遺物について

### 大谷口遺跡 調査区 1

調査区1から出土した遺物で図化できた遺物は、弥生土器1・2、須恵器3~5、土製品C1・C2 である。以下、遺物について概要を加える。甕1は口縁部を「く」の字状に外反し、端部を上方へ拡 張し、外面に凹線文を施す。復元口径は18.0 cmを測る。時期は弥生時代中期後葉頃と考えられる。2 は平底の底部から大きく開きながら立ち上がる形状から壺と推察される。胴部外面には縦方向にヘラ ミガキが施されている。時期は弥生時代中期頃と考えられる。杯蓋 3 は天井部の丸みが無くなり平ら 気味で、口縁部をほぼ垂直に屈曲し端部を丸くおさめる。外面天井部はヘラケズリ、他はヨコナデを 施す。口径は11.7 cm、器高4.0 cmを測る。時期は7世紀前半頃と考えられる。杯身4~6 は口縁受部 にかえりを有するもので、かえりは内傾し、高さ約8~10 mmを測る。6 のかえりは 4・5 と比べると やや低く、器高も低い形状を呈する。3・4の外面底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。4の口径 は 10.4 cm、器高 4.1 cm、5 の口径は 10.8 cm、器高 4.0 cm、6 の復元口径は 11.4 cmを測る。4 ~ 6 の時 期は7世紀前半頃と考えられる。杯蓋7は宝珠状のつまみ片で先端部分は丸く仕上げている。時期は 7世紀中頃と考えられる。杯蓋8~12は扁平なつまみにかえりのない口縁形態を有するもので、8の つまみは中央先端部が高くなっており宝珠状の形状の面影を残している。9のつまみは碁石状の扁平 な形状を呈する。10~12の口縁端部を短く屈曲する。10・12の天井部はほぼ水平状に扁平な形状を 呈し、11 は皿状伏せた形状を呈した。10 の復元口径は 10.9 cm、11 の復元口径は 16.8 cm、12 の復元 口径は 17.3 cmを測る。8~12 の時期は7世紀後半~8世紀初頭頃と考えられる。13 は台形状に4面 及び先端部をヘラ状工具により平坦にヘラケズリしたつまみないし把手状の一部と考えられる遺物で、 先端部を除く4面に先端部が極めて細い工具により斜め方向に線刻を施すものである。斜めの施す線 刻は各面の方向を交互に施し、上端部は斜格子状に施されている。装飾性のあるつまみであり、中空 円面硯の把手の可能性もあろう。14は偏平で楕円状の粘土を指押さえによりやや上向きに作った鉢の 把手と考えられる。15 は円面硯の硯面の破片で、脚部を欠くが方形のスカシが施されていたことを断 面から確認することが出来る。甕 16 は椀状に内傾する口縁部片で、沈線により区画された外面に櫛 状工具により波状文を施す。他はヨコナデを施す。**C1**は手づくねにより棒状延ばし、底面を平坦にし、 先端部を外に引き出す形状を呈する土製品である。上端部は破損している。焼成は土師質で、胎土は 砂粒を含み、色調はにぶい黄橙色を呈している。獣足状の形状から陶馬の脚部の可能性が考えられる。 C2は勾玉状を呈する土製品で断面は四角形を呈している。上端部を欠いている。外面にはヘラ状工 具により形状に合わせ2~3状の沈線を施す。胎土は長石・石英を多く含み、色調は浅黄色で、焼成 はややあまい。器種については不明である。(第46図)

## 大谷口遺跡 調査区 4

調査区4から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器  $17 \sim 69$  の須恵器のみである。以下、遺物について概要を加える。杯蓋  $17 \sim 22$  は天井部がやや丸みを有する  $17 \cdot 19 \cdot 21 \cdot 22$  と丸みがなく平坦となる  $18 \cdot 20 \cdot 23 \cdot 24$  が認められる。17 を除き口縁端部近くを垂直ないし内傾し端部を丸く仕上げている。17 は口縁部近くの屈曲位置が他の杯と比べ高い位置にあり、宝珠状つまみに口縁部内側に

かえりを有する杯蓋とセットとなる杯身となる可能性も考えられる。17 の口径は 9.3 cm、器高は 5.0 cmを測る。**23・24** は天井部がヘラケズリ、他はヨコナデを施す。**18 ~ 24** の口径は 10.0~12.4 cm、器 高は 3.9 ~ 5.2 cmを測る。時期は 7 世紀前半~中頃と考えられる。(第 47 図)杯身 **25 ~ 34** は口縁受 部にかえりを有するもので、かえりは内傾するものがほとんどである。25 のかえりは上方へ立ち上 げ、高さ約11 mmを測り、他の杯よりやや高い。32・34 の外面底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施 す。口径は 10.0 ~ 13.8 cm、器高は 3.0 ~ 4.4 cmを測る。25 の時期は 6 世紀末頃、26 ~ 34 の時期は 7 世紀初頭頃と考えられる。杯蓋35はつまみ部分のみで中央部が大きく窪んでいる。36・37は有蓋高 杯の杯部で口縁受部に蓋受けのかえりを有する。37の杯底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。36 の復元口径は 12.0 cm、37 の復元口径は 11.5 cmを測る。39 は無蓋の高杯で椀状に立ち上がり口縁端部 を丸く仕上げる。杯底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。復元口径は 12.5 cmを測る。38 は高杯の 脚部で脚部中央に1条の凹線を施し、上下2段の細長いスカシを有する。40~42は高杯の脚部で40 の高さは 3.2 cmで低いタイプ、41・42 の高さは 5.1、7.0 cmで高いタイプである。42 の脚部中央には 1 条の凹線を有する。台付椀 43 は椀部が内湾しながら垂直に立ち上がり口縁部でやや外反するようで ある。台部は大きく開く形状を呈する。椀部の下端はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。腺 44・45 は球形の胴部の肩部に2状の沈線を施し体部最大径の位置に円孔を穿つ。46 は肩部に1状の沈線を施 す。破片のため円孔部分は残存していないがはそうであると考えられる。45・46 は体部下半がヘラケ ズリ、他はヨコナデを施す。短頸壺 47・48 は胴張りのある体部に頸部から短く直立気味の口縁部を 有し、端部を丸く仕上げる。体部の最大径のやや上に1条の沈線を施す。48 の底部はヘラケズリ、他 はヨコナデを施す。復元口径は 7.0 cm、器高は 10.9 cmを測る。壺 49 ~ 51 は球形ないし胴張りのある 体部片である。50の体部には1条の沈線、51の体部には2条の沈線を施す。51は大きく括れる頸部 からやや開き気味の口縁部を有する形状を呈する。(第48図) 壺52~54 は球形ないし大きく胴張り した体部に台状や高台状の脚が付く壺で、いずれも体部に1~2条の沈線を施す。いずれも長頸壺の 可能性が考えられる。鉢 55 は体部の径の割に器高が低い胴張りの体部に頸部から外反する口縁部を 有する形状である。体部最大径のやや上に1状の沈線を施す。底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。 復元口径は 14.3 cm、器高は 10.6 cmを測る。ミニチュア土器 **56** は壺ないし腺を模したミニチュア土器 で、平底から大きく張る体部で体部やや上部に1状の凹線を施し、口縁部を欠損している。小さいな がらつくりは丁寧な仕上げである。甕57は口縁部片で「く」の字状に屈曲した頸部に口縁端部をや や肥厚する。口縁部内面には「へ」の字に斜めに1本ヘラ書きを加えたようなヘラ記号が施されている。 調整は外面が格子状タタキ後カキ目、内面は同心円文の当て具痕が認められる。復元口径は 16.0 cmを 測る。甕 58 は復元により全形を知ることのできる唯一の資料である。尖底した底部から体部最大径 がやや上にあり、頸部から外反する口縁部の端部を僅かに内側に屈曲する。調整は外面が格子タタキ 後カキ目、内面は同心円文の当て具痕が明瞭に認められる。口径は 21.0 cm、器高 45.0 cm、体部最大径 42.8 cmを測る。甕 60・61 は内湾しながら立ち上がる口縁端部の外面を肥厚し、ヘラ状工具により縦 方向に線刻を施している。甕62は外反気味に立ち上がる口縁部外面にヘラ状工具により斜格子を施 している。甕63・64の口縁部内面にヘラ記号を施すもので、63は57と同様なヘラ記号と考えられる。 64 は縦に1条のヘラ記号である。甕 65 は外面がタタキ後カキ目、内面の当て具痕に車輪文を確認す ることができる。(第49図) 甕66は丸底で長胴の体部を有る形状を呈する。口縁部は欠損している。 外面には焼成時燃料は灰となり明オリーブ色の自然釉が玉だれとなって流れている。自然釉の流れか ら甕を焼成する際、口縁部を 45° 程度傾けていたことが推察される。調整は外面が格子タタキ後カキ目、内面が同心円文の当て具痕が施されている。甕 67 は外面がタタキ後カキ目、内面の当て具痕に明瞭な「+」字状の車輪文を確認することができる。68 は外傾しながら立ち上がる体部片で器壁が厚い。こね鉢でないかと考えられる。69 は手づくねにより断面が楕円形で端部に向かい上向きに仕上げられた 14 のような鉢の把手と考えられる。(第 50 図)

### 大谷口遺跡 調査区 5

調査区5から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 71 と土師器 74 である。以下、遺物について概要を加える。高杯 71 は杯部を欠く脚部ののみで、脚部端部近くで屈曲する。脚部の復元径は 9.8 cmを測る。甕 74 は長胴の体部に短く外反する口縁部を有し、端部を丸く仕上げる。体部外面は押さえ後タテハケを施す。内面は一部ケズリ後ナデを施す。(第 51 図)

### 大谷口遺跡 調査区 6

調査区6から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 70 のみである。以下、遺物について概要を加える。杯身 70 は口縁受部にかえりを有するもので、かえりは内傾する。かえりの高さ約8 mmを測る。底面は平坦な形状を呈する。外面底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。復元口径は 10.8 cm、器高は 3.5 cmを測る。(第51 図)

### 大谷口遺跡 調査区 12

調査区 12 から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 **72** のみである。以下、遺物について概要を加える。平瓶 **72** は体部から口縁部の一部で、口縁部の端部はやや内傾しながら丸く仕上げている。口径は 7.0 cmを測る。(第 51 図)

### 大谷口遺跡 調香区 17

調査区 17 から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 **73** のみである。以下、遺物について概要を加える。平瓶 **73** は口縁部のみで、口縁端部に向かい直線的に立ち上がり端部を丸く仕上げている。 **72** と比べると口径、高さとも一回り小形の平瓶となるようである。(第51図)

## 大谷口遺跡 調査区 9

調査区 9 から出土した遺物で図化できた遺物は、須恵器 75 ~ 94、土師器 95・96 である。以下、遺物について概要を加える。杯蓋 75 は天井部を欠くが、全体が椀状に丸く仕上げ、口縁端部を屈曲し直線気味に下げ、端部を丸く仕上げている。内外面ともヨコナデを施す。復元口径は 12.2 cm、器高4.1 cmを測る。時期は 7 世紀前半頃と考えられる。杯身 76 は口縁受部にかえりを有するもので、かえりは内傾する。かえりの高さ約 9 mmを測る。底面は平坦な形状を呈する。内外面ともヨコナデを施す。復元口径は 9.5 cm、器高は 3.7 cmを測る。時期は 7 世紀前半頃と考えられる。杯蓋 77 は天井中心部に宝珠状のつまみを貼り付けている蓋である。時期は 7 世紀中頃と考えられる。杯蓋 78 ~ 81 は皿状の天井部の偏平なつまみを貼り付け、口縁端部が短く屈曲する形状を呈する杯蓋である。つまみの形状は 78 のように偏平ながら宝珠状の面影を呈するものや、79・80 のように碁石状に偏平なもの、81 の

ように中央部がやや窪んだものなど様々な形状が認められる。78 の復元口径は 16.0 cm、器高 3.2 cm、 79 の復元口径は 14.8 cm、器高 3.0 cm、80 の口径は 15.6 cm、器高 3.0 センチを測る。78 ~ 81 の時期は 7世紀後半~8世紀前半頃と考えられる。杯身82は平底の底部から内湾しながら立ち上がり、口縁部 を上方に屈曲させ端部を丸く仕上げている。内外面ともヨコナデを施す。復元口径は12.2 cm、復元底 径 6.4 cm、器高 4.1 cmを測る。時期は7世紀後半頃と考えられる。杯身 83 ~ 87 は底部が平坦で貼り 付け高台を有する身である。杯部の開き、高さ、高台の高さなどからいくらかにタイプ分けができそ うである。83・86は口縁部の開きが大きい、高台も高く「ハーの字状に外方に踏ん張るタイプである。 84・85 は口径に比べ器高が低くどっしりとし、高台も低いタイプである。87 は口縁部の開きが少なく、 杯部が高く深い、高台は低いタイプである。83 の復元口径は 13.8 cm、器高 5.1 cmを測る。86 の復元 口径は 17.8 cm、器高 4.5 cmを測る。**84** の復元口径は 13.0 cm、器高 3.3 cmを測る。**85** の口径は 13.8 cm、 器高 4.3 cmを測る。87 の口径は 15.9 cm、器高 6.7 cmを測る。皿 88 は偏平な底部から口縁部は外傾しな がら立ち上がり、端部を丸く仕上げている。外面底部はヘラケズリ、他はヨコナデを施す。復元口径 は 17.8 cm、底径 14.0 cm、器高 6.7 cmを測る。 83 ~ 87 の時期は 7 世紀後半~ 8 世紀前半頃と考えられる。 (第52図)89は口縁部片で外方しながら立ち上がり端部を丸く仕上げている。復元口径は11.8cmを測る。 こね鉢の口縁部と考えられる。平瓶 90 は口縁部、底部を欠く体部片で、肩が大きく張る体部を有する。 肩部の復元径は 18.0 cmを測る。甑 **91** は底部片で、焼成前のスカシ孔を確認することができる。甕 **92** は「く」の字状に外反する口縁部片で内面にヘラ状工具によるヘラ記号が施されている。復元口径は 25.3 cmを測る。甕 93 は甕の口縁部片で口縁部が内湾しながら立ち上がげ、端部を水平に仕上げている。 外面に2条の沈線を施し上部に1条の波状文、下部に3条以上の波状文を施す。復元口径は39.2 cmを 測る。甕94は外反する口縁部片で外面に沈線で区画された間に荒い波状文を3区画以上施す。95は 土師質で手づくね仕上げで、下に垂れた形状の把手である。鉢ないし甑の把手であろうか。竈 96 は 土師質で上端部から竈のひさし部分にあたると考えられる。(第53図)

#### 大谷口遺跡 出土石器

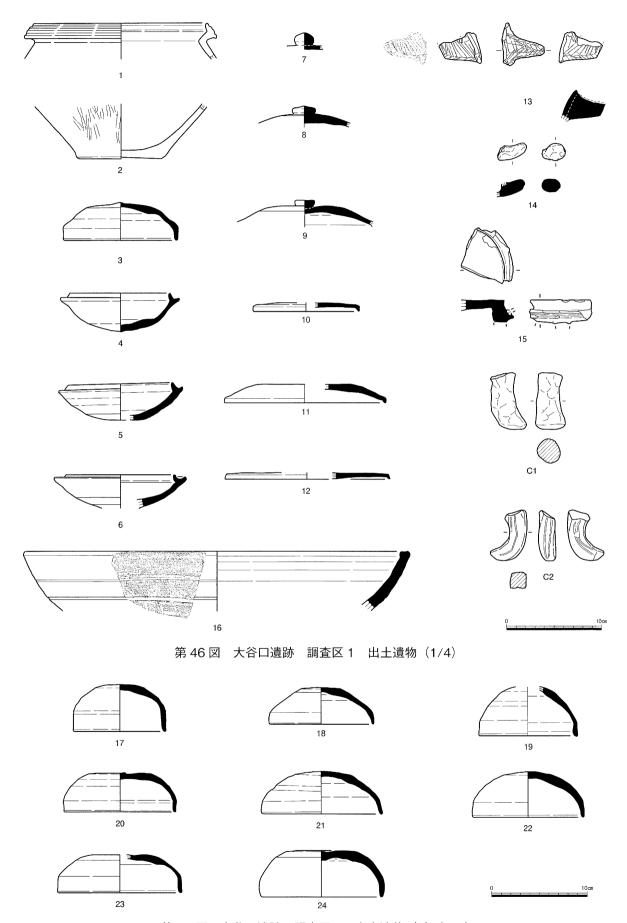
調査区  $4\cdot 6$  から出土した石器で図化できた遺物は、 $S1 \sim S4$  の石鏃のみでいずれもサヌカイト製である。以下、遺物について概要を加える。 $S1\cdot S2$  は基部の形状から、凹基式の石鏃で S2 は基部の決りが大きい。 $S3\cdot S4$  は平基式の石鏃で凹基式の石鏃  $S1\cdot S2$  と比べ長さが長い形状を呈する。調査区 1 で弥生時代中期の土器が出土しており、弥生時代の遺跡の存在の可能性と共に同時代の石器と考えられる。(第 54 図)

### 山田辻畑遺跡 調査区3

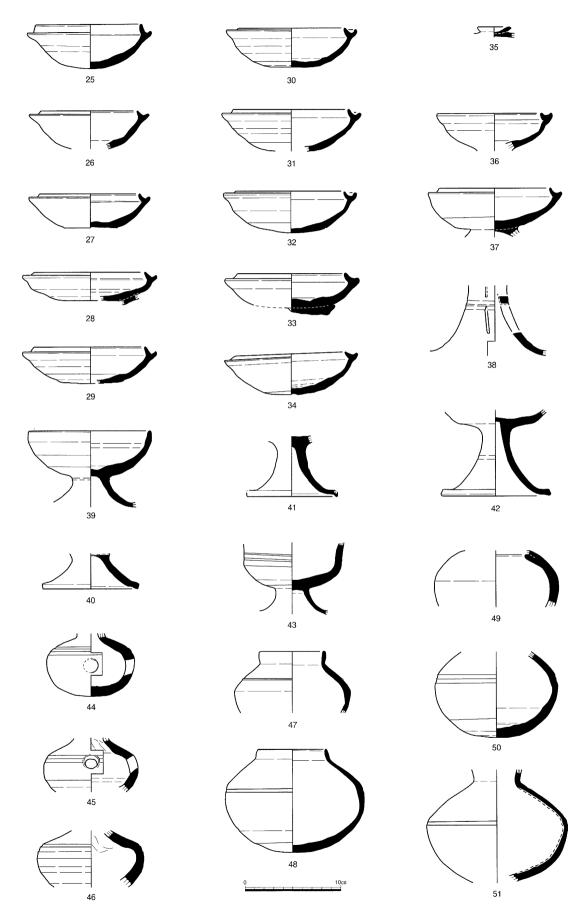
調査区3の貝塚と貝塚下層から出土した遺物で図化できた遺物は、縄文土器97~101である。以下、遺物について概要を加える。97は外面に二枚貝条痕が横方向に施し、口縁端部に斜め方向に刻み目を施す。98は外傾する口縁部の端部を水平に仕上げている。外面には97と同様、二枚貝条痕が横方向に施す深鉢である。99~101も外面は間隔の荒い工具により横方向に条痕が施されている。時期はいずれも縄文時代晩期と考えられる。(第55図)

貝塚以外から出土した遺物で図化できた遺物は、弥生土器 102・103、土師器 104・107、須恵器 105、瓦質土器 106、土製品 C 3 である。以下、遺物について概要を加える。高杯 102 は脚部片でク

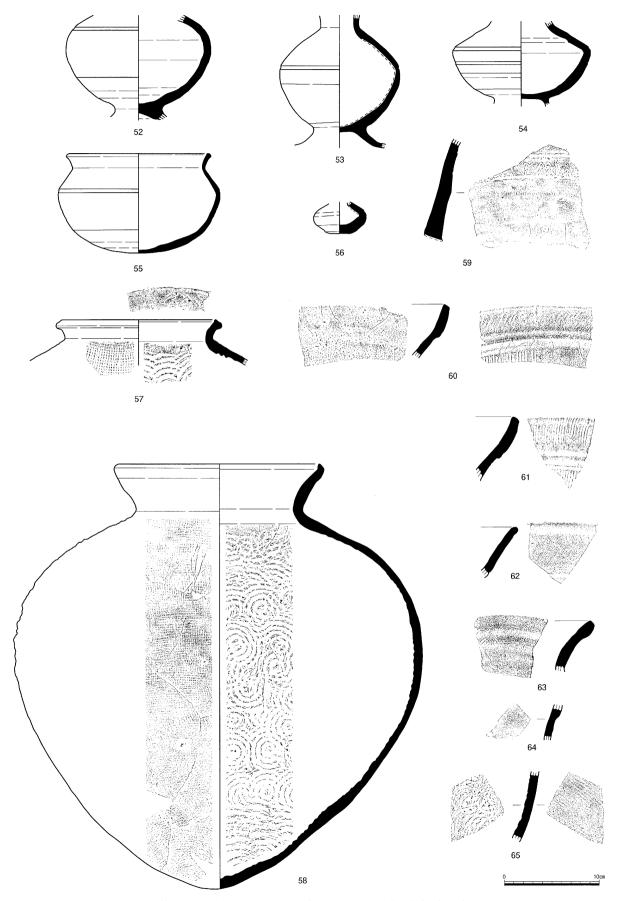
シ描平行文を 4条、下部にヘラ状工具による沈線を施し、透し孔を有する可能性がある。杯底部は円盤充填による剥離痕が認められる。時期は弥生時代中期後葉と考えられる。鉢 103 は「く」の字状に口縁部を外反する形状を呈する。外面はタテハケ、内面はヘラケズリ後ヨコナデを施す。復元口径は22.2 cmを測る。時期は弥生時代後期中葉と考えられる。高杯 104 は脚部のみで柱状部からラッパ状に大きく屈曲して広がる形状を呈する。復元底径は13.4 cmを測る。杯身 105 は底部が平坦で貼り付けやや外反しながら立ち上がる口縁部、断面が四角形を呈する低い高台を有する身である。復元口径は14.7 cm、底径11.3 cm、器高 4.2 cmを測る。瓦質土鍋 106 は体部に貼り付けられた耳状の把手部分である。大きさは、長さ8.0 cm、幅2.6 cmを測り、受け皿状の体部に貼り付けられている。体部と把手の上部中央には径8 mm程度の円孔が穿たれており、紐状のものが通され使用したものと考えられる。時期は中世と考えられる。甑107 は底部の中央に径3.4 cmを測る円形の1個の透し孔、それを取り囲む形で4 cm×3 cmを測る楕円形の4個の透し孔を施す甑である。底部から1 cm程度垂直に立ち上げ。長胴の体部で上部に断面が円形の把手が貼り付けられている。底径は11.8 cmを測る。土製品 C3 は管状土錘の完形品で、胴張りをほとんどしない管状の形状を呈する。長さは3.5 cm、径1.1 cm、中央に穿孔されている孔径は4 mmを測る。(第55 図)



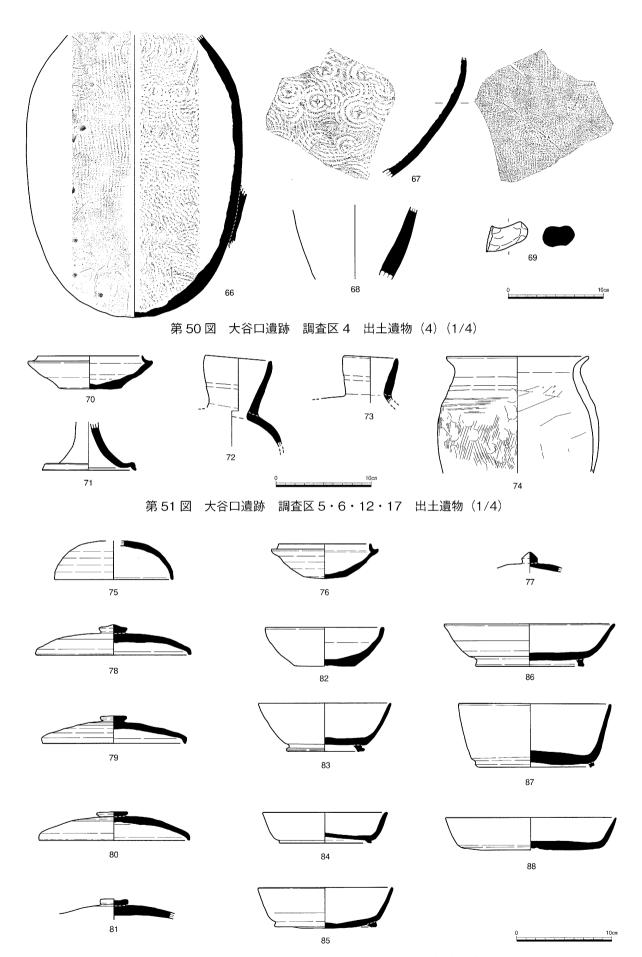
第 47 図 大谷口遺跡 調査区 4 出土遺物(1)(1/4)



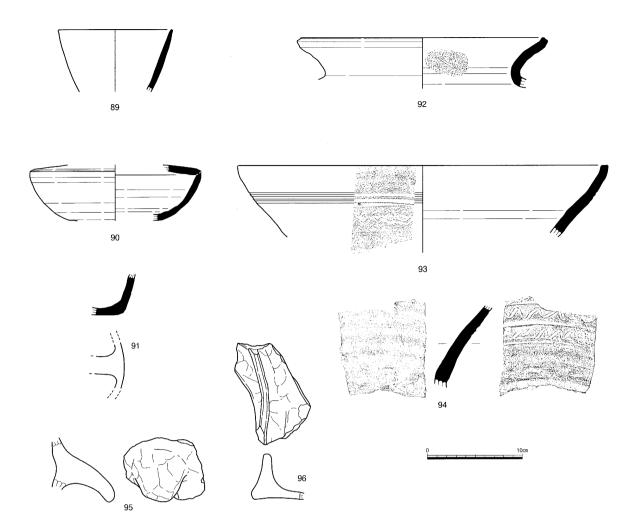
第48図 大谷口遺跡 調査区4 出土遺物(2)(1/4)



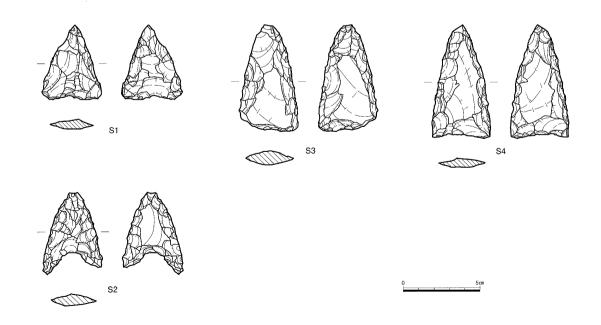
第49図 大谷口遺跡 調査区4 出土遺物(3)(1/4)



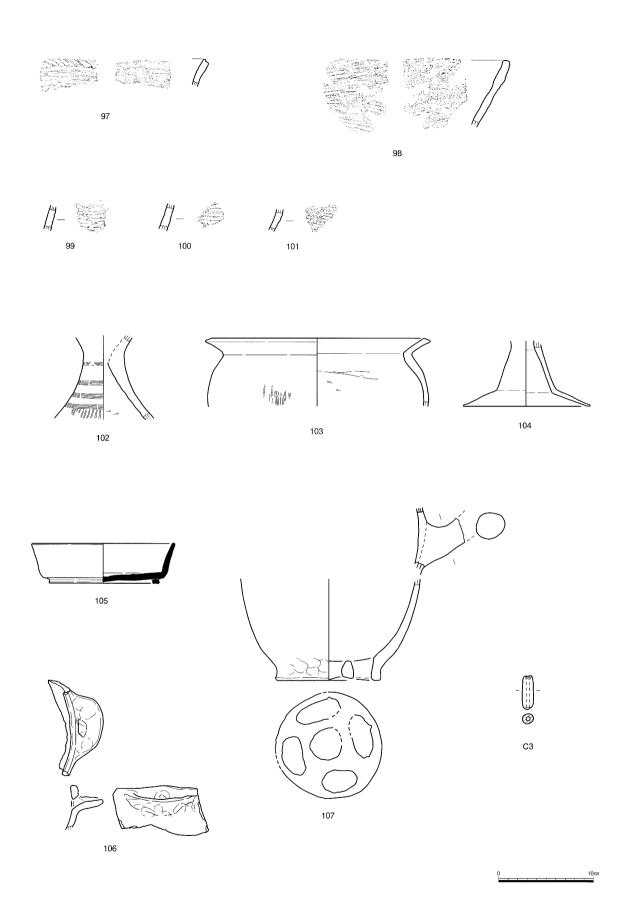
第 52 図 大谷口遺跡 調査区 9 出土遺物 (1) (1/4)



第53図 大谷口遺跡 調査区 9 出土遺物 (2) (1/4)



第54図 大谷口遺跡 出土石器(1/1)



第55図 山田辻畑遺跡 調査区3 出土遺物(1/4)



### 付載

### 大谷口遺跡出土須恵器の胎土分析

岡山理科大学自然科学研究所

白石 純

#### 1. 分析目的

この分析では、大谷口遺跡から出土した須恵器について理化学的な胎土分析を実施し、以下のことについて検討した。

- (1) 大谷口遺跡の各調査区から出土した須恵器(杯・高杯・壺・甕・鉢など)が調査区および器種別で胎土に差異があるかどうか調べた(なお調査区 4-2、調査区 9、調査区 1-2、調査区 1-1 では窒壁が出土していることから、遺跡周辺に須恵器窯があると推定されている(註 1)。
- (2) 大谷口遺跡出土の須恵器が他の須恵器窯と胎土的に比較して違いがあるかどうか検討した。比較検討した窯は、寒風古窯跡群(註2)の試料である。

#### 2. 分析結果

#### 分析方法・試料

理化学的な分析方法は、蛍光 X 線分析法で実施した。この方法は、試料に含まれる成分(元素)量を測定するもので、その成分量の違いから胎土の差を推定する方法である。また蛍光 X 線分析装置の特徴は、分析試料の作製が簡単で、測定も短時間のため、多量に試料を分析するのに有効である。しかし、測定試料は均質性が求められることから、分析試料を 2g ほど粉末にする必要があり、一部破壊分析である。

測定装置は、エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置(セイコーインスツルメンツ社製 SEA2010L)を使用し、 $SiO_2 \cdot TiO_2 \cdot Al_2O_3 \cdot Fe_2O_3 \cdot MnO \cdot MgO \cdot CaO \cdot Na_2O \cdot K_2O \cdot P_2O_5$  の 10 元素を測定した。第 1 表の出土試料分析値一覧表から CaO(カルシウム)、 $K_2O$ (カリウム)の元素に顕著な違いがみられた。そこで、これらの元素の XY 散布図を作成し、胎土の比較を行った。

なお分析に供した試料は、第1表に示した大谷口遺跡の各調査区出土の杯・高杯・壺・甕・窯壁など合計94点である。

#### 蛍光 X 線分析結果

第1図  $K_2$ O-CaO 散布図では、大谷口遺跡内の北地区(調査区 4-2)と中地区(調査区 9・調査区 1-2・調査区 1-1)の地区別での胎土を比較した。その結果、地区に関係なく調査区 4-2・調査区 9・調査区 1-2・調査区 1-1 の各須恵器とも  $K_2$ O 量が約 1.05% ~約 2.11%、CaO 量が約 0.22% ~約 1.31% の範囲に分布した。第 2 図  $TiO_2$ -CaO 散布図では、 $TiO_2$  量が約 0.39% ~約 0.98%、CaO 量が約 0.22% ~約 1.31% の範囲に分布した。また、各調査区から出土している窯壁 4 点は、まとまらず散漫な分布をした。

第3図  $K_2O$ -CaO、第4図  $TiO_2$ -CaO 散布図では、各調査区の器種別での胎土比較を行った。その結果、各調査区とも器種の違いで胎土に差はみられなかった。

第5図 $K_2O$ -CaO、第6図 $TiO_2$ -CaO 散布図では、大谷口遺跡と寒風窯跡群の胎土を比較した。すると、両遺跡ともそれぞれに一定の範囲内にまとまり、第5・6図のように分布範囲が半分ほど重複するが、完全に分布域が重ならなかった。

#### 3.まとめ

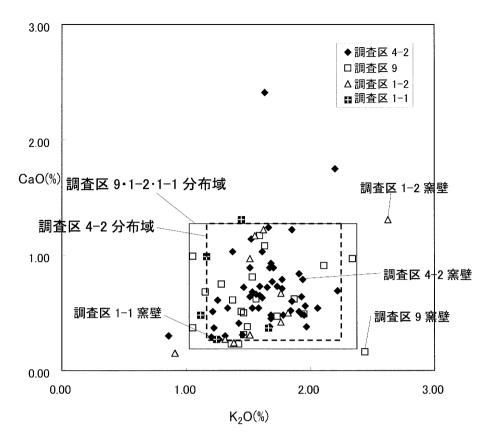
大谷口遺跡出土須恵器の胎土分析を実施したところ、以下のことが明らかになった。

- (1) 大谷口遺跡の地区別(調査区別)での胎土を比較したところ、地区別に関係なくほぼ全部の地区が同じ範囲に、1つにまとまる傾向にあった。したがって、各地区で窯跡が存在すると想定される大谷口遺跡出土須恵器は胎土的には差がなかった。また、各地区出土の窯壁は、すべてバラバラでまとまらなかった。これは、以前分析した寒田窯跡(註 3)では、1 つの窯跡から出土した窯壁はまとまる傾向がみられたことから、今回分析した大谷口遺跡出土の窯壁が各地区(調査区別)で異なることから、窯壁の分析値の検討からではあるが複数の窯跡が存在することが想定される。また、大谷口遺跡出土の須恵器で、器種別にも胎土に違いはみられなかった。
- (2) 大谷口遺跡と寒風古窯跡群との胎土比較では、両遺跡とも明確に胎土に違いがみられないものの、個々窯跡でまとまる傾向にあり、窯跡分布域がずれることが判明した。これは、大谷口遺跡に窯跡が存在することを推測するための分析結果になると考えられる。

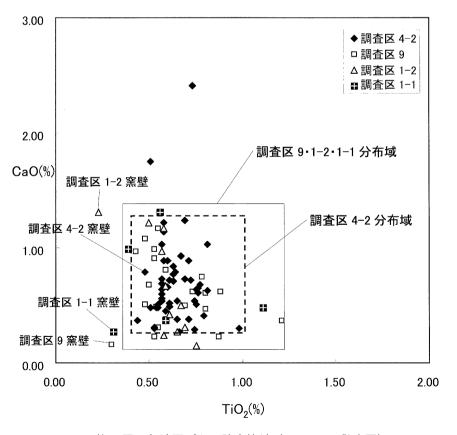
この分析の機会を与えていただいた、大谷博志氏および瀬戸内市教育委員会の職員の方々にはいるいろご教示いただいた。末筆ではありますが、記して感謝いたします。

註

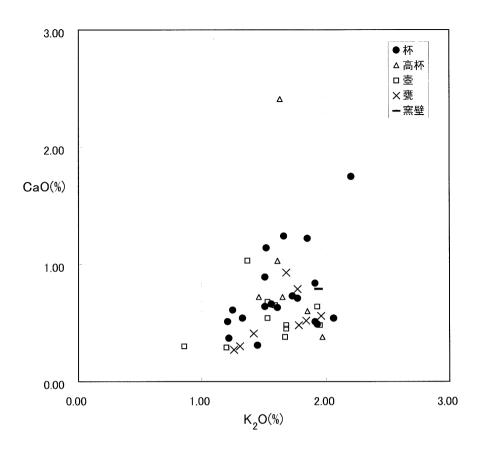
- (1) 大谷博志氏のご教示による。
- (2) 馬場昌一ほか『寒風古窯跡群』 瀬戸内市教育委員会 2009
- (3) 藤原好二・鍵谷守秀・小野雅明『寒田窯跡群 4 号』 倉敷市埋蔵文化財発掘調査報告第 10 集 倉敷埋蔵文化財センター 2003



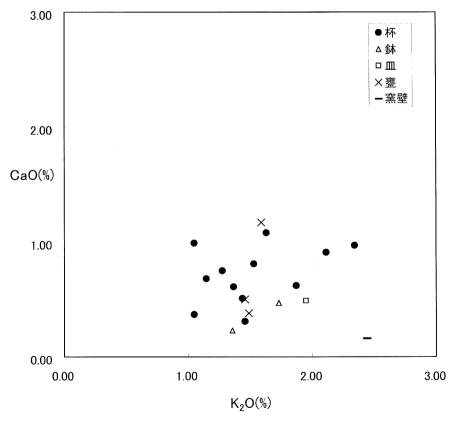
第1図 各地区別の胎土比較(K<sub>2</sub>O-CaO 散布図)



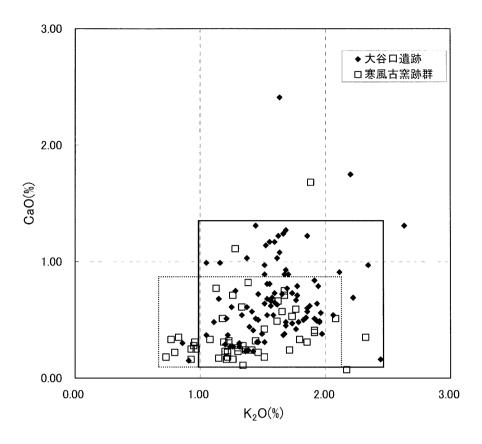
第2図 各地区ごとの胎土比較(TiO<sub>2</sub>-CaO 散布図)



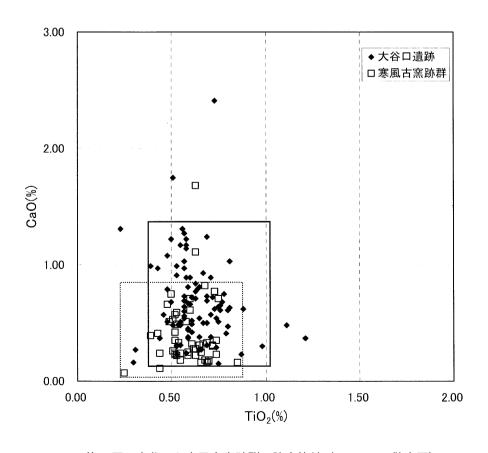
第3図 調査区 4-2 出土須恵器の器種別の胎土比較(K<sub>2</sub>O-CaO 散布図)



第4図 調査区9出土須恵器の器種別の胎土比較(K<sub>2</sub>O-CaO 散布図)



第5図 大谷口と寒風古窯跡群の胎土比較(K<sub>2</sub>O-CaO 散布図)



第6回 大谷口と寒風古窯跡群の胎土比較(TiO<sub>2</sub>-CaO 散布図)

No.	遺跡名	調査区名	層位	器種	種類	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	MnO	MgO	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	$P_2O_5$	備考
1	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	70.92	0.61	17.98	4.87	0.06	1.57	0.49	1.31	1.93	0.06	
2	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯蓋	須恵器	67.64	0.60	16.81	8.62	0.13	1.42	0.66	2.31	1.56	0.01	焼き歪有り
3	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	69.46	0.63	16.39	5.22	0.21	1.55	0.84	2.92	1.91	0.10	複数融着
4	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯蓋	須恵器	70.66	0.76	17.19	5.22	0.07	1.51	0.61	2.39	1.25	0.16	完形品
5	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯蓋	須恵器	67.49	0.75	18.44	5.19	0.08	1.69	0.64	2.21	1.51	1.80	完形品、歪有り
6	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	69.73	0.81	17.23	5.63	0.09	1.58	0.63	2.37	1.61	0.13	
7	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	69.89	0.63	17.83	5.33	0.07	1.53	0.71	1.95	1.77	0.11	
8	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯蓋	須恵器	69.53	0.58	18.42	4.31	0.08	1.06	1.14	1.07	1.52	2.12	
9	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	70.02	0.51	17.18	4.41	0.12	1.57	1.75	1.80	2.20	0.11	
10	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	高杯	須恵器	71.10	0.61	17.63	5.26	0.07	1.44	0.72	1.15	1.65	0.17	脚部欠損
11	大谷口遺跡	調査区 4-2	表採	大甕	須恵器	68.74	0.67	19.61	5.28	0.10	1.35	0.93	1.29	1.68	0.16	口縁部 波状文
12	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	甕	須惠器	72.12	0.61	16.88	4.69	0.05	1.33	0.52	1.67	1.84	0.15	胴部 車輪紋
13	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	鉢	須恵器	71.53	0.57	17.11	4.61	0.06	1.42	0.54	2.17	1.58	0.21	
14	大谷口遺跡	調査区 4-2	土壙2埋土	台付壺	須恵器	71.81	0.65	17.37	3.82	0.07	1.16	0.54	0.47	1.53	2.37	脚端部·口縁部欠損
15	大谷口遺跡	調査区 4-2	土壙2埋土	壺	須恵器	69.41	0.57	17.97	4.57	0.05	1.61	0.64	2.67	1.93	0.17	底部のみ
16	大谷口遺跡	調査区 4-2	土壙2埋土	台付壺	須恵器	69.08	0.76	18.85	5.36	0.06	1.57	0.65	1.72	1.59	0.16	
17	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	悪	須恵器	69.87	0.79	19.46	4.89	0.07	1.37	0.41	1.37	1.42	0.17	口縁部のみ「へ」の印
18	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	脚部のみ	須惠器	67.17	0.73	18.00	5.26	0.15	1.51	2.41	2.77	1.63	0.16	
19	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	(瓦泉)	須惠器	71.55	0.69	17.71	4.25	0.08	1.64	0.73	1.41	1.59	0.15	口縁部欠損
20	大谷口遺跡	調香区 4-2	包含層	(瓦泉)	須恵器	68.65	0.58	19.03	4.83	0.07	1.48	0.89	2.39	1.67	0.13	口縁部欠損
21	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯蓋	須恵器	67.88	0.57	19.60	4.68	0.06	1.67	0.73	2.69	1.73	0.15	
22	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	73.16	0.75	15.64	4.84	0.07	1.41	0.51	2.11	1.21	0.21	
23	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	68.54	0.53	20.43	4.58	0.06	2.67	0.31	1.15	1.45	0.09	高杯かも?
24	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	高杯	須恵器	67.76	0.57	18.91	5.25	0.08	1.59	1.03	2.81	1.61	0.10	脚部
25	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	68.34	0.69	18.04	5.09	0.08	1.45	1.24	3.06	1.66	0.20	
26	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯蓋	須恵器	70.43	0.65	17.71	4.46	0.07	1.46	0.54	2.28	2.06	0.16	
27	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層(下)	高杯	須恵器	69.33	0.72	18.25	5.18	0.09	1.51	0.72	2.39	1.46	0.19	透かし無脚部~杯底部
28	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層 (下)	壺?	須恵器	73.31	0.74	16.92	4.06	0.06	1.35	0.29	1.65	1.20	0.21	竹管紋あり
29	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層(下)	(瓦泉)	須惠器	68.66	0.60	18.84	4.80	0.07	1.46	0.89	2.56	1.70	0.17	口縁部欠損
30	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層(下)	窯壁	須恵器	75.95	0.48	12.45	4.25	0.16	1.44	0.79	2.11	1.94	0.19	47
31	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含曆	こね鉢	須恵器	68.53	0.57	19.01	4.99	0.07	1.61	0.69	1.89	2.22	0.12	
32	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	70.74	0.74	17.81	4.19	0.07	1.58	0.54	2.53	1.33	0.23	
33	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	涎	須恵器	74.51	0.66	14.37	3.92	0.05	1.51	0.27	3.08	1.26	0.22	
34	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	短頸壺	須恵器	68.43	0.51	18.78	4.89	0.06	1.58	0.48	3.19	1.68	0.17	
35	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	短頸壺	須恵器	72.12	0.71	16.66	5.05	0.06	1.39	0.38	1.59	1.67	0.18	
36	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	短頸壺	須恵器	71.23	0.55	17.95	4.66	0.04	1.32	0.48	1.53	1.95	0.11	
37	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	甕	須恵器	69.25	0.64	18.13	4.81	0.09	1.61	0.79	2.55	1.77	0.21	
38	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	発	須恵器	71.28	0.57	18.23	3.54	0.04	1.21	0.56	1.35	1.96	1.04	
39	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	樂	須恵器	71.33		17.82	3.51	0.05	3.01	0.30	1.79	1.31	0.17	
40	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	ミニチュア壺	須恵器	69.65	0.81	18.19	5.41	0.08	1.61	1.03	1.56	1.37	0.14	
41	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	高杯	須恵器	70.53	0.65	17.54	5.49	0.08	1.58	0.38	1.41	1.97	0.17	
42	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	台付壺	須恵器	69.65		18.28	4.65	0.06	1.42	0.68	1.11	1.53	-	
43		調査区 4-2	包含層	大甕	須恵器	69.60		18.43	4.50	0.06	1.48	0.48	2.61	1.78		
44	大谷口遺跡	調査区 6-1	中層	杯身	須恵器	67.47		19.71	5.14	0.08	1.64	0.81	2.49	1.55	0.21	
45	大谷口遺跡	調査区 12	表土	横瓶	須恵器	67.03		20.18	5.04			0.69	2.65		-	
46	大谷口遺跡	調査区 12	表土	窯壁	須恵器	79.38		11.63	3.44	0.07	1.29	0.57	0.78			
47	大谷口遺跡	調査区 17	下層	横瓶	須恵器	70.46	0.71	16.67	5.55	0.08	1.42	0.57	2.75	1.41	0.21	

No.	遺跡名	調査区名	層位	器種	種類	SiO <sub>2</sub>	TiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	MnO	ΜσΩ	CaO	Na <sub>2</sub> O	K <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	備	考	
48	大谷口遺跡	調杏区 5	灰色土層(3層?)	HIL LINE.	須恵器	65.83	-	20.22	6.02	0.09	1.44	1.27	2.49	1.68	0.16	PHI		
50	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	台付壺	須恵器	71.25	0.98	18.57	3.28	0.04	2.82	0.30	1.63	0.86	0.12			
51	大谷口遺跡	調査区4-2	包含層	壺	須恵器	69.91	0.59	18.23	5.22	0.07	1.47	0.45	1.98	1.68	0.13			
52	大谷口遺跡	調査区 9	包含層	杯蓋	須恵器	71.94	1.21	18.13	4.23	0.06	1.33	0.37	1.30	1.05	0.19			
53	大谷口遺跡	調査区9	包含層	杯身(高台付)	須恵器	70.62	0.78	17.06	5.23	0.07	1.62	0.75	1.10	1.28	1.35			
54	大谷口遺跡	調香区9	包含層	蹇	須恵器	67.18	0.75	19.78	5.44	0.07	1.68	1.17	2.22	1.59	0.11			
55	大谷口遺跡	調査区9	包含層	空壁	24/25/BF	73.93	0.30	14.55	3.47	0.08	1.60	0.16	3.07	2.44	0.11			
56	大谷口遺跡	調査区9	包含層	杯蓋	須恵器	69.77	0.48	19.68	3.43	0.05	2.95	0.10	1.39	1.44	0.11			
57	大谷口遺跡	調査区9	包含層	鉢?	須恵器	66.93	0.80	18.49	7.72	0.03	1.98	0.47	1.34	1.73	0.11			
58	大谷口遺跡	調査区 9	包含層	大甕	須恵器	67.71	0.69	19.57	4.42	0.08	1.60	0.50	3.63	1.46	0.14			
59	大谷口遺跡	調査区 9	包含層	水蓋	須恵器	65.83	0.53	21.44	5.74	0.08	2.97	0.99	1.13	1.05	0.06			
60	大谷口遺跡	調査区9	包含層	杯身(高台付)	須恵器(生)	67.45	0.88	19.85	5.48	0.10	1.37	0.62	1.18	1.87	0.96			
63	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	杯身	須恵器	69.37	0.43	19.51	4.49	0.06	1.22	0.97	1.14	2.34	0.20			
64	大谷口遺跡	調査区 9	大溝埋土	鉢	須恵器	72.36	0.43	17.26	3.48	0.04	1.77	0.23	2.54	1.36	0.25			
65	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	蓋	須恵器	70.04	0.80	18.66	4.63	0.04	1.49	0.23	2.01	1.37	0.25			
66	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	M.	須恵器	68.28	0.54	19.59		0.05	1.68	0.01	2.87	1.95	0.21			
67	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	蓋	須恵器	69.20	0.54		4.14	0.05	1.08	1.08	2.87	1.95	0.19			
68	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	鉱	須恵器	66.94	0.48	19.42	5.39	0.07	1.69	0.62	3.17	1.56	0.18		—	
69	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	大甕	須恵器	69.20	0.73	19.43	4.45	0.09	1.51	0.02	2.24	1.49	0.22			
70	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	平瓶	須恵器	71.37	0.33	16.97	3.80	0.05	1.59	0.38	3.34	1.43	0.14			
71	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	杯(高台付)	須恵器	74.05	0.55	16.61	3.36	0.05	1.39	0.23	1.96	1.42	0.17			
72	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	杯身	須恵器(生)	68.52	0.50	21.26	3.75	0.03	2.68	0.51	1.06	1.15	0.10			
73	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	杯身(高台付)	須惠器	70.68	0.53	18.01	4.53	0.04	1.45	0.00	1.22		0.09			
74	大谷口遺跡	調査区 4-2	表採		須恵器	70.00	0.63	17.25	4.53	0.07			3.25	2.11				
75	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	台付鉢 	須惠器	70.01	0.63	17.25	3.76	0.07	2.85	0.77	1.24	1.69	0.13			
76	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯蓋:	須恵器	70.38	0.55	17.46	4.88	0.06	1.51	0.51	2.39	1.22	0.10			
77	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	高杯	須恵器	70.38	0.57	17.13	5.11	0.08	1.39	0.60	2.61	1.91	0.08			
80	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身	須恵器	69.69	0.71	17.13	4.96	0.08		0.89	2.52	1.51	0.19			
82	大谷口遺跡	調香区 1-2	包含層(暗灰色土)	杯身	須恵器	67.08	0.71		5.13	0.09	1.41	1.22	2.96	1.62	0.24			
	大谷口遺跡		包含層(暗灰色土)		須恵器		0.57				1.51	0.97			0.15			
	大谷口遺跡	調査区 1-2	包含層(暗灰色土)		須恵器	69.05	0.67	18.38	5.28	0.08	1.49	0.50	2.34		0.13			
	大谷口遺跡	調査区 1-2	包含層(暗灰色土)		須恵器		0.67								0.22			
				蓋		71.33			4.79	0.05	1.29	0.27	1.99	1.31				
	大谷口遺跡	調査区 1-2	包含層(暗灰色土)	盖	須恵器	68.65		18.90	4.68	0.08	1.47	1.17	2.32	1.55	0.29			
87	大谷口遺跡	調査区 1-2	包含層(暗灰色土)	大甕 蓋	須恵器	71.08		20.62	5.63	0.08	1.61	0.67	2.27	1.76	0.12			
88	大谷口遺跡	調査区 1-2	包含層(暗灰色土)		須恵器 須恵器	71.08	0.69	16.89	4.71	0.07	1.62	0.31	1.93	1.51	0.21			
-	大谷口遺跡	調査区 1-2	包含層(町灰巴工)	杯身 杯蓋	須惠器	71.62	0.61	17.84	3.96	0.07	1.45		2.68	0.91	0.17			
	大谷口遺跡	調査区 1-1	包含層 (下)		須惠辭		1.11	15.69	6.35	0.04	1.02	0.15	0.75		0.19			
	大谷口遺跡	調査区 1-1		蓋 円面砚	須惠器	72.63 66.29		21.63				0.48		1.11	0.28			
-	大谷口遺跡		包含層 (下)	硯?			0.39	17.52	3.61	0.06	3.01	0.99	2.52					
		調査区 1-1	包含層(下) 表十~包含屬		須恵器 須恵器	72.32			3.06	0.05	1.38	0.37	2.59	1.66	0.20			
	大谷口遺跡		表土~包含層	窯壁 空器		75.84		12.29	2.91		2.00	1.31	2.80	2.63				
	大谷口遺跡	調査区 1-1	包含層(下) 	窯壁	須恵器	76.35	0.31	13.03		0.06	2.90	0.27	2.89	1.24	0.22			
$\vdash$	大谷口遺跡	調査区9	大溝埋土	蓋 松 良	須恵器	73.08	0.59	17.33	3.96	0.06	1.29	0.81	0.98	1.53	0.11			
$\vdash$	大谷口遺跡	調査区 1-1	包含層 (下)	杯身	須恵器	68.16	0.56	19.22	5.39	0.06	1.61	1.31	2.51	1.44	0.14			
	大谷口遺跡	調査区 4-2	包含層	杯身 緊急で明(社長の)	須恵器	70.11	0.58	17.16	4.59	0.09	1.55	1.22	2.51	1.85	0.14			
$\vdash$	大谷口遺跡	調査区 1-2	暗灰褐色粘質土	器種不明(鉢か?)	須恵器	72.14	0.58	17.61	4.73	0.06	1.40	0.24			0.17			
111	山田辻畑遺跡	表採調査区3)		杯身(高台付)	須恵器	67.19	0.59	20.75	4.74	0.07	2.87	0.44	1.58	1.39	0.09			

				•	
	•				

## 大谷口遺跡 遺物観察表

2 調査区1 包含層 (下) 弥生土器 壺 (5.8) - 84 ナデ ミガキ にぶい黄橙 にぶい黄橙 にい黄橙 についてら/3 10YR6/1 3 調査区1 包含層 (暗灰色土) 須恵器 杯蓋 4.0 11.7 - 回転ナデ 回転ヘラケズリ 灰白 N7 灰 N6 石英 0.1 1.7 - 回転ナデ オサエ 灰 5Y6/1 灰 N6 0.5 mmの の	1 mm  の長石  石英  2 mm 1 mm  石英	備考
調査区   製金区   製金区   製金区   包含層 (下)   弥生土器 壺 (58)   - 8.4	石英・赤粒 2 mm 1 mm 0 長石 石英 2 mm 1 mm 0 長石 石英 2 mm 1 mm 0 長石	
2   調査区   包含層 (下)   原生工器 室 (5.8)   -   8.4   ナア ミカキ   10YR6/3   10YR6/1   長石 / 2   2   3   3   3   3   3   3   3   3	2 mm L mm ) 長石 石英 () mmの長石	
3   調査区1   包含層 (暗灰色土) 須恵器 杯金   4.0   11.7   回転ハラケズリ   灰白   灰   灰   灰   灰   大   大   大   大   大   大	1 mm  の長石  石英  2 mm 1 mm  石英	
4 調査区1     包含層(略灰色土)     須恵器 杯身     4.1     10.4     - 内面:回転ナデ オサエ 灰黄 欠黄 2.5 Y7/2     灰黄 次黄 2.5 Y7/2     長石・2       5 調査区1     包含層(下)     須恵器 杯身     4.0     10.8     - 回転ナデ 回転ヘラケズリ     灰 5 Y6/1     灰 6 5 Y7/1     長石・2       6 調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯妻     (3.5)     (11.4)     - ケズリ 内面:回転ナデ 回転ヘラケズリ     灰 6 10 Y7/1     長石・2       8 調査区1     包含層(下)     須恵器 杯蓋 (2.2)     つまみ径 2.4     - 回転ナデ 回転・ラケズリ     灰白 5 Y7/1     灰白 5 Y7/1     長石・2       9 調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 (2.8)     つまみ径 2.1     - 回転ナデ 回転・ラケズリ     灰白 5 Y7/1     灰白 5 Y7/1     長石・2       10 調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 (0.9)     (10.9)     - ラケズリ     灰白 5 Y7/1     灰白 N7 灰白 万英・2       11 調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 2.0     (16.8)     - 外面:回転ナデ 灰白 5 Y7/1     灰白 5 Y7/1     灰白 5 Y7/1     灰白 5 Y7/1       12 調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 (0.7)     (17.3)     - 外面:回転ナデ 灰白 5 Y7/1     灰白 5 Y7/1      アトラ 10 T 5 Y7/1       12 調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 (0.7)     (17.3)     - 外面:回転ナデ 万 5 Y7/1      アトラ 5 Y7/1      アトラ 5 Y7/1	石英 .0 mmの長石 .2 mm .1 mm .1 mm	
5 調査区1     包含層(下)     類惠器 杯身 4.0     10.8     - 回転ヘラケズリ     2.5Y7/2     2.5Y7/2     2.5Y7/2     長石・2       6 調査区1     包含層(暗灰色土)     須惠器 杯童 (1.8)     (1.4)     - ケズリ	.0 mmの長石 2 mm L mm 石英	
6     調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯身 (3.5)     (11.4)     - ケズリ 内面: 回転ナデ     灰白 5Y7/1     0.5 ~ 1       7     調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 (1.8)     2.1     - ナデ 原白 10Y7/1     10Y7/1     10Y7/1     10Y7/1     長石 0.2       8     調査区1     包含層(下)     須恵器 杯蓋 (2.2)     2.4     - 回転ナデ 回転・ラケズリ     灰白 5Y7/1     灰白 5Y7/1     長石 0.2       9     調査区1     包含層(下)     須恵器 杯蓋 (2.8)     2.1     - 回転ナデ 回転・ラケズリ     灰白 5Y7/1     灰白 5Y7/1     長石 0.2       10     調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 (0.9)     (10.9)     - 四転ナデ 月 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	2 mm 1 mm 石英 I mm	
7     調査区1     包含層(略灰色土)     須恵器 杯蓋 (2.2)     2.1     - サデ 10Y7/1     10Y7/1     10Y7/1     10Y7/1     長石 0.2       8     調査区1     包含層(下)     須恵器 杯蓋 (2.2)     24 - 回転ナデ 回転へラケズリ     英灰 2.5Y7/1     灰白 5Y7/1     反白 5Y7/1     万本 0.1       10     調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 (0.9)     (10.9)     - ウェズリ     灰白 0.5 ~ 1     万本 2.5Y7/1     2.5Y7/1     2.5Y7/1     2.5Y7/1     2.5Y7/1     0.5 ~ 1       12     調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 (0.7)     (17.3)     - 外面:回転ナデ     灰白 5Y7/1     灰白 5Y7/1     灰白 0.5 ~ 3	L mm 石英 L mm	
8     調査区1     包含層(下)     須恵器 杯蓋 (2.2)     つまみ径 2.4     - 回転ナデ 回転へラケズリ 2.5Y6/1 2.5Y7/1 石英 0.1       9     調査区1     包含層(下)     須恵器 杯蓋 (2.8)     つまみ径 2.1     - 回転ナデ 回転ヘラケズリ 灰白 5Y7/1 灰白 5Y7/1 長石 2.1       10     調査区1     包含層(暗灰色土) 須恵器 杯蓋 (0.9)     (10.9)     - 回転ナデ 自然釉 回転へ 反白 N7 反白 N7 反白 N7 石英 0.1       11     調査区1     包含層(暗灰色土) 須恵器 杯蓋 2.0     (16.8)     - 外面:回転ナデ 反白 5Y7/1 変子 0.5 ~ 1       12     調査区1     包含層(暗灰色土) 須恵器 杯蓋 (0.7)     (17.3)     - 外面:回転ナデ 反白 5Y7/1 灰白 0.5 ~ 3	L mm 石英 L mm	
9     調査区1     包含層(下)     須恵器 杯蓋 (2.8)     つまみ径 2.1     - 回転ナデ 回転へラケズリ     灰白 5Y7/1 灰白 5Y7/1 反白 5Y7/1 長石・2 回転・ファイズリ       10     調査区1     包含層(暗灰色土)     須恵器 杯蓋 (0.9) (10.9)     - 回転ナデ 自然釉 回転へテケズリ     灰白 N7 灰白 N7 灰白 N7 石英 0.1 石英 0.1 石英 0.1 円面:回転ナデ 内面:回転ナデ ステンパー 2.5 Y7/1 2.5 Y6/1 ロボナデ ステンパー 2.5 Y6/1 ロボナデ ステンパーステンパーステンパーステンパーステンパーステンパーステンパーステンパー	L mm	
10   調金区1   包含層 (暗灰色土) 須恵器 杯蓋   (0.9)   (10.9)   - ラケズリ		
11 調査区1 包含層 (暗灰色土) 須恵器 杯蓋 2.0 (16.8) - 外面:回転ナデ   灰白 黄灰 2.5Y7/1 2.5Y6/1   12 調査区1 包含層 (暗灰色土) 須恵器 杯蓋 (0.7) (17.3) - 外面:回転ナデ   灰白 5Y7/1   灰白 0.5~3	E mm	
12 調査以1 包含層(暗灰色土) 須恵器 杯蓋 (07) (173) ~ 外面:回転ナデ 灰白 5Y7/1 灰白 05~3	.0 mmの長石	
12	.0 mmの長石	
13   調査区1   暗灰褐色粘質土   須恵器(観?) (3.3)   回転ナデ   ナデヘラ描文   灰 7.5Y6/1   灰 7.5Y6/1   長石含・	ŧ	把手
14   調査区1   包含層 (暗灰色土) 須恵器 鉢 (1.8) 指オサエ   灰 N6   灰 N6   長石		把手部分のみ
15     調査区1     包含層(下)     須恵器 円面 現土 円面 現土 円面 現土 円面 現土 円面 現土 日本	この長石を に含む	
16   調査区1   包含層 (暗灰色土)   須恵器 大甕 (6.3) (40.2)   -   回転ナデ カキ目 波状文   灰白 N7   灰白 N7   表石		
17   調査区4   包含層   須恵器 杯蓋   5.0 (9.3)   一回転ナデ   灰白 N7   灰白 N7   長石 0.1	1 mm~	
18   調査区4   包含層   須恵器 杯蓋   3.9   (10.8)   一 内面: 回転ナデ   回転ナデ   回転ヘラ   灰 N6   灰 N6   長石 0.5   切り後回転ナデ	5 ~ 3.0 mm	
19   調査区4   包含層   須恵器 杯蓋 (5.2) (10.0)   外面: 回転ナデ 回転ヘラ	5 ~ 3.5 mm含む	
20   調査区4   包含層   須恵器 杯蓋   4.1   11.4   -   回転ナデ   灰 N6   灰白 N7   長石 0.2	2 mm~	
21     調査区4     包含層     須恵器 杯蓋     4.5     (12.4)     -     回転ナデ 切り離技法不明     灰白 N5     灰白 N6     長石 0.3		100 0 110
22 調査区4     包含層     須恵器 杯蓋 4.8 (11.4) - 回転ナデ     灰 N6 灰 N6 かずか!       内面:回転ナデ     サルデ	に微細な長石含む	
23 調査区4     包含層     須惠器 杯蓋 (4.0) (12.9)     - 外面:回転ナデ 回転ヘラ 関り後回転ナデ          変)	5 ~ 3.0 mm	
24 調査区4 包含層     須恵器 杯蓋 4.9 (12.4) - 回転ナデ 回転ヘラケズリ 灰白 N7 灰白 N7 長石	mm大の長石を含	
25 阿里区4 25百		
26   調査区4   包含層   須恵器 杯身 (4.0) (10.0) - 回転ナデ   灰白 N7   灰白 N7   長石   マス では N7   マス では	lm大の長石を含	
27     調金区4     包含層     須思益 体身 3.0 (10.4) (5.4) 四転デア     5PB5/1     5PB5/1     む		
28     調査区4     包含層     須恵器 杯身     3.0     (11.0)     一 回転ナデ     灰白 N7     灰白 N7     長石       29     調査区4     包含層     須恵器 杯身     3.9     (11.5)     - 内面:回転ナデ     褐灰     褐灰     0.5~2	.O mmの長石	
7.5YR6/1 7.5YR6/1 7.5YR6/1 30 編本区4 匀金屋 須車哭 杯身 41 (110) - 回転ナデ		
国軟ヘフケスリ   国軟ヘフケスリ		
内面: 回転ナデ   内面: 回転ナデ   内面: 回転ナデ   内面: 回転ナデ   内面: 回転ナデ   内面: 回転カラ   大 N5   灰 N5   大 N5   大 N5   大 N5   1 ~ 4 m   1 m	後の石英 mmの長石	
図面:回転ナデ	() mmの長石	
	ana > pc.14	
四歌ペファスリ   35   編春区 4   包会屋   須恵器 杯巻 (12) 35   外面:回転ナデ   灰 5 7 6 / 1   反 5 7 6 / 1   0.5 ~ 2	.0 mmの長石	つまみ部分
	.0 mmの長石	のみ
内面: 回転ナデ	20 mmの長石	
38   調査区4   包含層   須恵器 高杯 (7.4)   回転ナデ 凹線   灰 N6   灰 N6   反 N6   石英 0.3		脚部2段透かし

39   調査区4   包含層   須恵器 高杯 (8.1)   (12.5) -   回転ハラケズリ   灰白 N7   灰白 N7   灰白   四重な	N7 長石、石英 N7 長石 N6 長石 N6 長石 N6 長石 0.5 ~ 2.0 mm 黒色鉱物 0.5 ~ 2.0 mmの長 N6 長石 N6 日長石 N6 日長田 N6 日長石 N6 日長田 N6 日長田 N6 日長田 N6 日長田 N6 日長田 N6 日長田 N6 日民	2.0 mm
10   10   10   10   10   10   10   10	N7 長石 N6 長石 N6 長石 0.5~2.0 mm 黒色鉱物 0.5~2.0 mm~4.5 N6 長石 0.5 mm~4.5 N6 長石 N6 長石 N6 長石、石英 N6 長石、石英 N6 長石、石英 N6 長石、石英 N7 長石 0.5~1.0 mm 黒色鉱物 0.1~2 mm 大の	2.0 mm
41 調査区4 包含層   須恵器 高杯 (6.3) - 9.4 回転ナデ   灰 N6   灰   横成   包含層 (下)   須恵器 高杯 9.0 - (11.1)   内面: 回転ナデ   日転ナデ   日本ナデ   日本・ラケズリ   日本・ラケズリ   「下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下 下	N6 長石 N6 長石 0.5 ~ 2.0 mm 黒色鉱物 0.5 ~ 2 N6 長石 0.5 mm~ 4.5 N6 長石 N6 長石、石英 N6 長石 N6 長石、石英 N6 長石、石英 N6 長石、石英 N7 長石 0.5 ~ 2.0 mmの長 展石 0.5 ~ 2.0 mmの長 の1 で 2 mm大の1	2.O mm
42   調査区4   包含層 (下)   須恵器 高杯   9.0   - (11.1)   内面: 回転ナデ   福灰   5YR6/1   灰   月面   5YR6/1   万   月面   7 月面	N6     長石 0.5 ~ 2.0 mm       黒色鉱物 0.5 ~ 2       N6     長石 0.5 mm~ 4.5       N6     長石       N6     長石、石英       N6     長石       N6     長石       N6     長石       N6     長石       N6     長石       N6     長石、石英       N7     長石 0.5 ~ 1.0 mm       黒色鉱物     0.1 ~ 2 mm 大の	2.O mm
42   調査区4   包含層 (F)   須恵器 高杯 90 - (11.1)   外面:回転ナデ後回転ナデ 5YR6/1   灰   // / // // // // // // // // // // //	N6 黒色鉱物 0.5~2 N6 長石 0.5 mm~ 4.5 N6 長石 N6 長石、石英 N6 長石 N6 長石 N6 長石 N7 長石 0.5~2.0 mmの長 N7 長石 0.5~1.0 mm 黒色鉱物 0.1~2 mm大の2	2.O mm
43   調査区4 表採   (根型語 合付   (7.5)   -   -   削り後回転ナデ   凹線2条   灰 N6   灰   八百: 回転ナデ   四転・デ   一	N6 長石 N6 長石、石英 N6 長石 N6 長石 N6 長石、石英 N7 長石 0.5 ~ 2.0 mmの長 N7 長石 0.5 ~ 1.0 mm 黒色鉱物 0.1 ~ 2 mm大の:	
44   調査区4 包含層   須恵器 (腺) (6.6) ハラナデ   灰 N6   灰   大	N6 長石、石英 N6 長石 N6 0.5~2.0 mmの長 N6 長石、石英 N7 長石 0.5~1.0 mm 黒色鉱物 0.1~2 mm大の:	<b>3</b> 4
45   調査区4   包含層 (下)   須恵器 (泉) (5.7) -   回転ナデシボリ   灰 N6   灰   横を	N6 長石 N6 0.5~2.0 mmの長 N6 長石、石英 N7 長石 0.5~1.0 m 黒色鉱物 0.1~2 mm大の:	石
46   調金区4   包含層   須恵器   須恵器   毎頭   (6.5)   -   回転ナデ	N6 0.5 ~ 2.0 mmの長 N6 長石、石英 N7 長石 0.5 ~ 1.0 m 黒色鉱物 0.1 ~ 2 mm大の:	·石
47   調査区4   包含層   20	N6 長石、石英 N7 長石 0.5 ~ 1.0 m 黒色鉱物 0.1 ~ 2 mm大の:	石
48   調査区4   包含層   須恵器 短頭   10.9   (7.0)   -   回転ナデ   回転ヘラケズリ	N7 長石 0.5 ~ 1.0 m 黒色鉱物 0.1 ~ 2 mm大の:	
49     調査区4     包含層(下)     須恵器 壺 (5.9)     - 内面:回転ナデ 外面:回転へラ削り後回転 アンス 5元 7 竹管紋あり     明オリーブ アンス 5元 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7 7	黒色鉱物 0.1 ~ 2 mm大の:	
50   調査区4   土壌2 埋土   須恵器 壺 (9.1)   回転ヘラケズリ   灰 N6   灰     51   関査区4   包含層   須恵器 壺 (11.9)   回転ヘラケズリ   灰白 N7   灰     52   調査区4   土壌2 埋土   須恵器 脚付   (14.0)   回転ヘラケズリ   回転ヘラケズリ   回転ヘラケズリ   回転ヘラケズリ   回転・デ 凹線   灰白 N7   灰白   ステータ   大石   大石   大石   大石   大石   大石   大石   大	0.1~2 mm大の:	n
51	N6 t	長石を含
10 回転ヘラケズリ   回転ヘラケズリ   回転ヘラケズリ   回転ヘラケズリ   回転ヘラケズリ   回転ヘラケズリ   原白 N7   灰白 N7   灰白   3 調査区4   土壌2埋土   須恵器 脚付 (14.0)   回転ヘラケズリ   回転ヘラケズリ   回転・ラケズリ   回転・ラケズリ   回転・ラケズリ   円線	N5 長石 0.3 mm	
52   調金区4   土壌 2埋土   売   (11.0)   -   回転ナデ   凹線   灰日 N7   灰日 N7   灰日   153   調金区4   土壌 2埋土   売   原内 N7   灰白   回転ハラケズリ   原内 N7   灰白 N7   灰白   同転ナデ   凹線   回転ハラケズリ   原内 N7   灰白   内面: 回転ナデ   回転ハラケズリ   内面: 回転ナデ   内面: 回転ナデ   円線 1 条	01~1 mm 大の:	長石を含
53   調金区 4   工廠 2 理工   壺	N7 &	
54   調査区4   包含層   虚	N7 0.5 mm大程の長石	うを含む
	N7 長石 0.2 mm	
55   調査区 4   包含層   須恵器 鉢   10.6   (14.3)   -	N7 長石 0.5 ~ 3.0 m	m
56 調査区4 包含層   須恵器 ミニ (3.4) - 2.1   外面: 回転ナデ 回転ヘラ 灰 N6 灰 ケズリ 凹線	N6 0.5 mmの長石	ミニチュア 口縁部欠損
57 調査区4     包含層     須恵器 甕 (4.8) (16.0)     - 回転ナデ タタキ あて具痕     灰白 7.5Y7/1     灰白 16	0Y8/1 長石 1 mm~	ヘラ記号
58 調査区4     包含層     須恵器 大甕 45.0     21.0     -     ナデ 格子目タタキのちカキ目のちかます。	N7 長石	
59   調査区 4 表採   須恵器 大甕 (10.8)   外面:回転ナデ 波状文   黄灰   内面:回転ナデ 2.5Y6/1   灰	N6 0.1 ~ 0.5 mmの長	石
60   調査区4   包含層   須恵器 薨 (5.6) -	1 () 5 mm(/) 接点	
61 調査区4 包含層 須恵器 薨 (6.7) 回転ナデ	N6 長石 0.3 mm	
62   調査区4   包含層   須恵器 - 翌 (5.3)   回転ナデ   外面: 凹線施す 斜格子文   灰 10Y6/1   灰 5	黒色鉱物 Y6/1 長石 0.5 ~ 3.0 m	m
63 調査区4 包含層   須恵器 甕 (5.4)   外面:回転ナデ   灰 N6   灰白	N7 0.5~2.0 mmの長	長石 へラ記号
64 調査区4 土壌2埋土 須恵器 甕 (3.7) 内面: 回転ナデ   灰白 5Y7/1   ∇白 5Y7/1	5Y7/1 0.2 mm~ 0.5 mm Ø	)長石 へラ記号
65   調査区4   包含層   須惠器 - 甕   (7.5)   -   -   -   -   -   -   -   -   -	N7 長石 0.1 mm	車輸文
1 日本   1 日本	N7 長石	
67 覆本区 4 匀今届		車輪文
1		
69 調査区4     土壙 2 埋土     須恵器 不明 (3.2) 指オサエ     灰白 N7 灰白		
70   調査区 6 中層   須恵器 杯身 3.5 (10.8) (5.8)   外面: 回転ナデ 回転ヘラ 灰 N5 灰 10 削り後回転ナデ		ım
71   調査区 5   灰褐色粘質土層   須恵器 高杯 (5.1) -   9.8   外面: 回転ナデ	N6 0.5 ~ 2.0 mmの長	長石 脚部のみ
72 謝本区12 表土	<u>+</u>	
10Y7/1   10Y   10Y7/1   10Y   73   調査区17 下層   須恵器 平瓶 (5.0) 5.4 - ナデ   灰 N6   灰	1 10 /-	

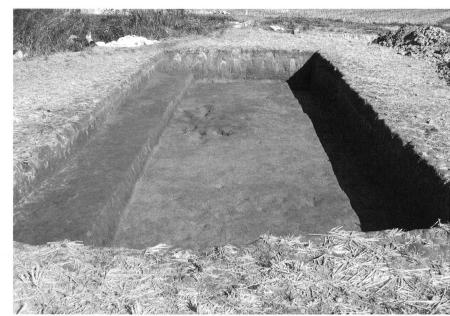
番号	調査区名	遺構名・層位	器種	L		:量(cm		調整		調	胎土	備考
出力	四旦口口	25.115.4日 7月1年	661年	器	高(残高)	口径	底径		外面	内面		νπ '''
74	調査区5	灰褐色粘質土層	上師器 著	甕 (	(12.3)	(14.8)	_	外面: ヨコナデ 凹線 沈 線 オサエ→ハケ 内面: ケスズリ→板ナデ ヨ コナデ	橙 7.5YR7/6	灰黄褐 10YR6/2	0.1~1 mm大の石英・長石 雲母、赤色粒子含む	
75	調査区9	包含層	須恵器 村	杯蓋	(4.1)	(12.2)		回転ナデ ナデ?	灰 N6	灰白 N7	0.1 から 1 mm大の長石含 む	
76	調査区9	大溝埋土	須恵器 村	杯身	3.7	(9.5)	-	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	灰白 2.5Y8/1	灰黄 2.5Y7/2	0.5 mmの赤色粒子 0.5 ~ 1.0 mmの石英・長石	
77	調査区9	大溝埋土	須恵器 柞	杯蓋	(2.1)		_	外面:回転ナデ 内面:ナデ	灰 5Y6/1	灰 5Y6/1	0.2 ~ 0.5 mmの石英・長石	
78	調查区9	包含層	須恵器 村	杯蓋	3.2	(16.0)		外面:回転ナデ 回転ヘラ ケズリ 内面:回転ナデ	灰 5Y6/1	灰白 5Y7/1	1.0 mm大の石英・長石	
79	調査区9	包含層	須恵器 柞	杯蓋	3.0	(14.8)		回転ナデ ナデ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
80	調査区9	大溝埋土	須恵器 柞	杯蓋	3.0	15.6		回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰 5Y6/1	灰白 5Y7/1	長石 0.1 mm 石英 0.1 mm	
81	調査区9	大溝埋上	須恵器 柞	杯蓋	(2.2)	2.9	_	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白 5Y7/1	灰白 5Y7/1	長石・石英	
82	調査区9	大溝埋土	須恵器 柞	怀身	4.1	(12.2)	(6.4)	外面:回転ナデ 内面:回転ナデ	灰白 5Y7/1	灰 5Y6/1	0.2~1.0 mmの長石	
83	調査区9	大溝埋土	須恵器 村 (高台付)	杯身	5.1	(13.8)	8.0	回転ナデ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
84	調査区9	包含層	須恵器 村 (高台付)	杯身	3.3	(13.0)	(9.5)	回転ナデ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
85	調査区9	包含層	須恵器 村 (高台付)	怀身	4.3	13.8	10.4	回転ナデ ナデ	黄灰 2.5Y6/1	灰黄 2.5Y7/2	0.1 ~ 2 mm大の 石英、長石含む	
86	調査区9	大溝埋土	須恵器 村 (高台付)	怀身	4.5	(17.8)	(11.2)	外面:回転ナデ 回転ヘラ 削り後回転ナデ 内面:回転ナデ	にぶい黄橙 10YR7/2	にぶい黄橙 10YR7/2	石英 1.5 mm 長石 0.5 mm	
87	調査区9	大溝埋土.	須恵器 札 (高台付)	杯身	6.7	15.9	11.9	外面:回転ヘラケズリ 自 然釉 内面:回転ヘラケズリ	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	雲母 0.3 mm 長石 0.2 mm	
88	調査区 9	大溝埋土	須恵器 [	ш	3.4	(17.8)	(14.0)	外面:回転ナデ 回転ヘラ 削り後回転ナデ 内面:回転ナデ	灰白 2.5Y7/1	灰白 2.5Y7/1	長石 0.5 ~ 4.0 mm	
89	調査区9	包含層	須恵器 釒	鉢	(6.5)	(11.8)	-	回転ナデ	灰白 N5	灰白 N5	長石	
90	調査区8	大溝埋土	須恵器 ュ	平瓶	(5.9)	une	-	回転ナデ 回転ヘラケズリ	灰白 N7	灰白 N7	長石	
91	調査区9	大溝埋土			(4.3)	_	(8.1)	ナデ ヘラケズリ	灰白 7.5Y7/1	灰白 7.5Y7/1	長石・石英	
92	調査区9	包含層	須恵器 3	甕	(5.3)	(25.3)		回転ナデ	灰白 N7	灰白 7.5Y7	長石 0.1 mm	
93	調査区9	大溝埋土	須恵器	大甕	(7.6)	(39.2)	Name .	外面:回転ナデ 4~7条 のクシ描 波状文 内面:回転ナデ	灰 5Y6/1	灰白 5Y7/1	0.2 ~ 2.0 mmの長石	
94	調査区9	包含層	須恵器 3	差	(8.7)	_		外面:回転ナデ 波状文 内面:回転ナデ	灰 5Y5/1	灰 5Y6/1	0.2~ 0.5 mmの長石	
95	調査区9	大溝埋土	土師器 打	把手	(6.8)	(8.5)		指オサエ ナデ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4	長石・石英・雲母	
96	調査区9	包含層	土師器 音	<b>龍</b> (	(10.7)	(8.0)	-	ナデ 指オサエ	にぶい橙 7.5YR7/4	にぶい橙 7.5YR7/4		
Cl	調査区1	包含層 (下)	土製品 (陶馬?)		(6.0)	3.1	2.6	指オサエ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	長石・石英	獣足(馬か?
C2	調査区1	包含層	土製品		(5.3)	3.7	1.6	線刻	浅黄 2.5Y8/3	浅黄 2.5Y8/3	長石・石英	装飾部分

## 山田辻畑遺跡 遺物観察表

番号	調査区名	遺構名・層位	器種	污	t量(cm	1)	調整	色	調	胎土	備考
領方	神里区石	退得石 層世	石子仁里	器高(残高)	口径	底径	神能	外面	内面	ла 1.	佣伤
97	調査区3	貝塚上層	縄文土器 鉢	(2.9)	-	-	ナデ 刻み目	浅黄 5Y7/3	浅黄 5Y7/3	長石 0.1 mm 雲母 0.05 mm	
98	調査区3	表土~包含層	縄文土器 深鉢	(7.0)	_	_	内面:ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/3	0.5 ~ 2.0 mmの石英・長石 赤色粒 0.5 mmの黒色鉱物	
99	調査区3	貝塚下層	縄文土器	(2.7)	_	_	ナデ	黒 7.5YR2/1	にぶい褐 7.5YR6/3	長石 0.2 mm 石英 0.1 mm	
100	調査区3	貝塚下層	縄文土器	(2.9)	vivo	_	ナデ	黒 7.5YR2/2	にぶい褐 7.5YR6/4	長石 0.2 mm 石英 0.2 mm	
101	調査区3	貝塚下層	縄文土器	(2.3)	-	_	ナデ	黒 7.5YR2/3	にぶい褐 7.5YR6/5	長石 0.2 mm 石英 0.3 mm	
102	調査区3	表土~包含層	弥生土器 高杯	(8.8)	-	_	外面: ミガキ 4~5条の くし描直線文 内面: シボリ痕 ヘラケズ リ	にぶい黄橙 10YR7/4	にぶい黄橙 10YR7/4	0.5 ~ 2.0 mmの石英・長石	脚部のみ
103	調査区3	表土~包含層	弥生土器 鉢	(7.2)	(22.2)	-	外面:ハケ 内面:ヘラケズリ ナデ	にぶい黄橙 10YR7/3	にぶい黄橙 10YR7/2	石英 赤色粒子 長石 雲母	口縁部のみ
104	調査区3	包含層	土師器 高杯	(6.9)	_	(13.4)	磨耗している	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1	長石・石英	
105	調査区3	表採	須恵器 杯身 (高台付)	4.2	(14.7)	11.3	外面:回転ナデ ナデ 内面:回転ナデ ナデ	灰 5Y5/1	灰 5Y5/1	0.5 ~ 2.0 mmの長石	
106	調査区3	表土~包含層	瓦質・鍋	(4.1)	-	-	指オサエ ナデ	暗灰 N4	暗灰 N4	長石・石英・雲母	
107	調査区3	包含層	土師器 甑	(6.7)	-	(11.8)	ナデ 指オサエ	にぶい黄橙 10YR7/4	橙 7.5YR7/6	0.1~1 mm大の石英・長 石 赤色粒子含む	
СЗ	調査区3	表土~包含層	土師器 土錘	3.5	1.1	1.0	指オサエ	灰 7.5Y4/1	灰 7.5Y4/1	長石 0.2 mm 石英 0.1 mm 赤色粒子 0.1 mm	

# 大谷口遺跡 石器観察表

番号	調査区名	遺構名・層位	器種	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
SI	調査区4	表採 (包含層)	石鏃	2.0	1.6	0.2	0.75	サヌカイト
S2	調査区9	表採(包含層)	石鏃	2.1	1.5	0.3	0.83	サヌカイト
S3	調査区9	大溝埋土	石鏃	2.8	1.5	0.4	2.12	サヌカイト
S4	調査区4	表採 (包含層)	石鏃	3.0	1.5	0.2	1.54	サヌカイト

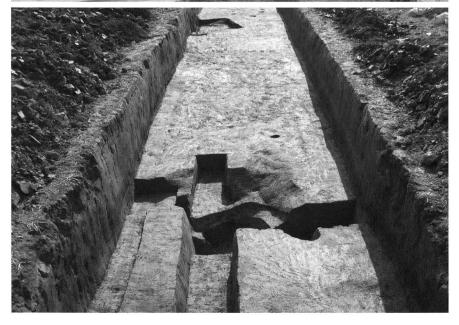


1 福里遺跡 調査区1完掘状況

(南から)



2 福里遺跡 調査区2土壙1調査状況 (西から)



3 福里遺跡 調査区2完掘状況

(北から)



1 福里遺跡 調査区3完掘状況 (南から)



2 福里遺跡 調査区3W 完掘状況 (南から)



3 福里遺跡 調査区4完掘状況 (北から)



1 福里遺跡 調査区4東壁土層断面 (北端部分西から)



2 福里遺跡 調査区 4 W 完掘状況 (南から)



3 福里遺跡 調査区3重機掘下げ状況 (北から)



1 大谷口遺跡 調査区北部近景 (南東から)



2 大谷口遺跡 調査区中央部近景 (北から)



3 大谷口遺跡調査区南部近景

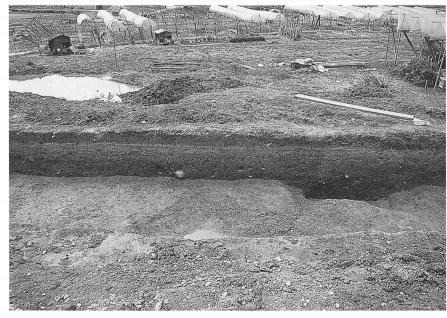
(北から)



1 大谷口遺跡 調査区 1-1 東壁土層断面 (西から)



2 大谷口遺跡 調査区 1 -1 西壁土層断面 (東から)



3 大谷口遺跡 調査区 1 -2 西壁土層断面 (東から)



1 大谷口遺跡 調査区2北壁土層断面 (南から)



2 大谷口遺跡 調査区3完掘状況 (北から)



3 大谷口遺跡 調査区 4-2 完掘状況 (南から)



1 大谷口遺跡 調査区 4-2 遺物出土状況 (北から)



2 大谷口遺跡 調査区 4-2 遺物出土状況 (北東から)



3 大谷口遺跡 調査区 4-2 遺物出土状況 (東から)



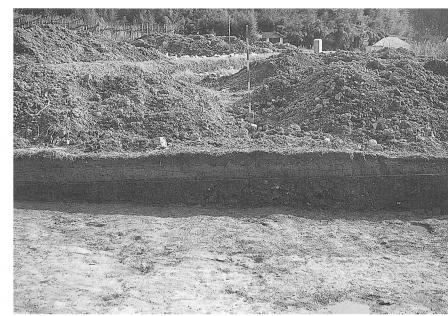
1 大谷口遺跡 調査区 4-2 炭化物検出状況 (西から)



2 大谷口遺跡 調査区 4-2 破礫集中状況 (北から)



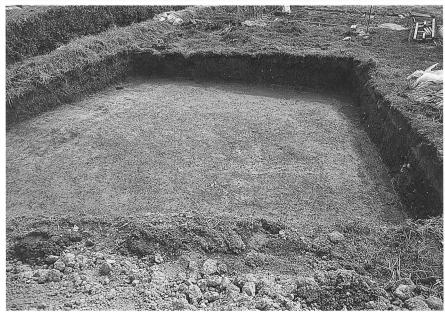
3 大谷口遺跡 調査区 4-1 調査状況 (西から)



1 大谷口遺跡 調査区 5 南壁土層断面 (北から)



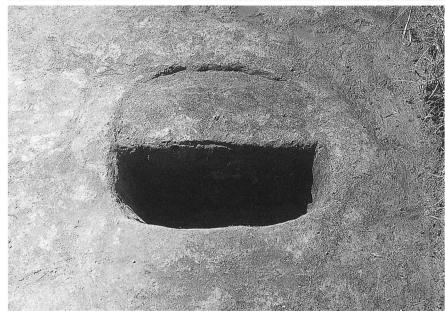
2 大谷口遺跡 調査区 6-1 完掘状況 (南から)



3 大谷口遺跡 調査区 6-2 完掘状況 (北から)



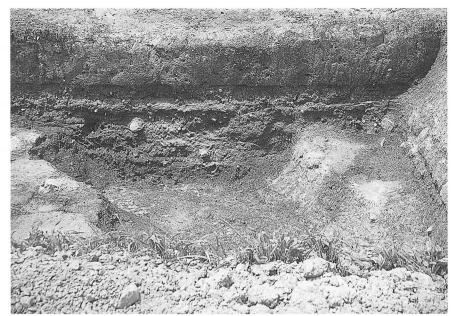
1 大谷口遺跡 調査区7完掘状況 (西から)



2 大谷口遺跡 調査区8柱穴1断面 (東から)



3 大谷口遺跡 調査区 9 完掘状況 (東から)



1 大谷口遺跡 調査区9西壁土層断面 (東から)



2 大谷口遺跡 調査区 10 完掘状況 (北東から)



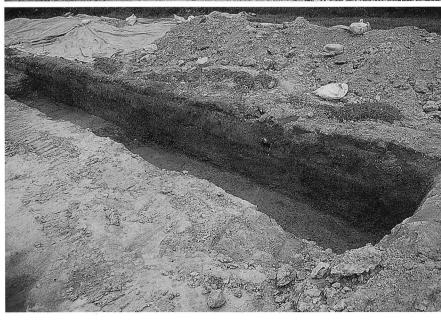
3 大谷口遺跡 調査区 11 東壁土層断面 (西から)



1 大谷口遺跡 調査区 12 完掘状況 (北から)



2 大谷口遺跡 調査区 12 東壁土層断面 (南西から)



3 大谷口遺跡 調査区 13 東壁土層断面 (南西から)



1 大谷口遺跡 調査区 14 西壁土層断面 (南東から)



2 大谷口遺跡 調査区 15 完掘状況 (南から)



3 大谷口遺跡 調査区 15 西壁土層断面 (北東から)



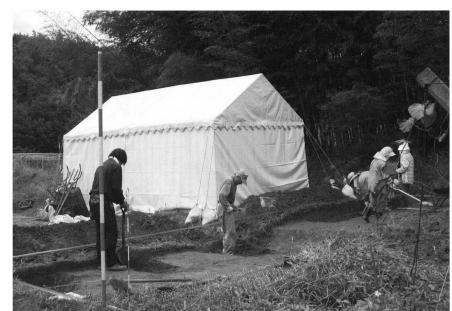
1 大谷口遺跡調査区 16 完掘状況(北東から)



2 大谷口遺跡 調査区 16 西壁土層断面 (南東から)



3 大谷口遺跡 調査区 17 東壁土層断面 (南西から)



1 北池向遺跡 調査区1調査状況 (北西から)



2 北池向遺跡 調査区2完掘状況 (北から)



3 北池向遺跡調査区3完掘状況

(南から)



1 北池向遺跡 調査区3土壙完掘状況 (西から)



2 北池向遺跡 調査区5完掘状況 (北から)



3 北池向遺跡 調査区近景

(東から)



1 山田辻畑遺跡遠景 (南西から)



2 山田辻畑遺跡 調査区 1 (南東から)

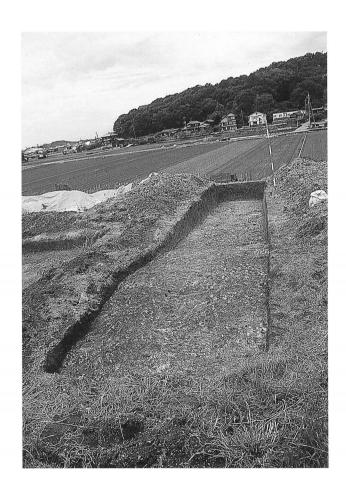


3 山田辻畑遺跡調査区1

(南から)



1 山田辻畑遺跡 調査区2東壁土層断面 (南西から)



2 山田辻畑遺跡 調査区2完掘状況 (東から)



1 山田辻畑遺跡調査区1・2近景(北東から)



2 山田辻畑遺跡 調査区3土壙1検出状況 (南から)



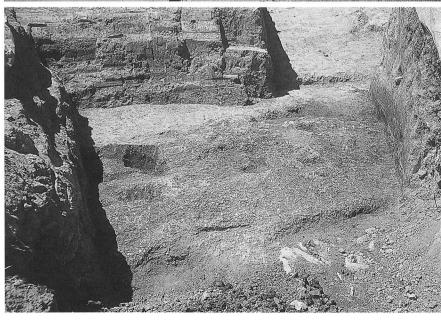
3 山田辻畑遺跡 調査区3土壙1完掘状況 (南から)



1 山田辻畑遺跡 調査区3完掘状況 (北から)



2 山田辻畑遺跡 調査区3貝塚検出状況 (北から)



3 山田辻畑遺跡 調査区3貝塚検出状況 (南から)



1 山田辻畑遺跡 調査区3貝塚調査状況 (北から)



2 山田辻畑遺跡 調査区3貝層断面

(東から)



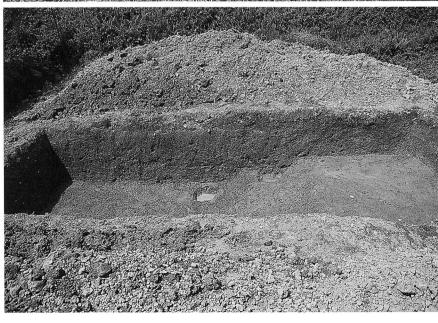
3 山田辻畑遺跡 調査区3西壁土層断面 (東から)



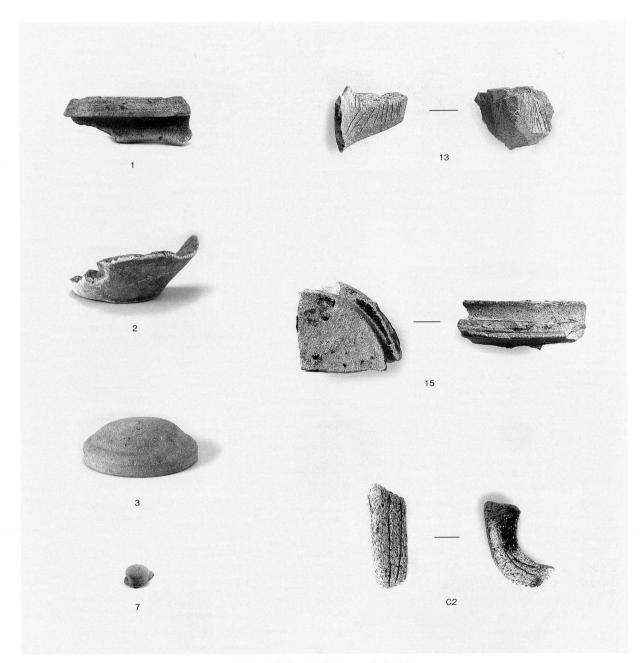
1 山田辻畑遺跡 調査区4完掘状況 (東から)



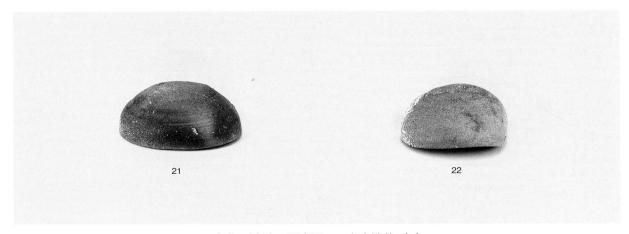
2 山田辻畑遺跡 調査区 5 完掘状況 (東から)



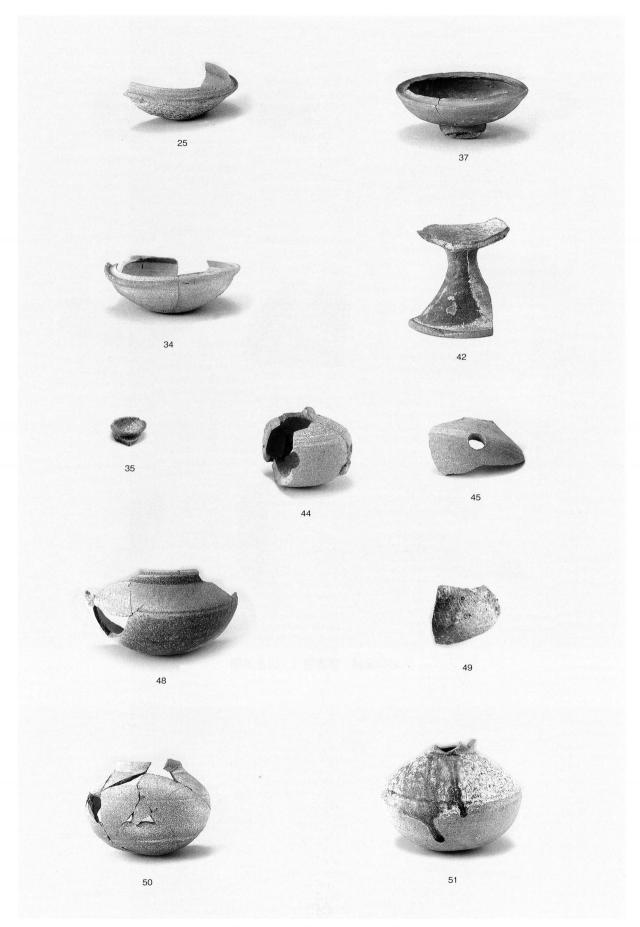
3 山田辻畑遺跡 調査区5北壁土層断面 (南から)



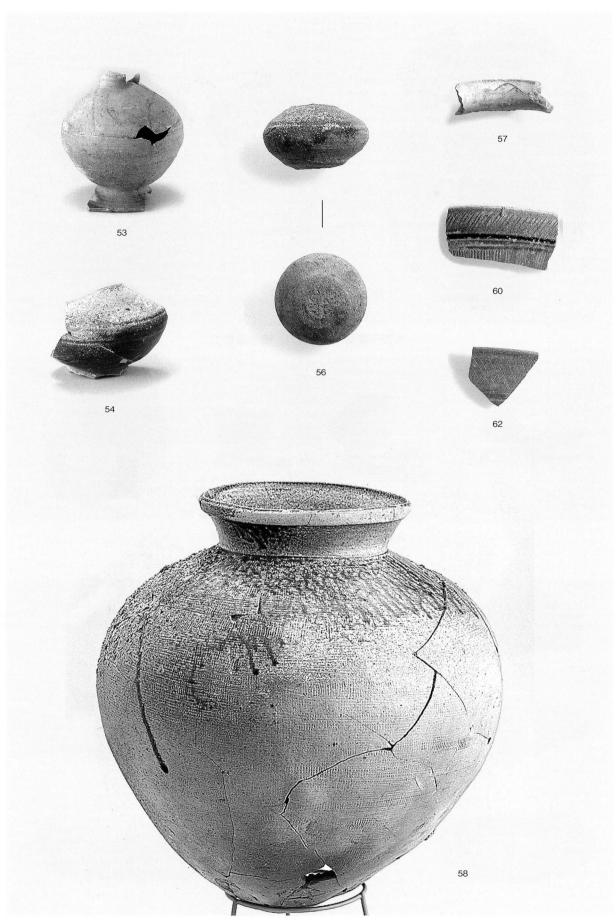
大谷口遺跡 調査区 1 出土遺物



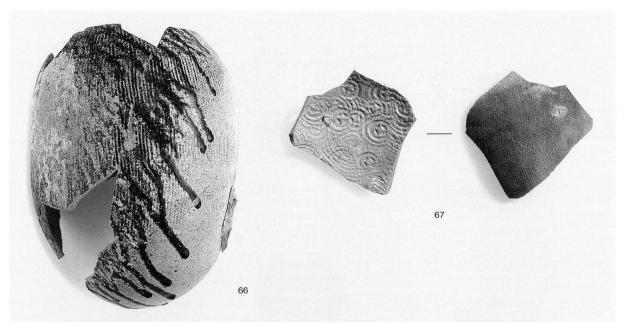
大谷口遺跡 調査区 4 出土遺物(1)



大谷口遺跡 調査区 4 出土遺物 (2)



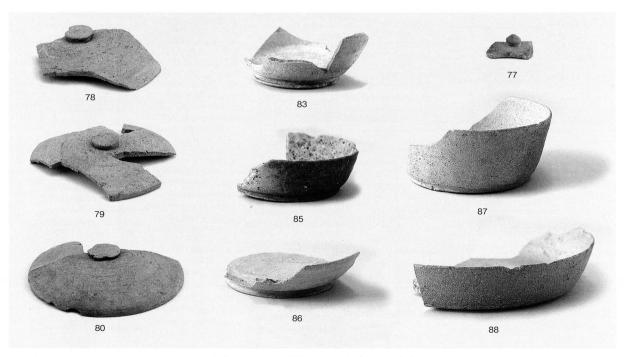
大谷口遺跡 調査区 4 出土遺物 (3)



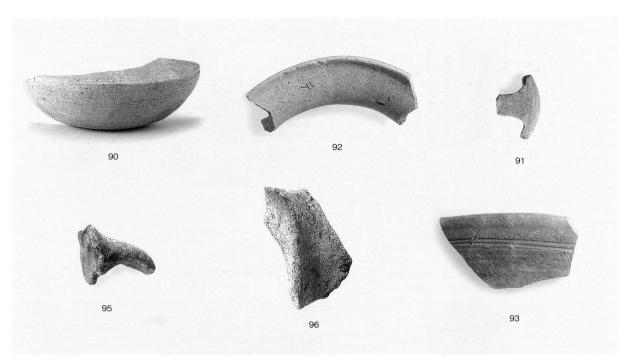
大谷口遺跡 調査区 4 出土遺物(4)



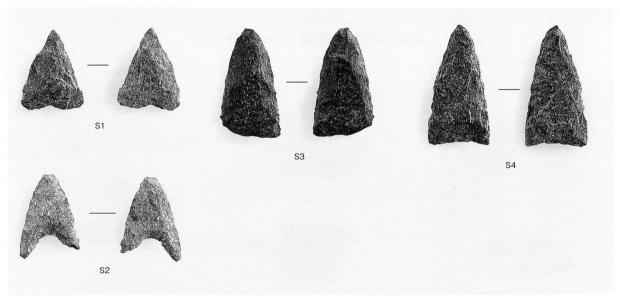
大谷口遺跡 調査区 5・6・12・17



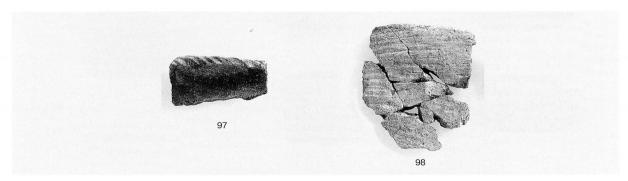
大谷口遺跡 調査区 9 出土遺物 (1)



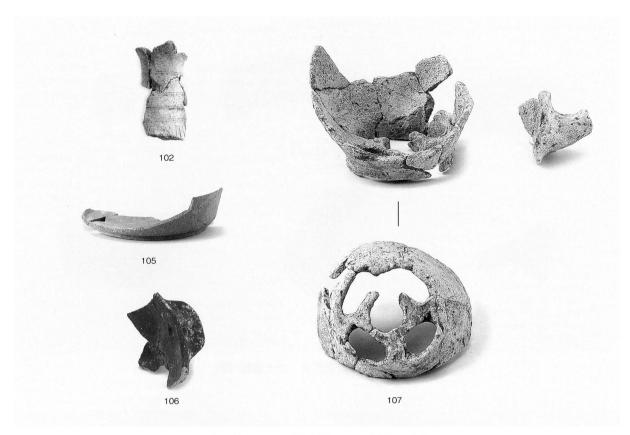
大谷口遺跡 調査区 9 出土遺物 (2)



大谷口遺跡 出土石器



山田辻畑遺跡 調査区3 出土遺物(1)



山田辻畑遺跡 調査区3 出土遺物(2)



参考資料 亀ヶ原1号窯跡 出土遺物

## 報告 書抄録

ふりがな	ふくさといせき・おおたにぐちいせき・きたいけむかいいせき・やまだつじはたいせき									
書 名	福里遺跡・大谷口遺跡・北池向遺跡・山田辻畑遺跡									
副 書 名	瀬戸内市道南北線新設工事に伴う発掘調査									
卷次										
シリーズ名										
シリーズ番号										
編著者名	大谷博志・白石 純									
編集機関	瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会									
所 在 地	〒 701-4392 岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓 4911 TEL 0869-34-5604									
発行年月日	2009年3月31日									
ふりがな	ふりがな	ふりがな コード			北緯	東経	200 -4-160 00	調査面積		
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡	香号	0 / //	。,,,, 調査期間		m²	調査原因	
as ( še k n t t t t t t t t t t t t t t t t t t	Bかやまけんせとうち 岡山県瀬戸内	33212			34°	134°	2007.10.29 ~ 2008.2.1	373	瀬戸内市道	
	しまさぶねちょうはじ 市長船町土師	**			69′	11′			南北線新設	
	1252-1 ほか				57′′	75′′			工事に伴う発掘調査	
おおたにぐちいせき	おかやまけんせとうち				34°	134°	2008.2.1 ~	1,082	78.3m p.q.zz.	
きたいけるがしだいせき (北池東田遺跡)	し おきふねちょうはじ 市長船町土師		:		68′	11′	2008.6.9			
	1776 ほか				51′′	50′′				
stollton v e s 北池向遺跡	おかやまけんせとうち間山県瀬戸内				34°	134°	2007.10.1 ~	100		
	市邑久町山手				68′	11′	2007.11.6			
	300 ほか				10′′	05′′				
やまだつじはたけいせき 山田辻畑遺跡	おかやまけんせとうち				34°	134°	2008.5.21 ~	268		
	市邑久町山手				67′	10′	2008.9.5			
	2030 ほか				17''	51′′				
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項		
福里遺跡	散布地	古墳時代		柱穴		須恵器、土師器				
**たにぐちいせき 大谷口遺跡 **をいけひがしだいせき (北池東田遺跡)	散布地	弥生時代 古墳時代 古代 中世		溝、土壙		弥生土器、須恵器円面硯· 杯・甕、窯壁 石鏃		散布地両斜面山腹に複数の須恵器窯の存在が うかがえる。		
北池向遺跡	散布地	古墳時								
やまだつじはなけいせき 山田辻畑遺跡	集落	縄文時代 弥生時代		貝塚		縄文土	縄文土器、甑、須恵器		当遺跡で初めて貝塚を確認する。	
								中医師がりる。	>	
		中世								
		1.18								

瀬戸内市埋蔵文化財発掘調査報告2

## 福里遺跡大谷口遺跡北池向遺跡山田辻畑遺跡

瀬戸内市道南北線建設に伴う発掘調査

平成21年3月31日 印刷 平成21年3月31日 発行

編集・発行

瀬戸内市教育委員会 瀬戸内市道南北線埋蔵文化財発掘調査委員会 瀬戸内市牛窓町牛窓4911

印 刷 友野印刷株式会社

